

講義をした。ブルームンバハの有名な『人種論』は二十三歳の時現はれた。ジェンナ
 ーが種痘法を思ひ付いたのは、二十歳前の事であつた。ブルルハーエは十一歳で拉典語
 と希臘語に通じて居つた。デトギーは二十歳の時プリストル氣學院の監督に任ぜられ
 た。フェネロンは十五歳で説教した。グレセーは二十四歳で有名な Ver Vert を書
 いた。ギルマンは十九歳でシャル、マニエ大學の教授となり、クーザンは十六歳で學士院の
 賞を得た。トマス・ブラウンは十八歳で Observations on Darwin's Zoonomia を著し、
 マックフォードは二十二歳で Vathek を書いた。オイレルは十八歳の時、船の操縦に關
 する論文を書いて、佛蘭西の學士院から推獎された。ホップスは十三歳の頃エウリピデ
 スの Medea を拉典詩に翻譯した。キケロは矢張十三歳で雄辯術に關する論文を書い
 た。ハラムは五歳で読み書きが自由に出来、九歳で本を著はした。

こんな例は挙げればまだあるが、天才がかくの如く大抵早熟であつたのは何故
 か。既に云つたやうに、子供が稟けて生れる稟賦は可能々力であつて、發揮されなければ
 それまでである。發揮されて初めて効力が生ずるのである。併し子供の稟賦がよく發揮
 されるには、早くから盛んに用ひられなければならない。早くから用ひられて初めて發
 揮されるのである。用ひられることが遅れるとよく發揮されない。天才が大抵早熟な譯
 はこゝにある。

併し予は、多くの天才が早熟であつたことから、彼等の中には早教育を受けたものが、
 案外多かつたらうと想像する。併し昔は、天才と早教育の關係が分つて居なかつた結
 果、傳記者がこゝに注意しなかつたのであらうと思ふ。天才や英才は、自力のそれか他
 力のそれか、兎に角早教育に由つて生ずる。早教育の結果、豊かな稟賦を稟けて生れた
 子供は大天才になり、十人並の子供でも、天才或は英才になるのである。而して謂はゆ
 る他力の早教育は、賢い親の與ふところであつて、自力の早教育は、好都合な境遇の賜
 物である。併し天才の早熟の例を見ると、如何に好都合な境遇に居つたとしても、自力
 の早教育即ち獨習だけに由つてこゝに至つたとは、どうしても思はれないものがある。

世には天才の能力は別誂へであつて、教育を施さなくとも獨りで發達するものと考へて居る人が多いが、これは大なる誤りである。

九

ところが傳記を見ると、天才には學校の成績の悪かつた者が多い。中には子供の時、鈍物と思はれた者もある。先づ二三の例を擧げよう。
嘗て或る小學校の或る組に、末席を争つて居る二人の生徒が居つた。彼等は共に非常な強の者で、これに伯仲を附することは六かしかつた。さてこの二人は、二十餘年の後或る所に落ち合つたが、その時は彼等はもう吳下の舊阿蒙でなかつた。即ち一人は、井川の帝國歌劇座の座長、井ヘルム・ロイリンクで、他の一人は、有名な化學者ユスツス・フォン・リービヒであつた。リービヒがまだギムナジウムに居つた時、或る日校長が彼の級に廻つて來た。而してリービヒの出來ない有様を見て、「貴方がさう出來なくては、先生も困るし、貴方もお父様やお母様に對して不孝に當るから、もう少し勉強し

て立派な人にならなければならぬ。」と懇々誡めた。而して次ぎに話頭を轉じて、「一體貴方は何になるつもりか」と尋ねた。するとリービヒは少しも憶せず、「僕は化學者になるつもりです」とやつた。これを聞いて、校長を初めとして級全體が、一時にどつと笑ひ出した。この話はリービヒ自身も書いて居る。兎に角彼は、學校の成績が餘りに悪かつたので、父は遂に彼を退學させて、或る藥劑師の許に弟子にやつた。然るに彼は、奉公十箇月にして、「何の役にも立たぬ」と云つて家に歸された。

文豪スコットが名を成してから、或る日子供の時學んだ小學校を訪問した。學校では、文豪スコットが來たと云ふので大騒ぎをして、教師は例の八百長問答をしてお目にかけて。然るにスコットはこれを見て満足せず、「學校中で一番出來ない兒はどれか」と尋ねた。教師は大に當惑したが、遂に一人の生徒を前に出して、「これが學校中で一番出來ない生徒です」と云つた。その生徒は耻かしがつて、眞赤になつて頭を垂れた。するとスコット、はその生徒の頭を撫でながら、「君が學校中で一番出來ない兒か。君は良い兒

だ。昔の私の席を好く守つて呉れて居る、と優しく云つて、ポケットから金貨を一枚取り出して與へた。文豪スコットは、嘗てこの小學校で、何時もビリであつたのである。

植物學の祖と云はれるリンネは、ギムナジウムで非常に成績が悪く、或る時校長が父に手紙をやつて、「御息は學問で世に立つには不適當なやうであるから、寧ろ今の中に廢學させて、靴屋の弟子にでもなされる方が御得策かと思ふ、」と勧めたぐらゐであつた。又たこのギムナジウムを卒業して、大學に進む時、「學校に於ける生徒は、庭園に於ける若木の如し。時にはいと覺束なきものも、他日他の地に於いて、好く花咲き實を結ぶことあり。予はたゞこの期待を以て、この生徒を大學に送る、」と云ふ振つた證書を與へられたぐらゐであつた。この證書の文句は、今は有名なものとなつたが、リンネが學校で如何に成績が悪かつたかを好く語つて居る。

ダーキンも學校で始終成績が悪かつた。彼は中學校で、バトラーと云ふ校長に、不勉

強と不成績の爲にしばしば叱られた。又た彼の手記には、「予は教師には勿論、父兄にさへ、珍も奇もなき平凡な子供と思はれて居つた。而して智力に於いては、普通以下の子供と思はれて居つた。」「予は或る時父に、お前は學問が嫌ひで、朝から晩まで遊んでばかり居るから、將來ダーキン家の面汚しになるに違ひないと云はれてがっかりした。」「予はどう云ふものか、どうしても外國語が旨く行かなかつた。到々一つもモノにならな

いでしまつた、等の語がある。』
ナポレオンは子供の時愚鈍と云はれ、學校の成績が非常に悪かつた。たゞ健康だけが上等であつたと云はれて居る。彼がバリの兵學校を卒業した席順は四十二番であつた。卒業生が何人あつたか知らないが、四十二番と云ふ席順は、何れにしても良い成績ではあるまい。傳記によれば、彼は在校中數學が出来たゞけで、他の學課は凡て出来なかつたさうである。彼は又た、生涯何語をも、誤りなく話したり書いたりすることが出来なかつたと云はれて居る。

ところが面白いことには、ナポレオンをやつゝけたエリントン公も、子供の時愚鈍と云はれ、學校の成績が悪かつた。而も非常に悪かつた。母さへも彼を鈍物と呼んで居つた。

政治家キリアム・シウアードも學校で始終成績が悪く、彼の父も小學校の校長から、「御子息は學問するには不適當なやうであるから、寧ろ今の中に廢學させる方が御得策かと思ふ」と云ふ手紙を受け取つたことがあつた。

かの「我に自由を與へよ、然らずんば死を與へよ」と叫んで有名なバトリック・ヘンリーは、少年の時遊びや釣りや獵りばかり好きで、仕方のない懶け者であつた。容姿がだらしなく、言語動作が不器用で、學問を嫌ふこと蛇蝎の如く、遊戲に趨ること狂氣の如く、これで學校の成績が良い筈がない。彼は常に、實に手に負へない劣等生であつた。ニウトンは小學校で、教師や朋輩から鈍物と云はれて居つた。それもその筈、彼は何時も級のピリで、十五歳の時、母が彼の不成績に絶望して、一時彼を退學させて農業に

從事させたくらゐであつた。後大學に入學したが、依然として成績が良くななく、或る試験の時の如きは、而も幾何學の點が悪くて教師から叱られた。

文豪ジョンソンは學校で有名な懶け者で、矢張念の入つた劣等生であつた。彼は自ら「教師は予をしばし、イヤと云ふほど鞭うつた。あれがなかつたなら、予は恐らく何もしなかつたであらう」と書いて居る。文豪スウィフトも、學校で始終劣等生で、大學の卒業試験の時の如きは、三科目中二科目が落第點であつた。故に彼は再試験を受けたが、それも赤星で、おなさけ及第で卒業した。

詩人ジョージ・ブリスは、中學校で學課を懶けて、小説ばかり読んで居つた。故に成績は無論悪かつた。彼は大學に入學しても依然として成績が悪く、家人や親族に少なからず心配をかけた。文豪シェリダンも學校で學課が出来なかつた。殊に希臘語と拉丁語が不得意で、ハロー中學校では、パー博士にしばしば叱られた。

汽船の發明者なるロバート・フルトンは、學校で外の事ばかり考へて居つた。故に學

課は何も出来ず、絶えず教師から楯鞭のお見舞を受けた。原子説の初唱者なるゲルトンも、學校で鈍い方で、何時も成績が悪かつた。

植物學者として、化學者として、政治家として、行くとして可ならざるところなかつたアレグザンデル・フォン・フムボルトも學校の成績が良くなかつた。特に希臘語が出来なかつた。彼は自ら、「子供の時予の家庭教師は、予は普通の智力も得るに至るまいと信じて居つた」と書いて居る。

詩人ハイネは、獨逸で生れて佛蘭西で育つたが、小學校で非常な劣等生であつた。彼は學課と服従が大嫌ひで、後にはあんな立派な詩人になつたにも拘はらず、佛蘭西詩の時間に、毎度膏を取られたことを自ら書いて居る。故に他の學課の出来なかつたことは推して知るべしである。彼は後には、あんな調子の好い歌を書いたにも拘はらず、詩のミスターがどうしても分らず、しばしば教師に、「お前は獨逸の山中から出て來た野蠻人だから、詩が少しも分らないんだ」と罵しられた。彼は大學でも非常に成績が悪かつた。

た。

博物學者ジョーゼフ・バンクスも、學校で學課が出来なくて、始終教師の困り者であつた。醫學者ジョン・ハンターも、學校で非常な懶け者で、矢張學課を嫌ふこと蛇蝎の如く、何年通學しても何も覺えず、十七歳になつても碌に読み書きが出来なかつた。故に遂に大工をして居つた義兄の許に弟子にやられた。若しこの義兄が破産しなかつたら、彼は一生大工で終つたかも知れなかつた。

地質學の祖なるライエルも、手に負へない學校嫌ひで、矢張始終成績が悪かつた。哲學者ヘーゲルも始終學校の成績が良くななく、彼がテウペンゲン大學を卒業した時與へられた證書には、「學力中等、但し哲學に不得意なり」とあつた。化學者デービーも學校で遊んでばかり居つて、成績が良くなかつた。

詩人バイロンは、アバーディン小學校で何時も一番であつた。併しこれは、アバーディン小學校では、習慣として最劣等生を首席に置いて、最優等生をビリに置いたからで

あつた。「オイ、ジョージ、偶にはビリになつて見せろよ」とは、教師が冗談半分の奨励の言葉であつた。彼は喧嘩が得意であつたが、學問は出来なかつた。然るに彼の組に、學問が出来るが力の弱い生徒が居つた。彼はこの生徒と攻守同盟を結んで、喧嘩はこの生徒の分を引き受け、宿題や何かはこの生徒にやつて貰つた。彼はケンブリッジ大學でも矢張成績が悪かつた。

詩人シルレルは、カール・オイゲン侯の兵學校で、少し出来た學科は希臘語だけで、他の學科は凡て出来なかつた。又た彼が最初に書いた卒業論文「身體の精神に及ぼす影響」は及第點に達せず、その年は卒業が出来なかつた。詩人ローエルも學校で始終劣等生で、大學の二年の時、不勉強と不成績の爲に停學を命ぜられたことがあつた。政治家コックバーン卿は、自分の小學校時代のことを書いて、「この四年の間に、教師に一度も鞭うたれなかつた日は多分十日となかつたらう」と云つて居る。彼は中學校でも一度落第した。政治家クラレンドン卿も學校の成績が良くなかつた。

ニコラス・ブレックスピアは、羅馬法王となつた唯一の英吉利人（羅馬法王名アドリアン四世）であるが、大學で成績が悪く、一度落第した。教育家ベスタロッチ、物理學者フレイネル、博物學者ビュフォン、文豪ディドロ等は、共に子供の時鈍物と云はれ、學校の成績が非常に悪かつた。文豪バルザックとデューマも、共に學校の成績が悪かつた。併し後者は擊劍、相撲、遊戯等に於いては花形であつた。

政治家チエールは、學生の時に負へない暴れ者で、マルセイユ大學時代には、よく本や着物を賣つて買ひ食ひをした。嘗て教師の椅子に鳥もちを一面につけて置いて、教師をそれにねばらしたことがあつた。成績は勿論悪かつた。名將デュゲ克蘭、マールボロー公、テュレーヌ等は、何れも子供の時遅鈍で、學校の成績が良くなつた。印度の征服者クライヴも子供の時鈍物と呼ばれた。數學者ページと文豪マリアットは、子供の時同じ小學校の生徒であつたが、共に級中

の最劣等生であつた。教師はしばしば二人を前に出して腰掛の上に立たせ、他の生徒に向つて、「皆さん御覧なさい、この二人は決して出世することの出来ない人間です。皆さんは決してこんな人間になつてはなりません、」と云つた。ところが級中で兎に角世に知られるやうになつた者は、彼等二人だけであつた。

文豪ゴールドスミスに教へた女教師は、彼を「手に負へない鈍物」と云つて居つた。又た彼女は、「私はこれまで、あんな鈍い兒に出會したことがありません、」と云つて居つた。詩人ゲーテも學校の成績が良くなかつた。彼はライプツィヒ大學で、卒業論文が悪くて學位を得ることが出来なかつた。

思想家ラスキンも、學校で始終劣等生であつた。彼はオクスフォード大學に入學する時、入學試験に及第するかどうか怪しかつたので、Gentleman-commonerとして入學したぐらゐであつた。

宗教家ヘンリー・ピッチャーは、子供の時口が重く、字が下手で、覺えが悪く、どう

しても遅鈍ときり見えなかつた。學校の成績は勿論悪かつた。哲學者エマソンも、學校で成績の良かつたことがなかつた。彼が大學で成績が悪いと云ふ話が、出身學校の校長の耳に入ると、弟子思ひの校長は、しばしば彼を大學の寄宿舎に訪問して、好く勉強せよ、殊に數學を好く勉強せよと奨励した。彼は數學は元から出来なかつたのである。併し校長のこの眞情の籠つた奨励も寸効なく、彼は依然として劣等生であつた。詩人ドライデン、シェリー、コールリッチ、テニソン、ブライアント等も、學校の成績が良くなかつた。

先年佛蘭西の或る雜誌が、「十九世紀に於いて佛蘭西が出せる最大の人物は誰ぞ、」と云ふ題を掲げて、廣く江湖の投票を募つたことがあつた。これに應じて投票した者は、無慮百五十萬人の多きに上つたが、その結果最高點を得た者は、醫學者バステウルであつた。(序ながら、次點はユーゴー、ガムベッタ、ナポレオンと云ふ順序であつた。)然るにこのバステウルは、大學で少しも異彩を表はさず、極めて平凡な學生であつた。たゞ繪

が上手だと云ふので朋輩の間に有名であつた。

文豪サッカリーは、小學校で落第ばかりして居つた。而も彼は、かう云ふ生徒にあり勝ちな、運動場のヒーローでもなかつた。たゞ矢張繪が上手で、繪ばかり書いて居つた。

政治家ダニエル・エプスターは、希臘語と拉丁語をいくらやつても駄目であつた。併し他の學科も餘り出来なかつた。政治家ジョン・アダムスは、中年になるまで遲鈍と思はれて居つた。學校の成績は無論悪かつた。政治家グラッドストーン、グラント、サーモン・チェイス、チャールズ・サムナー等も、學校の成績が良くなかつた。

佛蘭西學士院長フェルディナン・ブリュヌチエールも、始終學校の成績が悪かつた。彼は中學校を卒業してから、再び師範學校に入學しようとしたが、それでもその入學試験に落第した。ワットは子供の時商業學校に通つて居つたが、何時もビリで、常に朋輩に馬鹿にされて居つた。

社會改良家ジョン・ハワードも子供の時鈍物と云はれ、小學校に七年間通學しても、正

確に書いたり話したりすることが出来なかつた。矢張社會改良家バクストンも子供の時鈍物と云はれ、學校の成績が悪かつた。彼は毎日鳥打ちばかりして居つた。哲學者ブリストリー、ヒウム、スペンサー等も、學校の成績が良くなかつた。特にスペンサーは暗記が大嫌ひで、希臘語文法、拉丁語文法等は蛇蝎視して居つた。

戯曲家イブセンも學校で始終劣等生で、クリスチヤニア中學校を卒業した時の如きは、ちよつさり及第點と云ふ危ないところで及第した。

妻と協力してラヂウムを發見したピエル・キュリーも學校の成績が悪く、常に鈍物と云はれて居つた。故に父は心配して、一時退學させて、自宅で家庭教師をつけて學問させたことがあつた。數學者ガウス、生理學者、物理學者として有名なヘルムホルツ、細胞病理學者、人類學者、政治家として有名なフィルヒョー等も、學校の成績が良くなかつた。

然らば多くの天才は、何故にかくの如く学校の成績が良くなかつたか。これは今日、不完全な傳記に由つて知ることは殆ど不可能である。一體一人の生徒を突きつけられて、この生徒は何故に学校の成績が悪いかと尋ねられても、これを知ることが極めて六かしいものである。況んや古人に於いてをやである。

学校の成績を悪くする原因は色々ある。併し多くの天才が学校で成績が良くなかつたのは、多くは彼等が熱中者であつた爲である。即ち彼等は天才であつたが故に学校の成績が良くなかつたのである。故に彼等が劣等生であつたと云ふことは、彼等が早熟であつたと云ふこと、決して矛盾するものでない。

東洋學者クラップロートは、ベルリン大學で非常な劣等生と思はれて居つた。試験の時何を聞いても分らないので、試験官は「貴方は何も知りませんね」と云つた。すると彼は、「いえ、私は支那語を知つて居ます」と云ふ意外な答をした。調べて見ると成程彼は支那語をよく知つて居つた。彼は支那語が好きで、これを熱心に學んで居つたのであ

る。

リンネは学校の成績こそ悪かつたが、植物の研究が大好きで、植物のことは實によく知つて居つた。スコットも教場でこそ少女のやうであつたが、一たび外に出ると脱兎の如く、外の生徒から非常に崇拜されて居つた。蓋し彼は非常な讀書家で、話が實に旨かつたからである。彼は色々な小説や歴史を讀んで居るので、話が非常に面白く、彼の室には話を聞きに外の生徒が澤山集まつた。彼等はよくお菓子を持つて、彼の話を聞きに来るのであつた。

ヨーヅヨースは子供の時から耽溺的に讀書した。併しその爲に學課を勉強しなかつたので、学校の成績は大さう悪かつた。併し傳記を見ると、多くの詩人や文豪は、大抵ヨーヅヨースのやうであつた。バイロンもシェリーも、テニソンもゲーテも、大學で作詩と讀書にばかり耽つて居つて、學課を顧みなかつた。而して彼等は、何れも同様に好きな本ばかり耽讀するのであつた。カーライル、ブラウニング、コールリッチ、ローエル等も

飽くことを知らない讀書家であつた。

詩人や文豪には、讀書に耽つた爲に學校の成績の悪かつたものが多いが、發明者や思想家には、瞑想に耽つた爲に學課の出來なかつたものが多い。フルトンは教室で、外の事ばかり考へて居つて、しばしば教師から鞭の打撃を受けた。ワットもさうであつた。ヒウムも子供の時から瞑想家で、餘り瞑想にばかり耽つて居つたので、外から見るとボカンとして居つた。母さへ彼を少し鈍いと考へて居つた。ニウトンは數學の問題に熱中して、しばしば命令や依頼を忘れた。彼は學校で何時も級のビリであつたが、玩具の機械を造ることは極めて旨かつた。

エマーソンは大學で、文學の研究ばかりして居つて、學課を少しも勉強しなかつた。彼は自ら、「予は大學の面白くない學課からよりも、それを棚に上げて耽讀した本から得た事が多かつた」と書いて居る。キリアム・シウアードやチャールズ・サムナーも、子供の時から讀書に耽つた爲に學校の成績が悪かつた。

ジョン・ハンターは小學校で、極端な劣等生であつたが、植物や動物の觀察が好きで、それにばかり熱中して居つた。彼は自ら、「予は幼心に草や木を熱心に研究した。或る時木の葉が、秋になると何故に紅くなるかを熱心に研究したことがあつた。又た常に、蟻や蜂や鳥や虫を熱心に研究した」と書いて居る。ジョーゼフ・バンクスも、子供の時動物や植物に興味を有つて、その爲に學校の成績が悪かつた。ダーキンも子供の時から熱中性で、矢張動物や植物の觀察に熱心であつた。或る時化學の實驗に熱中して、校長に「お前は學課を勉強しないで、そんな事にばかり時間を潰して居るから學問が出來ないのだ」と叱られたことがあつた。

先頃夏目漱石氏が死んだ時、その遺骸が解剖されて、氏の腦髓の重量が、普通以上であつたと傳へられた。嘗て桂公が死んだ時も、矢張その遺骸が解剖されて、同じ事が傳へられた。多くの人はかう云ふ事を聞いて、成程偉い人の腦髓は、普通の人の腦髓よりも

重いものかと考へるであらう。この考へは必ずしも悪くない。併し人の脳髓の大小は生れつきで、大きい脳髓を有つて生れた人は偉くなるが、小さい脳髓を有つて生れた人は、偉くなることが出来ないのだと考へるなら間違ひである。

成程動物の脳髓を見ると、高等な動物ほど脳髓が大きい。又た我々人類は、類人猿から進化して、古石器時代人及び新石器時代人を経て、今日に至つたものであるが、その頭蓋容積を調べて見ると、大よ次ぎの如くである。

- 類人猿 六〇〇立方珊
- 古石器時代人 一二〇〇立方珊
- 新石器時代人 一四〇〇立方珊
- 文明人 一六〇〇立方珊

尙ほデュボアは、一八九二年ジャヴ島で、面白い遺骨を發見した。それは類人猿から古石器時代人に移る途中のもので、二者の中間に位するものである。人類學者はこれに猿人と云ふ名を與へた。而して面白い事には、この猿人の頭蓋容積は約九〇〇立方珊で、

丁度類人猿の六〇〇立方珊と、古石器時代人の一二〇〇立方珊の中間である。而して文明人ほど脳髓が大きく、白人や黄人の脳髓は、黒人や赤人の脳髓よりも大きい。

又たプロカは佛蘭西人の脳髓を研究して、近代の佛蘭西人の脳髓は、昔時の佛蘭西人の脳髓よりも大きいと結論した。又たブリチャードは英吉利人の脳髓を研究して、エルカーは伊太利人、希臘人、猶太人、及び埃及人の脳髓を研究して、共に同じ結論に達した。これに由つて見ると、同じ人種でも、近代人の脳髓は古代人のそれよりも大きい。かう云ふ事から推して考へると、成程天才や偉人の脳髓は、凡人のそれよりも大きからうと一寸考へられる。ところが事實は必ずしもさうでない。成程大體から云へば、優秀な精神を有つて居る人の脳髓は、凡人のそれよりも大きい。併しこれには數多の例外がある。而してこゝに大なる秘密が隠れて居るのである。

天才の脳髓の研究としては、ルドルフ・ヴグナー、ビシヨッフ、レツツイウス、ハンゼマン等が有名であるが、ヴグナーやビシヨッフは少し古い。一番新しいのはハンゼマンで

ある。彼はヘルムホルツ（一八九四年死亡）、化学者ブンゼン（一八九九年死亡）、歴史家モムゼン（一九〇三年死亡）、畫家メンツェル（一九〇五年死亡）の如き天才の脳髓をも、親しく研究するの幸運を得た人であるが、彼は明かに、天才の脳髓と凡人の脳髓の間に、特別な差異を見出すことが出来ないと言つて居る。

成程記録によれば、バイロン、クロンエル、シルレル、ビスマルク、キュギエ、ツルゲネフ等の脳髓は非常に大きかつた。併しリービッヒ、デリンガー、ハラール、ガムベッタ、ダンテ、ハウスマン、シェリー、ブンゼン、メンツェル等の脳髓は、普通以下に小さかつた。

ハンゼマンは云つて居る。天才の脳髓は、普通の人のそれよりも大きいかと云ふと、必ずしもさうでない。脳髓の大ききと云ふことは、決して天才の特徴でない。天才ならざる者にも、脳髓の大きき者が澤山居るのみならず、脳髓の大きき者には却て低能者が多い。一體脳髓に於いて大切な事は、その表面の廣いことである。而して脳髓の表面が

廣からんが爲には、その容積が大きいことよりも、その皺が多くて深いことが大切である。故に天才の脳髓は、普通の人のそれよりも皺が多くて深いかと云ふと、これも必ずしもさうでない。これに反して、皺が多くて深い脳髓を有つて居ながら、一生凡人で終る人が澤山居る。予の蒐集中に、ヘンゼルと云ふ男の脳髓があるが、この男は彫刻師で、三十六歳の時肺病で死んだ。その脳髓は聯想中樞を初めとして、どの部分も無類に良く發達して居る。然るにこの男は、彫刻師として極めて劣等な職人で、或る商店に十年餘も務めて居つたが、その間居るか居ないか分らないやうな有様であつた。兎に角手は色々な天才の脳髓を研究して見て、これが天才の脳髓の特徴だと思ふものを認めることが出来ない。

或る研究者は、同じ人種でも、都會人の脳髓は田舎人の脳髓よりも大ききと云つて居る。これは使用の結果後天的に大きくなつたのである。然らば頭を盛んに使ふ天才や偉人の脳髓は、發達してそれだけ大きい筈である。然るにも抱はらず、天才の脳髓が必ず

しも大きくないのは何故か。それは外でもない。天才は先天的産物よりは、寧ろ後天的産物だからである。

一一一

ロンブローゾ等は、天才は癡狂と同じく一種の變質だと云つて、色々な變質的特徴を擧げて居るが、これは甚だ間違つた説である。けちをつければ誰にでもけちがつく。これは何も天才に限つた事でない。デュボア博士は、「多少の差こそあれ、世に精神病けのない人は居ない」と云つて居る。肉體上の缺點に就いても同様である。世に何等の病氣もない人は殆ど居ない。故にけちをつければ誰にでもつけることが出来る。

ロンブローゾ等の著書を見ると、天才は大抵精神病者か不具者であつたやうな感じを起させるが、これは甚だしく事實に反して居る。新しい研究によれば、天才は却て普通の人よりも長命である。ドルランドは、十六世紀以來の歐米の偉人四百人を擇び、これを星學者、數學者、哲學者、神學者、詩人、小説家等、二十一種に分類して研究したが、そ

の平均壽命を見ると、最も短命なのは詩人の五十八歳、最も長命なのは發明家の七十九歳で、四百人全體の平均は六十六歳七分である。而してこの四百人中、六十五人即ち一割六分餘は八十歳以上に長命した。又た或る人が八百五十人の天才に就いて調べた結果に由ると、六十歳未満で死んだものが二百五十人、八十歳以上で死んだものが百三十一人、六十歳から八十歳までの間に死んだものが約四百七十人である。又た或る人が五百人の天才に就いて調べた結果に由ると、その平均壽命は約六十五歳である。然らば普通の人はどうかと云ふと、二十歳以下で死んだ者は計算に入れないで、その平均壽命は五十一歳である。又た或る人の調べに由ると、天才の平均壽命は七十一歳である。要するに天才は大抵長命である。たゞ音樂の天才には、短命が多かつたやうである。

然らば天才は何故にかくの如く長命かと云ふと、これは天才其物の性質に由るのである。しばしば云つたやうに、天才は興味の人熱中の人である。我々がしばしば聞くやうに、學生の夜更かしは害があるが、學者の夜更かしは害にならないと云はれる。これは

何故かと云ふと、學生の勉強は嫌や／＼ながらする勉強であるが、學者の勉強は興味に驅られてする勉強だからである。我々は嫌やな仕事を形容して、命が縮まると云ふが、これは決して誇張でない、事實である。天才は黽勉の人であるが、その黽勉は興味に由る黽勉であるから、害にならないのみならず却て健康を増す。健康を最も増すものは、愉快と満足であることは周知の事實である。常に興味に驅られて仕事に従事する、これは凡人の味はひ知ることの出来ない天才の祝福である。貧窮に陥つても、饑渴に迫つても、『我に汝等の知らざる糧あり、』と云ひ得る天才は、幸なるかな。天才の長命の原因はこゝにある。成程天才は黽勉の人であるから、過勞から起る病氣に罹るものもある。即ち發狂したり、精神病者になつたりするものもある。又た性慾が弱くて、しば／＼獨身で終り、結婚しても子のないものもある。これは彼等の精力が、重に腦髓で費される結果である。併しこれも、何も天才に限つた事でない。又た天才は、十人が十人皆なさうだと云ふ譯でもない。この世を醉生夢死する徒輩は兎に角、苟もこの世に生れて一かどの者は、

大抵過勞しなければならぬのが我々の運命である。たゞ凡人の過勞は、多く嫌やな仕事から起る過勞であるから、それだけ害が多い。過勞の結果病氣になつたり、發狂したりすることは、決して天才に特別に多い譯でない。普通の人にも随分多い事である。要するにロンブローゾ等の天才變質説は、取るに足らない陋説である。

一三

我國には『氏より育ち』と云ふ諺があるが、甚だ面白い諺である。蓋し氏とは遺傳稟賦等の先天的要因を意味し、育ちとは境遇教育等の後天的要因を意味する。故にこの諺は、『先天的要因よりも後天的要因』と云ふ意味であつて、丁度天才の發生に關する予の考へを一言で云ひ表はして居る。今日天才の發生に關する一般の信念は、『氏より育ち』でなくて『育ちより氏』であるが、これは斷じて誤りである。成程遺傳や稟賦も大切である。これは予も認める。併しこれは決して一般に考へられて居るほど大切なものでない。大切なのは却て境遇と教育である。

併し予が『氏より育ち』と云ふのは、天才の發生に關しての事であつて、予は決して人種改良の價値を認めない者でない。予は人種改良の價値を認める。併し同時に、人種改良の價値は消極的なものだと思ふ。成程肉體上の特徴や畸形は、メンデルの法則に従つて遺傳するであらう。併し天才は決してメンデルの法則に従つて遺傳しない。蓋し天才は、先天的要因の結果よりは寧ろ後天的要因の結果、稟賦の結果よりは寧ろ發達の結果だからである。故に教育を無視し、人種改良だけに頼つて天才を得ようとするのは大なる誤りである。人種改良的政策を勵行すれば、精神病者や癩病患者を少なくすることは出来よう。併しこれだけに由つて天才を多くすることは到底不可能である。併し精神的或は肉體的に缺點のある子供に、如何に完全な教育を施しても、何にもならないことは明かであるから、人種改良の大切なることは云ふまでもない。故に予は、人種改良と教育は人生の二大福音だと信ずる。併し教育の價値が十分認められて居ない今日に於いては、予は矢張『氏より育ち』と叫ばざるを得ない。

第五章 サイデイス博士の教育説

予は第一章に、サイデイス君の父サイデイス博士に「俗物と天才」(Boris Sidis, Philistine and Genius) と云ふ著書があることを述べた。この本は百頁ほどの少冊子に過ぎないが、中々面白い本であるから、こゝにその梗概を紹介する。左はその各章の大意である。

序ながら、サイデイス博士は本來露西亞人であるが、若い時亞米利加に行つてハーバード大學に入學し、故ジェームス博士に就いて心理學を専攻した。非常な秀才であつた爲に、いたくジェームス博士に可愛がられた。博士もこの知遇に感じて、自分に子供が生れた時、ジェームス博士の名をそのまゝ、キリアム・ジェームス・サイデイスと名づけた。

二二六
尚ほ博士には、『暗示の心理』、『重複人格』、『精神病理學研究』、『睡眠の實驗的研究』、『笑の心理』、『常態及び變態心理學』及び精神病に關する多くの著書があるが、何れも面白い本である。

二

プラトンは嘗て理想國を設計した。その設計には、子弟の教育は社會の基礎だとある。蓋し名論である。

個人の性格の如何は幼時の教育の如何に由る。従つて國民の性情の如何は、子弟の教育の如何に由る。東洋人の宿命主義あきらめ主義なる、希臘人の知識主義藝術主義自由主義なる、羅馬人の保守主義武斷主義なる、猶太人の宗教的情熱的なる、皆な幼時に於ける教育の結果である。

一體人間は燒物に等しく、子供の時に一生の形が出来来る。子供の時代は丁度燒物の粘土の時代に當つて居つて、教育の如何に由つてどんな形にでもなる。フーズフリスは、

子供は大人の親だと云つたが、全く大人の下地は子供の時に出来る。

三

個人の性格の基礎は、子供の時に出来る。これは極めて明かな事で、事々しく云ふのは野暮なくらゐである。併し遺憾な事には、今日この事を好く考へて居る人は極めて少ない。

子供の頭はロックの謂はゆる *tabula rasa* であつて、まだ何も無い。故にこゝに投げ込まれた知識は、何でも後來の性格の基礎となるのである。然らば子供の頭に投げ込む知識は、極めて精撰吟味したものでなければならぬ理でないか。然るに何事ぞ。我等は子供の頭を知識の埃棄場にして居る。お伽噺だとか、昔話だとか、奇蹟だとか、迷信だとか、碌でもない知識の屑ばかり投げ込んで居る。こんなたあいもない材料で、どうして子供が立派な性格を築き上げることが出来ようか。

事實に反した昔話や、理屈に合はないお伽噺が、子供に何になるか。然るに我等は、

お伽噺や昔話は、子供には是非必要な精神的食料だと思つて居る。昔からの習慣だが、考へて見ると實に妙な迷信である。それから我等は、教義だとか信条だとかと云ふものを、壓制的に子供の頭に叩き込む。又た天罰だとか地獄だとかと云ふ根も葉もない恐怖を無暗に植ゑつける。又た矢鱈に服従々々と云つて、盲従を強ひて反問を許さず、壓制的に頭を抑へつける。その結果子供は個性を失つてしまつて、他の命令を待たなければ何も出来ないやうになる。その能動的に行動の出来ないところは、宛で人形である。予から見ればこんな危険な事がない。

四

我等はフェニキヤ人の小兒犠牲や、中世の宗教裁判や、近世の宗教戦争や、革命時代の流血や、露西亞に於ける猶太人虐殺や、土古耳に於ける基督教徒虐殺を野蠻だと云つて居る。而して自ら文明人だと誇つて居る。併し我等は果して自ら文明人だと誇る資格があるだらうか。我等は謂はゆる、自分の眼の梁木に氣が附かないで、他人の目の塵埃

を是非する者でなからうか。

我等は自ら文明人だと云つて居る。併し我等の文明は、ペンキやワニスのやうな土塗りに過ぎない。成程我等は人を殺すに、土古耳人や露西亞人のやうな殺し方はしない。併し人を殺して居ることは彼等より遙かに多い。例へば我國の貧民窟を見よ。貧民窟は資本家の横暴酷薄な獨占主義の結果であるが、その小兒の死亡率は、千人に二百人以上と云ふ驚くべき割合である。

又た我國ぐらゐ肺病の爲に斃れる者の多い國がない。これも間接に資本家が殺して居るのである。蓋し諸種の調査に由れば、肺病は貧困と食ひ足らずの附物だからである。

我等は自ら世界の富國だと誇つて居る。併し我國の都會の裏通りを見よ。そこに慘憺たる貧民窟が續いて居るでないか。そこに血の氣のない食ひ足らずの老弱男女がウジヨウジヨして居るでないか。

我等は軍隊と監獄の爲に、教育の爲より遙かに餘計に金を費して居る。世にこんな馬

鹿な事があらうか。喧嘩と犯罪の價が、未來の國民の價より高いとは何事ぞ。

二三〇

予はジェームス博士としばしば慈善院を見舞つたことがあるが、爛眼なる博士は或る時から嘆じたことがある。我國には十四歳以下の少年少女で、工場にやられる者が非常に多い。而して彼等の或るもの、給料は、一日九仙ぐらゐに過ぎない。然るにこゝでは、白痴や阿呆が華族のやうに贅澤に養はれて居る。精神と身體の健全な少年少女が、工場場の悪い空氣と烈しい勞働の爲に、毎日心身を害して居るのに、白痴や阿呆がかくの如く贅澤に養はれて居るとは何事ぞ。無用の長物を保護する餘裕があるのに、有爲な少年少女を保護しないで棄て、置くとは何事ぞと。尤もな説でないか。

ところが一人の醫員がこれを聞いて、それは我々の文明が、人の生命を尊重するからだと云つた。吁我等の文明は果して人の生命を尊重して居るか。

鐵道は文明の利器だと云はれて居る。而して我國の鐵道は、人を殺すことが戰爭に劣らない。南阿戰爭三年間に於ける英國側の戰死者は、二萬二千人に過ぎなかつたが、我

國の鐵道は、同じ三年間（一八九七年から一九〇〇年まで）に矢張二萬二千人を殺した。これに炭山鑛山等に於ける横死者を加へると、その數は實に驚くべきものになる。我國には、謂はゆる文明の利器で死んだり傷ついたりする者が、毎年百五十萬人ぐらゐ居る。これでも我等の文明は、人の生命を尊重すると云ふことが出来るか。

昔の戰爭は、「サウルは千を打ち殺し、ダビデは萬を打ち殺せり、」などと云つたものであるが、今日の戰爭は、アッシリヤ人や羅馬人の如き好戰國民が、一世紀もかゝつて殺したほどの人數を、見る間に殺してしまふ。それでも我等の文明は、人の生命を尊重するなど、云ふのである。又た我國には、私刑と云ふ野蠻極まる惡習が公認されて居る。それも稀にある事でない。一八八二年から一九〇〇年までの十八年間に、約三千件の私刑があつた。又た我國の近頃の對未開國政策はどうである。宗教を宣傳する爲に宣教師を送りながら、同時に劍先と銃口で脅喝して、酒や煙草の如き有害物を賣りつけると云ふ有様でないか。

二三一

臭に居れば臭を感じない。我等は自ら文明人だと稱して居るが、實は野蠻人である。併し我等は野蠻人でありながら、野蠻人なことに気がつかないで居る。

我等は羅馬人の闘戯を野蠻極まると云つて居る。例へばレッキーは、「羅馬では、男子ばかりでなく婦人や妙齡の女子までも、闘戯を見るのが習慣であつた。彼等は女だてらに、この怖ろしい演戯を見て、ワイ〜喜んで居つた。今日からは、彼等の性情が如何に残忍であつたかは、殆ど想像することが出来ない」と云つて居る。併し我等は、現に羅馬人の闘戯に餘り劣らない野蠻な遊戯を有つて居る。フットボールや拳闘がそれである。フットボールではよく人が死ぬでないか。負傷ぐらゐは茶飯事である。これで我等は羅馬人に石を投ずることが出来ようか。

そこに行くといふ流石に希臘人は偉かつた。この残忍極まる羅馬の闘戯が、アテネに輸入されんとした時、哲學者デモナックスが居つてこれに反對した。彼は、「諸君はかくの如き残忍な演戯を輸入する前に、先づ憐憫女神の祭壇を破壊せよ」と絶叫した。

予は我國に、一人のデモナックスなきことを遺憾に思ふ。我國の大學教授は、凡てかのフットボールや拳闘を是認して居る。彼等は凡てフットボールや拳闘は、士氣を鼓舞するから必要だと稱して居る。而して一人もその野蠻に開眼して反對する者が居ない。予は重ねて我國の大學教授中に、一人のデモナックスなきことを憾む。

併し數ふれば、我國の社會にはこんな悪事が外に澤山ある。併し我等はこれに気がつかない。昔アダムとエバが樂園に居つた時、身の裸體なことに気がつかなくつたと云ふが、我等はこのアダムとエバに多く異なる。こんなに澤山ある周囲の悪事に気がつかないで居る我等は、精神的そこひである。

我等は一週中六日間、したい放題な悪事と残忍行爲を働いて、日曜日に教會に行つて、罪を悔いて神の赦しを乞ひ、更に恵みと助けを願ふ。實に滑稽な話でないか。試みに日々の新聞を見よ。戦争の記事がある、虐殺の記事がある、私刑の記事があ

る、殺人の記事がある、ストライキの記事がある、締め出しの記事がある、飢渴の記事がある、身投げの記事がある、官吏の疑獄の記事がある、政治家の不正の記事がある、腐敗の記事がある、倫落の記事がある。併し我等は直ぐそれを忘れてしまつて、何の印象も残らない。全く我等は、臭に居つて臭を感じざる者である。

我等は口の先では、愛の神の讚美者であるが、心の中では力の神の崇拜者である。特にマンモンの羅拜者である。日々新聞を見ても、花形は常に財界の大頭でないか。我等の夢は常に巨萬の富であつて、我等の娘の夢は常に玉の輿である。俗風滔々として、道を思ひ學を考ふる者が極めて少ない。

六

現代はまだ強食弱肉の時代である。その野蠻なことは以前と少しも變らない。否それ以上である。

我國には、資本家の獨占事業の犠牲になつて居る少年少女が何百萬人居るか分らない。

い。十五歳以下の者だけでも、工場や鑛山で働いて居る者が百七十萬人も居る。又た貧民窟に於いては、あたら有爲の少年少女が、食ひ足らずの爲にドシ／＼斃れて居る。げに今日のマンモンは、昔のモロツクのやうに、小兒の犠牲を喜んで居る。實に恐ろしい世でないか。

かくの如き時代に於ける教育者は、須く世の惡事に開眼せる人でなければならぬ。然るに今日の教育者は、貧弱な心理學の澱滓や教育學の鋸屑を振り廻すぐらゐで、能事終れりと考へて居る。

前世紀の中葉に於いて、バツクルは今後戦争がなくなるだらうと豫言した。併しバツクルの豫言後、主なものだけ舉げて、南北戦争があつた、普佛戦争があつた、米西戦争があつた、南阿戦争があつた、日露戦争があつた。それに各文明國は、絶えず未開國を掠奪して居る。平和會議など、云ふものがある癖に、今日ぐらゐ各國が武装して居る時代がない。而してこの平和會議が、露西亞皇帝の發起に係はるから面白いでないか。

現代は尙ほ優勝劣敗の時代である。強食弱肉の時代である。我等は凡て火の洗禮と血の救拯の信者であつて、人道が少しも發揮されて居ない。

二三六

我等は世の悪事を見得るやうに教育されて居ない。世の悪事の影像が、盲點に落ちるやうに教育されて居る。又た我等の子弟をさう教育して居る。我等は進化論と適者生存説の名に匿れて、強者の横暴と弱者の悲惨を當然と考へて居る。かくて強い者勝ちの哲學が一世を風靡して、愛、正義、平和、同情、矜恤等は、人類の進歩を妨ぐる感情だと思はれて居る。かくて二千餘年前、ガリヤのブレンヌスが云つた *The victis* 一と云ふ言葉が、社會の合詞となつて居る。

七

我等は樂天主義者である。精神的そこひの樂天主義者である。而してライブニツと共に、この世界は有らゆる世界の中で、最良の世界だと謳歌して居る。併しかくの如き世に於いて、樂天主義たることは耻でなからうか。

シヨールペンハウエルは厭世主義者であつた。彼は云つて居る。「この世の苦痛と悲惨に眞に開眼すれば、何人と雖も心を寒うせざるを得ないであらう。一つ樂天主義者先生を連れて、病院や、慈善院や、牢屋や、拷問場や、戦場や、仕置場や、奴隸小屋等の酸鼻な有様を、見せ廻りたいものである。彼等はそれでも尙ほ、この世界は有らゆる世界の中で、最良の世界だなど、云ふかどうか」と。

シヨールペンハウエルの厭世主義には、色々な非難がある。併し予は、彼は偉かつたと思ふ。彼は世の酸鼻をチャンと見て居つた。盲千人の中に立つて、一人精神的そこひでなかつた。

ジェームス博士は嘗て或る大學の卒業生に演説して、「大學教育の目的は、世の善人を見分ける明を養ふことである」と云つたが、予はこれに倣つて云はう。教育の目的は、世の悪事を見分ける明を養ふことである。

八

二三七

二三八
教育の目的は善人を造ることである。善人とは、心情廣潤、献身犠牲の精神に充ちて、世界人類の幸福を目標とする人である。我等は偏狭な愛國者や、自黨あるを知つて他黨あるを知らない愛黨者や、自宗派あるを知つて他宗派あるを知らない狂信者を要しない。併しかくの如き善人を造るには、子供に世の悪事を見分ける明を養つてやらなければならぬ。世には色々な矛盾缺陷がある。善人とは、これらの矛盾缺陷に開眼して、飽くまでもその刈除に努むる人である。

併し我國の學校では、かくの如き教育は全く絶望である。蓋し我國の學校は、平凡な俗物の寄合だからである。校長も俗物、部長も俗物、教師も俗物、一から十まで俗物づくめである。畢竟學校は學問の切賣店で、教員はその店員に過ぎない。彼等は心理學の澱滓や、教育學の鋸屑を盛んに振り廻すが、畢竟俗物である。俗物の手からは俗物さきり出来ない。彼等は彼等一流の八釜しい規則を拵へて、これに嵌めて自分に似た俗物を盛んに製造して居る。故に我國の教育の産物は、何れも千篇一律の俗物ばかりで、特長の

ある人物が一人も居ない。

我國の教育の産物は、教師に似た千篇一律の平凡な俗物ばかりであるから、彼等の見地や思想には、何の奇も新もない。凡て彼等の教師の見地や思想と同じである。故に彼等の教師に見えない世の矛盾缺陷は、矢張彼等にも見えない。特長の異なる色々な人物を澤山造つてこそ、色々な見地や思想も出来て、社會も進歩するが、千篇一律の平凡な俗物ばかりでは、幾人居つても仕方がない。彼等は矢張彼等の教師の如く、精神的そこひであつて、矢張世の悪事が見えない。吁かくの如き教師の手に、大切な子弟を任せて居る國民は禍なるかな。

九

我等はしばしば、我國の學校に於ける非凡な生徒の入學拒絶や、退校處分の報を耳にする。その理由は、これらの生徒は學校の規律に合はないからだ云ふ。我國の學校は規律々と云つて、馬鹿に規律が八釜しい。

我國の教育者は、教育は試験制度で進めることが出来ると思つて居る。故に生徒の學力を、コセ／＼した試験の點數で量る。又た修めた學科の數で量る。ジェームス博士は、嘗てこの制度を『白痴的』と呼んだが同感である。試験の點數や修めた學科の數で、生徒の學力が分るものか。

我國の學校は、教師も校長も俗物ばかりである。又た我國の學校の規律は、これらの俗物が自分を標準として作った堅苦しい規律である。故に非凡な生徒が、これらの規律に合はないのは自然な事である。彼等は事の初めに入學を拒絶されるか、入學しても間もなく放逐されてしまふ。かくて我國の學校からは、氣の利いた店員や體の好い職人さへり出来ない。眞の科學者や眞の哲學者や、眞の藝術家や眞の政治家は全く絶望である。

我國の教育は鉢植的である。一から十まで規律々々と云つて居る。故に非凡な生徒は、在學を許されないか堅苦しい規律に嵌められて、自由な發達を妨げられてしまふ。併し記せよ。教育の理想は、決して試験の點數の高からんことや、修めた學科の數の多から

んことでない。教育の理想は、實に獨創的思想と獨立的見解を養成することである。

我等は、凡骨主義の教育は我國の民主主義に合して居ると考へて居る。先頃も或る督學官が教員を集めて、我國の學校は天才を教育する所でないかと講演した。故に一人の天才を養成するは、千萬の凡骨を製造するに優ると云ふやうな説を述べると、反米國主義の思想だと云つて、四方から攻撃される。

教育の理想は前にも云つたやうに、先天的個性の發展と、獨立的見解の獲得と、獨創的思想の養成である。それには子供の時から、批評心を養つてやらなければならぬ。又た子供の時から、知識欲究理心及び美術文學等に對する嗜好を養つてやらなければならぬ。然るに我國の教育はどうである。

アテネ時代の希臘文明の偉大は、自由教育の賜物であつた。これに反してビザンチウム時代の希臘文明の貧弱は、煩瑣な形式教育の結果であつた。我等は我國を、昔のビザンチウム帝國としてはならない。

生物學、生理學、心理學、精神病學等の研究に由れば、我等は生來非常な能力を與へられて居る。たゞこの能力は我等の表面に現はれて居ない。奥深く潜んで居る。予はこれを潜在能力と稱する。而して潜在能力は即ち天才である。故に天才は、我等が一般に信じて居るやうに、決して或る少數な人に特殊な稀有な能力でない。何人も有つて居る潜在能力である。

我等はこの潜在能力を使用すれば、非常な事が出来る。併し多くの人は教育が善くない爲に、この潜在能力を使用することが出来ない。世に天才の少ないのはこの爲である。故に教育に於いて大切な事は、決して子供の頭に學語や公式を矢鱈に詰め込むことでない。子供がこの潜在能力、即ち天才を自由に使用し得るやうに引き出してやることである。

一體我等は固定した習慣に由つて行動して居れば、精神が少しも働かないで、行動が

全く機械的になる。故に習慣を固定させれば、我等の潜在能力に發揮の機會がなくなる。その結果我等の天才は枯死してしまふ。故に習慣の固定は、子供の教育に於いて最も恐るべき事である。故に子供の習慣は決して固定させてはならない。

然るに我國の教育は、一にも規律二にも規律と云つて居る。實に恐るべき事である。規律は習慣を固定させる。故に子供の潜在能力の發揮を杜絶する。その結果天才が暗から暗に葬られて、外に現はれないでしまふ。

教育者はよく、教育は習慣の形成だと云ふ。否々、教育は習慣の形成でない。習慣の固定を絶えず防いで行くことこそ、教育に於いて最も大切な事である。故に規律々々と云つて、子供の習慣を固定させて、子供を一個の機械にすることは深く戒むべき事である。

子供は規律々々と云つて束縛すべからざると共に、權威を以て壓迫してはならない。

權威を以て壓迫すれば、子供に批評心がなくなる。批評心がなくなれば、獨立的見解や獨創的思想が不可能になる。又た病的な被暗示性を獲得する。その結果精神に色々な障礙が起る。故に子供は、努めて批評心を養つてやらなければならぬ。教育に於いても命令に於いても、決して反問を許さざる底の權威を以て壓迫してはならない。子供は夙にうるさいほど色々な事を尋ねる時期がある。我等はこれを子供の研究時代と云ふ。子供の批評心はこの研究心を捕へて養つてやらなければならぬ。世には子供の質問をうるさがる親が非常に多い。これは甚だしい心得違ひである。子供の究理心は決して抑へてはならない。問ふ事は何でも答へ、尋ねる事は何でも教へてやらなければならぬ。決してうるさがつて、ごまかし説明や間に合せ説明を與へてはならない。神の事でも人の事でも、決して眞を掩ふたり理を枉げたりして教へてはならない。子供の潜在能力即ち天才は、かくの如き教育に由つて初めて引き出され、世の矛盾結陥を見分け得る人になるのである。世の惡事を見分けることの出来ない人は、幾人

居つても娑婆寒さにこそなれ、少しも人類の爲にならない。

誰かに催眠術を施して、これに謂はゆる消極的幻覺の暗示を與へると、その人は鼻の先にある人や物さへ見えなくなる。教育とは、子供をかくの如き消極的幻覺の狀態に陥れることでない。教育とは、實に子供の心眼を開いてやることである。世の惡事即ち世の矛盾結陥が、よく見えるやうにしてやることである。我等人間の理想は、決してアダムとエバの如く、身の裸體なことにも氣がつかないで、樂園の中におさまるかへつて居ることでない。故に我等の教育は、子供を精神的そこひの樂天主義者にする底のものであつてはならない。

一一一

次に問題が起る。然らば子供は、何歳頃に教育を始むべきか。色々な事情から發育の遅れる子供があるから、一概に云ふことは六かしいが、多くの子供は二歳から三歳までの間に教育を始むべきである。

教育者は、そんなに早く教育を始めると、子供に害になると云ふ。併しこれは根據のない説である。子供の究理心は二三歳頃から發動し始める。この時適當な目的物を供給しないと、折角發動し始めたこの究理心が枯死してしまふ。凡て我等の能力は、發動し始めた時適當な目的物に會はないと、枯死してしまふものである。

これに反して、この時期に機に遅れず教育を始めると、子供は一生究理心に富んだ人になる。一體この時期に於ける子供は、詰らない遊びや無意義な馬鹿事よりも、相應な知識に興味を有つものである。それをあんな遊びや馬鹿事が、一番子供に適して居るとは何事であらう。故に子供が一生俗物になるか、一生究理心に富んだ人になるかは、一に教育の始め方に由る。

一三

アリストートルは、嘗て希臘人の誇りは愛知心にあると云つたが、希臘人は全く愛知心に富んだ國民であつた。而して彼等は外國人を、愛知心がないと云ふ廉で野蠻人と呼

んだ。この意味で云へば、我等は凡て野蠻人である。我等は上下揃ひも揃つて愛知心がない。その筈である。我等は大切な究理心の發動期に子供の教育を始めないもの。又たその後、子供の究理心の發達を助けるやうな教育を施さないもの。彼等の究理心は夙の昔に枯死して居るのである。故にどうして知識に興味を有たれよう。見よ我國の少年も青年も、如何に學問を嫌ふかを。

希臘人は子供を早くから教育した。而してそれが子供に害になるなど、云ふ馬鹿な事は云はなかつた。又た彼等の教育は、鉢植主義や詰込主義でなく、究理心の助長に重きを置いた。然るに我國の教育はどうである。

我國の教育は、子供の究理心や愛知心を全く無視して居る。我國の教育は人の教育でなくて體のよい職人や氣の利いた店員の教育である。而して我國の學校には、上は大學より下は小學校に至るまで、たゞ一つの目的きりない。生徒に金取り術を教授することこれである。我等が舉世平凡な俗物なのも無理がない。

ミルは嘗て當時の學校を慨して、英國の學校は生徒に眞の教育を施して居ないと叫んだが、ミルの言は我國の學校にも中つて居る。我國の學校も、生徒に眞の教育を施して居ない。

一四

ミルはかう云つて居る。自分の知力と品性の發展に努めることは我等各人の務めである。處世術や金取り術の如きは捨て、置いて可いと。又た彼は、教育は偉人を造る底のものでなければならぬと云つて居る。

彼は又たかう云つて居る。偉人を造るには、子供の究理心を助長し、愛知心を鼓吹して、出来るだけその知力を引き出してやらなければならぬ。かくの如き教育を施せば、子供は或は、古い頭の人々が驚愕するやうな思想に達しないとも限らない。併し眞の教育は、そんな事に少しも頓着しないで、只管子供の知力の發揮に努めなければならぬと。

然るに我國の家庭は、かくの如き教育には全く適して居ない。我國の母親は、心中着物や帽子や流行や交際以外に何も無い。饒舌屋で見得坊で交際家で、外出ばかり得意である。又た我國の父親は、朝から晩まで金取りにばかり奔命して、偶々暇があれば、玉突きやクリケットに夢中である。かくの如き家庭に育つのも、我國の子供は十歳ぐらゐになつても、読み書きも満足に出来ないのは當然である。彼等は教へられず導かれず、ムザ／＼貴重な時期を浪費して居る。

次に學校も學校である。前にも云つたやうに、我國の學校は、金取りの上手な職人や店員の製造以外に理想がない。併し究理心を助長せず、愛知心を養成せざる學校は何になるか。鉢植的規律を設けて、非凡な生徒の才能を萎縮させてしまふ學校は何になるか。闘戯者養成所宜しくと云ふ大學は何になるか。規律に合はないと稱して、秀才を放逐するやうな學校は何になるか。我國の學校は、凡骨の爲に秀才を犠牲に供し、秀才を貶して月骨を賞して居る。かの如き學校は何になるか。

我國の大學は、大學かベースボール團やフットボール團が分らない。我國の大學からこれらの物を引き去つたら、後に何が残るか。或る人は大學で勉強すれば、知人が澤山出来て卒業後活動に便利だと言ふ。又た或る人は、大學で勉強すればハイカラになつてよいと言ふ。言葉を換へて云へば、我國の大學は運動團に過ぎない。垢抜き場に過ぎない。交友俱樂部に過ぎない。知識的氣分もなく、科學、哲學、文學等に對する興味も認められない。

規律萬能の害は前にも説いた。規律々々と云つて規律で壓迫すると、子供は批評心を失つてしまふ。獨創力を失つてしまふ。意志力を失つてしまふ。又た被暗示性が強くなる。爲に精神に色々な障礙が起る。又た果斷決行がなくなる。その結果自分一人では、何事もすることが出来なくなる。その他色々な害がある。我等はコルセットで腰を緊縮する同胞や、布で足の成長を妨止する支那の婦人を見てその愚を笑つて居るが、規律々々

と云つて鉢植的に子供を壓迫する我等は、彼等以上の愚を演じて居るのである。予は行儀々々と八釜しく云つて、大事な子供を臺なしにした親を澤山知つて居る。

野蠻な思想を抱いて居る人は、かくの如き教育は子供の神経を害すると云ふ。併し予から見ると、今日の教育こそ子供の神経を害するものである。我等は餘り餘計に勉強すると、神経を害すると信じて居る。併しこれは迷信に過ぎない。予は多年多くの精神病患者と、神経病患者を取り扱つて來た經驗に基づいて云ふが、神経はいくら餘計に勉強しても、興味を以て進んでするのであれば、決して害はれない。嫌や／＼ながら無理に勉強する時害はれるのである。然らば今日の教育こそ、子供の神経を害するものなることが明かでないか。

今日の教育は、子供の教育を始むべき時に始めないで、ムザ／＼子供の究理心を枯死させてしまふ。而して後の祭りになつてから漸く始める。而も俄かに何よ蟹よと無茶苦

茶に押しつける。謂はゆる詰め込み主義叩き込み主義の教育を施す。故に子供が學問を蛇蝎視するのは無理がない。これだもの、子供の神経を害せざらんとするも得んやである。

二五二

これに反して、子供を二三歳から教育すると、子供は喜んで、進んで學問を勉強するやうになる。その結果十歳ぐらゐになれば、早や優等の大學卒業生ぐらゐな學力を得てしまふ。而も身體がよく發達し、精神の障礙などは決して起らない。これは決して出鱈目でない。予自身の経験に基づいて云ふのである。

予は子供をかくの如く教育すれば、經濟上から云つても非常な得だと思ふ。試みに思へ。我等は生徒として、及び教員として、教育の爲に如何に多くの時日を費して居るか。これを總計したら實に大したものであらう。又た校舎の設備や教員の給料の爲に、如何に多くの費用を費して居るか。これも總計したら實に大したものであらう。それを若し大學卒業ぐらゐな學力が、十歳ぐらゐまでに得られたらどうであらう。それこそ大

した經濟でないか。然るに我國の子供は、小學校で八年も費して、まだ読み書きが満足に出来ない。併し予は、これを經濟上から嘆ずることを欲しない。永遠に發揮されないで、暗から暗に葬られる數多の潜在能力、即ち數多の天才の爲に嘆くのである。

予はこゝに、かくの如く教育された一人の子供の話をしよう。彼は今年まだ十二歳にさりならない、併し彼は、大學者も往々頭を痛める高等數學と星學が大得意である。又た『イリアス』や『オデッセウス』は、希臘語の原文で暗記して居る。元來彼は古典語が得意で、エスキルス、ソフォクレス、エウリピデス、アリストファネス、ルシアン等の作物を、他の子供が『ロビンソン・クルーソー』などを讀むやうな安易と興味を以て讀んで居る。又た彼は、比較言語學と神話學が得意で、論理學、古代史、米國史等にも詳しい。又た我國の政治や憲法にも通じて居る。

然らば彼の健康はどうかと云ふと、これもこの上なく良好である。彼は今年まだ十二歳にさりならないが、身長や肉づきは十六歳ぐらゐに見える。而も子供らしいところを

二五二

少しも失つて居ない。極めて快活で且つ温良である。一體希臘人は、習慣として早くから教育されたが、彼等は健康で且つ快活であつた。又た彼等の體格は、彫刻にも現はれて居る通り理想的であつた。これを以て見れば、かくの如き教育は、決して子供を精神的にも肉體的にも不自然にするものでない。否我等人間は、本來かくの如く教育さるべきものである。

フランシス・ゴルトンは、嘗て能力を比較すれば、我等近代人の希臘人に於けるは、猶ほ阿弗利加土人の我等に於けるが如きものだと云つた。希臘人は我等より遙かに優秀な人種であつたと云ふ學者は、外にも澤山ある。併しこれは誤りである。我等を希臘人以上の人種にするも、希臘人以下の人種にするも、一に我等自身の手中にある事である。適當な教育さへ施せば、我等を希臘人以上の人種にすることは容易な事である。これを以て見れば、人類の運命を左右するものは教育である。故に教育の問題は人類の大問題である。

一七

子供の教育に關して今一つ大切な事がある。それは子供の精神的衛生である。これは肉體的衛生と同じやうに、豫防法と免疫法の二つある。

子供の時頭にはいつた恐怖迷信等は、病菌と同じやうに精神に故障を起す基である。故に子供には、決して幽霊惡鬼地獄妖怪等の話をして聞かせてはならない。これを以て脅喝することは特に悪い。これは子供の精神的衛生の豫防法である。

併し世には、子供の頭に恐怖迷信等を吹き込む事が非常に多い。故に豫防法だけでは駄目である。更に免疫法を用ひなければならぬ。子供の精神的衛生の免疫法とは外でもない。子供に批評的精神を養つてやることである。而して病的な被暗示性を少なくしてやるのである。さすれば子供は、種痘や豫防注射を行つた時のやうに、世の精神的病菌に會つても、害毒を受けることが少ない。

子供の時頭にはいつた恐怖迷信無智、精神の發育不良等が、如何に精神に故障を起す

基であるかは、到底素人の想像の及ばないほどである。我國には機能的精神病患者と稱する者が何百万人と居るが、彼等は子供の時の教育さへ善かつたら、かくならなかつたのである。又た適當な教育を施せば、有機的精神病も非常にその度を軽減することが出来る。これを以て見れば、人類を救ふものは、今後は醫術と教育である。

一八

予の患者に二十六歳の青年が居る。彼の病氣は鬱憂狂と稱するものである。彼は到底赦されない罪を犯したと云ふ妄想に捕へられて、未來永劫地獄の責苦を受けなければならぬと云ふ恐怖に憑かれて居る。その有様は見る目も氣の毒である。予は彼に精神分析法を行つて見たが、その結果彼の病氣は、五歳の頃日曜學校で、或る無學な女教師から、地獄の恐怖を深く吹き込まれた爲だと分つた。

今一人牧師の妻が居るが、これも鬱憂狂である。彼女は何も蟹も恐ろしい。獨りで居るのも恐ろしい。日が暮れるのも恐ろしい。暗い所は尙ほ恐ろしい。夜は眠られない。

眠つても夢魔に襲はれる。爲に肉が落ち骨が立ち、目が光つて見る者に涙を催させる。然るに彼女の病氣も精神分析法の結果、矢張子供の時教會で、或る牧師からしばしば悪鬼の話が聞かされた爲だと分つた。

かくの如き例は擧げればいくらでもあるが、これらは皆な子供の時の教育さへ善かつたら、決して起らない病氣である。

一九

以上は予の教育論の大意である。併しかくの如き説は、我國の頑固な、高く止まつて居る教育者に訴へても、畢竟無効であらう。故に予はこれを彼等に訴へようとは思はない。頼むはたゞ世の父母諸君及び讀者諸君ばかりである。さて諸君は諸君の子供を、平凡な俗物にせんと欲するか、或は卓拔な天才にせんと欲するか。これは共に諸君の手中にある事である。

第六章 バール博士の教育法

予は前章に、サイディス君の父サイディス博士は、本来露西亞人で亞米利加人でない
と云つたが、面白い事にはバール博士も、本来亞米利加人でなくて獨逸人である。序な
がら、キーナー君の父キーナー博士も本来露西亞人である。

バール博士は先頃までタフツ大學の神學教授であつたが、今は止めて居る。その前は
ボストンの牧師であつた。第一章に述べたやうに、博士に『家庭に於ける學校』(Atoll
Barle, The School in the Home)と云ふ著書があるが、これは一九一二年、博士がタ
フツ大學の教授であつた時書いたもので、中々面白い本である。併しその内容は、本
書をこゝまで読んで來た諸君には、大抵分つて居る事だけで、詳しく紹介する必要がな
いやうである。ところがこの本を著はすと、博士は讀者から、讚辭やら質問やらの手紙

を何百通となく受け取つた。而してその手紙には、大抵同じやうに、博士の教育法を詳
しく書いて公にして呉れと云ふ願ひがあつた。博士は今大學教授を止めて、家庭教育
の通信學校を開いて居るが、これは『家庭に於ける學校』の反響が案外多く、博士の教
育法を知りたいと云ふ者が非常に多かつたから、この教育法を世間に弘める爲に、こゝ
に至つたのであるまいかと思はれる。尤もこれは予の想像に過ぎない。兎に角博士は、
昨年讀者の要望に應じて、一冊の本を公にした。それは『家庭に於ける教育』(Teach-
ing in the Home)といふ本である。

『家庭に於ける教育』の内容は、幼い子供に色々な學課をどんな風に教へれば可いかを
示したもので、これも一々紹介しては餘り面白いものでない。故に予は、左に兩書から
一般的な事だけ紹介する。

二

バール博士も子供の教育は、早くから言葉を良く教へることから始めなければならな

いと説いて居る。博士はこの事を、「家庭に於ける學校」にも、「家庭に於ける教育」にも力説して居る。言葉は子供が知識を取り入れる道具であるから、出来るだけ早くこの道具を與へなければならぬ。併したゞ早くから言葉を教へるだけでは十分でない。早くから良く教へなければならぬ。即ちそれを明晰に發音すること、その意味を正確に覺えることを教へなければならぬ。

かう云ふ理由から、パール博士もギッテの父のやうに、子供に片言や訛言を教へることを排斥して居る。成程片言や訛言は、子供が發音するに容易である。併し正確な言葉も、よくさへ教へれば、二歳ぐらゐの子供は大抵發音が出来るものである。一體子供の教育上、教へてやらせれば出来る事を、態とやらせないで置くと云ふことほど愚かな事がない。ラマルクが云つたやうに、用ひざれば發達せずで、出来る事をやらせないで置けば、子供の能力がそれだけ發達しない。世にこんな愚かな事がない。次ぎに子供には、いぬと云ふ言葉を覺えることも、わん／＼と云ふ言葉を覺えることも

同じ負擔である。而して前者は、早晩是非覺えなければならぬ言葉であるが、後者はこれに反して、間もなく捨てなければならぬ言葉である。子供の教育には、經濟主義が肝要である。然るに間もなく不用になる言葉を教へて、その負擔を二重にする。世にこんな不經濟な事があるまい。子供はその骨折りで別な言葉を覺えることが出来るでないか。子供をよく育てるには、先づ一生懸命でその語彙を豊富にすることが必要である。故に片言などを教へて居らるべきものでない。然るに世には、子供の片言は可愛らしいなど、云ふ人があるが、これは非常な贅澤、高價な贅澤と云はなければならぬ。併し子供に、片言を教へる害はこゝに止まらない。世には十四五歳になつても、甚だしきに至つては大人になつても、或る言葉を正確に發音することの出来ない子供が澤山あるが、これは親が悪いからである。今日小學校の有様を見ると、教員は積極的な仕事によりも、こんな悪い癖を直したりする消極的な仕事に、より多くの時間を奪はれて居るが、誠に悲しむべき事である。新しく教へることによりも、既についた癖を直すこと

に、より多くの時間を要することは、心理學者に聞かなくとも明かな事である。
 然るに世には、子供が或る言葉を可笑しく發音したり、可笑しな意味に用ひたりすれば、その間違ひを面白がつて、自分もその言葉を子供の發音するやうに發音したり、子供の用ひるやうな意味に用ひたりして相槌を打ち、敢てその間違ひを正さうと思はない親があるが、これは非常な心得違ひである。かう云ふ事をすれば、子供は何時までも自分の間違ひに氣がつかないから、その間違ひは直すことの六かしい習慣になつてしまふ。

パール博士もギッテの父のやうに、子供の語彙を豊富にする爲に、盛んにお話をして聞かせることを勧めて居る。併しお話は、話して聞かせるばかりでなく、しばしばそれを子供に繰り返させなければならぬ。而して言葉使ひの間違ひや、發音の間違ひなどを正してやるのである。

パール博士の教育は、ギッテの父のそれから來たものと見えて、その云つて居る事

は、ギッテの父の云つて居る事と殆ど同じであるが、博士も子供には、出来るだけ本に書いてあるやうな言葉を教へなければならぬと云つて居る。さうすれば子供は、たやすく本を読み得るやうになる利益がある。かう云ふ理由からパール博士は、お話はたゞ話して聞かせるよりも、良い本を選擇して、明晰にゆつくりと讀んで聞かせる方がよいと云つて居る。

これは我國の子供には當てはまらない事であるが、パール博士は又たかう云つて居る。英語の聖書は無雙の美文である。世に聖書のやうな美文は滅多にない。(これはパール博士の私言でなくて、一般の定評である)而して聖書のやうな立派な本は世に又たもないから、子供に讀んで聞かせるにはこれほど良い本がない。故に毎日これを明晰に讀んで聞かせることは、子供に立派な英語を教へるに最も良い方法である。又た子供に立派な品性を與へる助けにもなると。併し邦譯の聖書は、寧ろ難澁信屈な文章で、大人にも甚だ分り悪い。故に子供には逆も分らない。

簡単で口調の良い詩は記憶し易いから、子供には澤山詩を教へる方が可いとはパール博士も云つて居る。併し我國には、子供向きの良い歌の多くないのが遺憾である。

パール博士は、子供の頭を訓練するに、語學ほど良いものはないと云つて居る。故に博士は、自分の子供に早くから英語の外に、獨逸語、拉典語、希臘語、希伯來語等を教へた。博士に由れば、言葉を正確に用ふることは正確に考ふる所以である。言葉を曖昧に用ひさせて置けば、子供の頭が決して良くなるらない。ところが子供に色々な國語を教へると、子供に言葉の意味を正確に知らせる効がある。その結果子供の考へが正確になると。併し子供に外國語を旨く教へることは、中々手腕を要する事である。博士は「家庭に於ける教育」に、色々な注意を與へて居るけれども、煩はしいから紹介しない。次にパール博士は、精神的施肥 (mind fertilization) と云ふ事を説いて居る。曰はく、肉體に食物が必要なやうに、何故に精神に食物が必要でないか。胃囊によく吟味し

た食物が必要なやうに、何故に頭によく吟味した食物が必要でないか。我々が子供に養分のある、而も消化し易い食物を與へるやうに、何故に我々は子供に精選した知識を與へないで可いかと。全く我々が子供に養分のある消化し易い食物を與へるやうに、我々は彼等に有益な知識を、分り易く調理して教へなければならぬ。知識は精神の食物である。子供に知識を與へないで、その精神の發達を望むのは、謂はゆる木に縁つて魚を求めらるやうなものである。

パール博士は子供に知識を與へるに、よく食事の時や遊びの時間を利用した。その方法は、その折々に適當な題目を選んで、子供に分り易いやうによく考へて話して聞かせ、子供に質問を奨励し、自分も彼等に質問を試みて、色々な知識を得させるのである。而してその題目は、食卓上の品物なこともある。新聞の記事なこともある。近所の出來事なこともある。近頃本で讀んだ事なこともある。かくの如くにして、子供に知識に對する興味を起させると、子供は熱心に知識を求めらるやうになる。その結果本を

読んで面白いし、従つて本に親しむやうになる。
謂はゆる精神的施肥の効果は實に驚くべきもので、パール博士はこんな例を數例擧げて居る。

「或る労働者が、予の家の前に働いて居つた關係から、予はこの労働者と知り合ひになつた。予は門を出る時しばしば彼と話をしたが、彼は或る日、予に一つの心配を打ち明けた。それは彼の子供が、小學校に通つて居るが、どうも出来なくて困ると云ふことであつた。そこで予は學校に行つて、その子供の様子を聞いて見ると、成程成績が非常に悪い、今度も進級の見込みがないと云ふことであつた。そこで予はその子供を懐かせて、その年の夏休みに、予獨特の教育を施した。すると彼はその九月に、中學校の入學試験に及第し、それを首尾好く卒業して、次ぎに法律學校に入學し、それも首尾好く卒業して、今は立派な辯護士になつて居る。彼は法律に詳しいのみならず、又た文筆に長じ、立派な人格を有つて居る。」

又たパール博士は、子供の時間は一般に無爲に浪費されるのが常であるが、これは善くない。子供の時間の空費は無効のみに終らない、必ず有害になる。故に親はよくこれを監督して、時間を有効に使用するやうにしなければならぬと説いて居る。

四

併しパール博士は、子供を育てる上に最も大切な事は、自分の子供を見くびらないことだと云つて居る。博士もギッテの父のやうに、子供の稟賦に差のあることは勿論であるが、その差は negligible で、勘定に入れる必要がないと云つて居る。

次ぎに博士は、子供を育てる際、その経過を記録に留めることを勧めて居る。これは毎日書けば一番可い。而してその記録する事は、子供に何と云ふ言葉を新たに教へたとか、子供が何と云ふ言葉を初めて使つたとか、何事に興味を起したとか、どんな悪い傾向を表はしたとか、どんな事で叱つたとか、どんな事で褒めたとか、どう云ふ智能を表はしたとか、どう云ふ知識を與へたとかと云ふやうな事である。かう云ふ風にすれば、

何と云ふ言葉は既に教へたが、何と云ふ言葉はまだ教へないとか、どう云ふ事は既に知つて居る筈だが、どう云ふ事はまだ知らない筈だと云ふやうな事が明かであるから、教育を有効に進歩させることが出来る。又たこれに由つて、善い習慣を造つたり、悪い習慣が出来たのを防いだりすることが出来る。又た豫め作つた計画を、着々と實行して行くに便利である。これに反して記録を留めない、豫定も計画もなく、宛で航海者が航海日記をつけないやうな有様である。この事は一見極めて厄介な事のやうに思はれるけれども、實際やつて見ると非常に面白いものである。朝顔が毎日生長するのを眺めることにさへ、中々興味のあるものである。況んや自分の子供が毎日成長するのを注意すること、興味のない筈がない。而してこの興味は、その成長の経過を毎日記録に留めることに由つて、最もよく味はふことが出来る。

最後にパール博士は、子供をよく教育しようと思ふ人に、熱心と不撓の忍耐を勧めて居る。曰はく、世に子供を育てる親を監視する人がない。故にしなければならぬ事を

しなかつたり、豫定を實行しなかつたり、計画を猥りに變更したりしても、決して制裁を受けることがない。親は絶對的に自由であるから、ともすると義務を怠り易い。故に親たる者は熱心と不撓の忍耐を以て、忠實に豫定の實行や計画の遂行に努めなければならぬと。

第七章 ストーナー夫人の教育法

一
 井ッテの父の遺著『カール・井ッテの教育』を讀んで自分の子供を教育し、驚くべき結果を収めた人がもう一人ある。それは目下ペンシルヴァニア州のピッツバーグ大學に、語學を教授して居るストーナー夫人である。夫人はラドクリフ女子大學の出身で、自分に初めて早教育の觀念を與へて呉れた人は、故ジェームス博士であると云つて居るから、『カール・井ッテの教育』の價値を最初に認めて人々に紹介した人は、ジェームス博士であつたらしい。試みにサイデイス博士の教育説を、ジェームス博士の潜在能力に關する論文に比較して見よ。必ずや思ひ半ばに過ぐるものがあらう。サイデイス博士等は、『カール・井ッテの教育』をジェームス博士に紹介されたのに相違ない。夫人の子供はキニフレッドと云ふ一人娘で、今年十四歳の少女であるが、彼女は三歳

の時から詩文を好くし、四歳の時エスペラントで劇を書いた。彼女の詩や物語は、五歳の時から色々な新聞や雑誌に現はれ、その中の或るものは本に纏めて出版されて、非常に好評を博した。

ストーナー夫人は、キニフレッドが十二歳の時、即ち一九一四年に、W. S. Stoner, Natural Education と云ふ本を書いて、自分の教育法を、にしたが、中々面白い本であるから、左にその各章の大意を紹介する。但し第一章は序論であるから省略する。尙ほ同書は、キスコンシン大學の教育學教授オシア博士が夫人に勸めて書かせたもので、同博士の輯監に係はる The Childhood and Youth Series の一篇である。

二

私がキニフレッドに施した教育は、五感の訓練から始まつた。凡ての能力は用ひなければ永久に發達しなくなる。故に子供の五感は、早くから發達させなければならぬ。而して五感の中でも、先づ第一に耳を發達させなければならぬ。故に母が、赤兒

に調子の好い歌を歌つて聞かせることは、極めて大切な事である。併し私は、歌が出来ないので少なからず當惑した。ところがひよつと思ひついた事は、グーデルの「アイネイス」の口調が非常に氣持が好いが、あれを赤兒に、靜かに朗讀して聞かせたならどうだらうと云ふ事であつた。そこで早速これを実行して見ると、その結果が思つた通りであつた。即ち「アイネイス」を靜かに朗讀して聞かせると、赤兒が直ちにすやくと眠につくことを發見した。私はその後これを外の子供に適用して見たが、矢張り結果を得た。子守歌と云つても、大抵な子守歌は赤兒の耳にさはる所があるが、グーデルの「アイネイス」にはそう云ふ所が全くない。それで私は、グーデルの「アイネイス」は、立派な大史詩たると同時に、この上もなく立派な子守歌だと云ひたい。キニフレッドが生れてから六週間になると、私は今度は、色々な英語の名詩を朗讀して聞かせた。すると私は、偶然面白い事を發見した。それは詩の口調が變るにつれて、赤兒に違つた影響を與へると云ふ事である。例へばテニソンの Crossing the Bar

(彼の辭世) は赤兒を靜かにするが、マコーリーの Horatius at the Bridge は赤兒を興奮させる。それは兎に角、かう云ふ事をした結果、キニフレッドは満一歳になるまでに、「アイネイス」第一巻の最初の十行と、Crossing the Bar を覺えてしまつた。これは決して無理に教へたのでない、自然に覺えたのである。キニフレッドは特に後者が氣に入つたと見えて、毎夕これをお祈りのやうに繰り返した。

私は又たキニフレッドに、毎日古今の名曲を弾じて聞かせた。それから音の觀念を與へる爲に、ドレミファ七つの音を發する七つの小さい鐘を買つて、これに赤橙黄緑青藍及び紫のリボンをつけた。而してこれらを、赤の鐘、橙の鐘、黄の鐘、緑の鐘等と名づけた。私は毎日これをキニフレッドに敲いて聞かせると、彼女は六月にならないうちに、青の鐘でも紫の鐘でも、私の云ふ通りの鐘を、間違ひなく敲くことが出来るやうになつた。これは音の觀念と色の觀念を同時に與へる効があつた。私は又たしばしば稜鏡を用ひて、壁の上に七色を出して見せたが、キニフレッドはこれを見るのが

大好きであつた。彼女は泣いた時でも、これを見せると泣き止むのであつた。

私は子供部屋の周圍に、色々な名畫の模寫をかけ、又た有名な彫刻の模造を並べて置いた。私はキニフレッドが極く小さい中から腕に抱いて、これは卓子、これは椅子と云ふ風に、部屋の中の色々な物の名を呼んで聞かせたが、同時にこれらの繪や彫刻の名を呼んで聞かせた。又たこれは赤い上衣、これは青い袴と云ふ風に、繪の局部の名も呼んで聞かせた。キニフレッドは、初めは繪の色にだけ引きつけられるやうであつたが、だん／＼その意味が分るやうになつた。又た私は、美しい花卉や鳥獸の繪を澤山備へて置いて彼女に見せた。

私は又た、キニフレッドが何も分らない中から、美しい繪のある繪本を見せながらそれを讀んで聞かせた。するとキニフレッドは、おとなしくしてそれを聞いて居るのであつた。これに由つて見ると、子供は何も分らない中でも、母の聲や繪本の色に興味を感ずるやうである。

若し母が繪が書けると、子供は非常に幸福である。私はしば／＼キニフレッドを相手に、色々な話の筋を繪に書いて楽しんでた。これは非常に子供の知見を廣くする。我國の新聞には、茶目のいたづらなどが澤山書いてあるが、これは書いてある事も悪いし、その畫風も非常に墮落したもので、子供の徳性と趣味を害することが夥しい。故にかう云ふ物は子供に見せない方がよい。新聞のポンチに限らず、凡て悪い繪は子供に見せない方がよい。

私はキニフレッドの色覺を發達させる爲に、又た色盲検査に用ひる試験色糸を買ひ求めて、これを彼女の玩具にした。我々はこれを以て色々な遊びをすることが出来る。私はかう云ふ遊びを、特に男の兒を有つて居る母に勧める。何となれば男の兒は、女の兒より觸覺は鋭敏であるが、色覺は劣つて居るからである。故に男の兒は、小さい時色覺をよく發達させないと、色に對する觀念が非常に鈍くなる。

私は又たキニフレッドに、色々な色で美しく彩色した小玉や木片を買つて與へた。

これは小さい子供には非常に良い玩具である。又たキニフレッドの人形は、矢張色々な美しい色の着物を着たものであつた。私はこれらの玩具を色々を利用して、彼女の色覚を發達させることに努めた。

クレイオンも子供に良い玩具である。私はこれを以て、キニフレッドとよく『色競争』と云ふ遊びをした。それは大きな紙を求めて、或る出發點から私が先づ、例へば赤のクレイオンで一寸ほど線を書く。すると次にキニフレッドが、矢張赤のクレイオンで、私の書いた線に平行に、矢張一寸ほど線を書く。次に私は、今度は例へば青のクレイオンで一寸ほど線を書き足す。するとキニフレッドも同じ事をする。かう云ふ事を何處までも續けるのである。而して若しキニフレッドが、私と違つたクレイオンを用ひれば、後は進行が出来ない規則で、遂に彼女が負けるのである。

キニフレッドが歩き得るやうになると、私は彼女をしばしば散歩に連れ出した。而して海の色や林の色や、空の色や野の色や、建物の色や人の着物の色等に彼女の注意を呼んだ。これは皆な、彼女の色覚を發達させる爲であつた。

私は又たキニフレッドと、しばしば『鵜の目鷹の目』と云ふ遊びをした。これは商店などの前を通る時、そこを大急ぎで通り過ぎて、通り過ぎてから、今の店の陳列窓には、何々があつたかと問ふのである。これに對してキニフレッドは、記憶に残つて居る物を列挙する。それが澤山あればよいが、私が記憶して居つて彼女が記憶して居ない物が澤山あればいけないのである。この遊びは、彼女の注意と記憶を發達させる効があつた。その結果、彼女が僅か五歳の時、ニウヨーク州のシトローク大學で、同大學の教授等に、The Battle Hymn of the Republic (亞米利加の有名な軍歌) をたゞ一回讀んだ後に、それを繰り返して見せて彼等を驚かしたことがあつた。

私はかう云ふ事をして、キニフレッドに物を注意して、而も敏捷に觀察する習慣をつけた。それで彼女がまだ二歳の時、彫刻の模造を賣る店に一所に連れて行くと、店員に『貴方の所には『ゼニヌス・ドゥ・ミロ』も『ゼニヌス・ドゥ・メデイシ』もありませぬね、』と

云つて驚かしたことがあつた。

キニフレッドが生れてから六週間の時、父は彼女に赤い風船玉を買つて呉れた。それを私は彼女の手頸に短い糸で結んでやると、手を上下に動かす毎にそれも上下に動くので、彼女の喜びは非常であつた。私はその後毎週別な色の風船玉に更へた。私は後にこの遊びから、彼女に赤い、青い、圓い、軽い等の形容詞をたやすく教へることが出来た。

又た私は、彼女に砂紙を貼つた木片や、他の色々な物を持たせて、ざら／＼する、すべ／＼する等の形容詞も教へた。赤兒は手に持つて居る物を、直ぐ口に入れるものであるが、小さい時からさへよく注意すると、この習慣はつかないでしまふ。これに就いて可笑しい話は、キニフレッドがまだやつと二歳の頃、或る知人の家に連れて行くと、そこのお嬢さんが、自分で拵へたのだと云つて美しいお菓子と菓子を與へた。すると彼女は私に、「お母さんこれは口に入れても可いの」と聞いて、そのお嬢さんを閉口させた。

併し私は、キニフレッドにかう云ふ教育を施しても、決して彼女に物を強いたり無理にやらせたりしたのでなかつた。一體子供は、生き物である以上絶えず精力を發出する。私はその精力が無駄に浪費されないので、能力の發達に資するやうに仕向けただけであつた。かう云ふ教育を施せば、子供は絶えず或る事に従事して居るから、する事がなくて指をしやぶつたり、退屈して不氣嫌になつたり、泣いたりすることが決してない。

三

赤兒は早くから、人の聲や物の音に注意を向けるが、これを見ても子供は早くから、言葉を教へ得るものであることが分る。それで私は、キニフレッドが極く小さい時から、話の分る子供に對するやうに話しかけた。併しその言葉は、世の多くの母が用ひるやうな片言は決して用ひなかつた。世に子供に、片言を教へることほど無意義な事が無い。子供は片言を教へられることに由つて、二種の言葉を覚えなければならぬと云ふ

徒勞をするのみならず、大きくなつてからも、正確な發音が出来ないと云ふ悲しむべき損害を受ける。子供には、出来るだけ早く多くの言葉を教へる必要があるから、決して片言のやうな不經濟なものを教へてはならない。

タフツ大學教授のパール博士は、一人の一生中、赤兒時代ほど大切な時代がない。我々は有らゆる手段を盡して、子供の身體の成長を計るでないか。然るに人々は、子供の精神の發達を計る手段を取ると、皆な驚いてしまふ。子供の精神の發達を計る手段とは、子供に早くから言葉を教へることである。人々はこの事に就いて、全く間違つた考へを有つて居る。言葉は思想の道具であつて、子供に早くから言葉を教へなければ、その精神がよく發達することが出来ない。それで我々が若し、子供が六歳になるまで一生懸命に正しい言葉を教へると、その子供は必ず、外の子供がどんな事をして、到底追いつくことが出来ないほど先に進んでしまふ」と論じて居る。

世には立派な教育を受けた人で、間違つた發音をしたり、間違つた語法を用ひたりす

る人が澤山あるが、これは子供時代の教育が悪かつた結果である。私はかう云ふ人の中に、數人の大學教授と二人の有名な著述家を知つて居る。

私はキニフレッドが生れた時から、彼女に出来るだけ正しい、出来るだけ立派な英語を話して聞かせた。併し私は、片言は排斥しても俗語は排斥しなかつた。俗語には、その俗語でなければ到底云ひ表はすことの出来ない意味がある。而して我々の思想が進むにつれて、新しい觀念が絶えず殖えて来るから、これを云ひ表はす爲に、かう云ふ俗語が絶えず新しく出来て来る筈である。故に俗語を排斥しては時代に後れてしまふ。併し私は、絶對的にキニフレッドに片言を教へなかつた。パール博士が云つて居るやうに、我々は一歳ぐらゐな赤兒に、たやすく五綴りぐらゐな言葉を教へることが出来る。故に赤兒に片言を教へなければならぬ理由は少しもない。キニフレッドがまだやつと一歳の時、或る友達が「キニフレッドさん、あのわんくを御覽、」と云ふと、彼女は「あれはわんくでありません、犬です、」と云つてその人を驚かしたことがあつ

た。

私は并ッテの父が百年前試みたやうに、キニフレッドがまだ話が出来ない中から、腕に抱いて部屋の内外の物を、これは椅子、これは本箱と云ふ風に、緩かに且つ明晰に名を呼んで聞かせた。その結果彼女は、満一歳の頃はどんな話でも出来た。人々はこれを見て驚いたが、私の夫はさう云ふ時は、「妻は娘が生れたその時から、言葉を教へ始めたのだから、そのくらゐな事は當り前さ、」と云ふのが常であつた。

私は、赤兒時代の言葉の教育は、一生その人の言葉に影響すると信じて居つたから、發音を正しく、精選した言葉と語法でキニフレッドに話すことに注意した。ハーバート・スペンサーは、自分は六十歳になるまで文法と云ふものを覗いたことがなかつた。それもほんの好奇心から覗いて見たのであつたと云つて居るが、實際文法と云ふものはさう大切なものでない。特に子供には餘り必要でない。私はキニフレッドに八歳になるまで文法を教へなかつた。子供に言葉を教へるには、文法に由つて教ふべきものでない。

い、耳と口で教ふべきものである。

子供は話すことが好きなものである。極く小さい時でも、覚えて居る単語を繰り返して、一人で楽しんで居るものである。私はこの傾向を利用せんが爲に、子供に分る面白い話を、精選した言葉で短い形に直して、これをキニフレッドに覚えさせた。すると彼女は、しばしそれを喜んで繰り返した。

私は後にこれらの話を、色々な外國語に翻譯して、それを彼女に覚えさせたが、彼女はたやすくそれを覺えた。私の経験から見ると、人は一生中一歳から五歳までの間に、最も語學の才能があるやうである。

私はキニフレッドに、出来るだけ早く主な外國語の基礎を教へてやらうと思つたけれども、「アイネイス」の暗誦の外は、彼女が英語をよく話し得るやうになるまでは、外國語を教へなかつた。或る言語學者は、子供は同時に、二つ或は三つの國語を覺えることが出来る云ふけれども、私の経験に由ると、これは子供を苦しめて、而も子供は

どの國語も旨く出来ないやうである。

キニフレッドが英語をよく話し得るやうになるや否や、私は彼女に西語を教へた。その方法は矢張りからであつた。私はどうして西語をキニフレッドの第一外國語に選んだかと云ふと、歐羅巴の國語中で、この國語が一番簡單だからである。子供の語學の才能は驚くべきもので、キニフレッドは五歳までに、實に八個國語で自分の思想を云ひ表はすことが出来るやうになつた。若し私が、その後も語學の教授を續けたなら、彼女は十個國語でも二十個國語でも覺えたらうと思ふ。併し私は丁度その頃、エスペラントが今後世界語となるだらうと考へ始めたので、そんなに色々な國語を教へても仕方がない、後はエスペラントさへ教へればそれで澤山だと考へて、それだけで切り上げた。

若し私が、今一度子供を育てることになつたなら、今度は初めに英語を教へ、後はエスペラントだけで切り上げるつもりである。エスペラントは非常に簡單な言葉で、ト

ルストイなどは、これを一時間勉強したとだけで手紙を書くことが出来たと云ふ。故にエスペラントは、どんな子供でも、搖籃の中に居る中に覺えることが出来る。

キニフレッドは四歳の時、エスペラントの読み書きは勿論、自由にこれを話すことが出来た。この年彼女は、この言葉で劇を書くことを企てた。而してそれは、ジュリア・ピアバツィ女史の助力に由つて完成したが、或る慈善會で演ぜられた。これは我國で上場された最初のエスペラント劇である。

キニフレッドは翌年五歳の年から、外の子供にエスペラントを教へ初めた。その方法は矢張り、私が彼女に語學を教へる爲に發明した色々な遊びに由つてあつた。又た彼女自身もその目的の爲に、色々な言葉遊びを發明した。

この年私は、ニウヨーク州のシトクで、エスペラント宣傳の爲にしばらく講演をしたが、その時キニフレッドは、エスペラントが簡單で覺え易い言葉であることを知らせる爲に、聴衆に色々なエスペラントの詩を暗誦したり、話をしたりして聞かせた。

又た彼等にエスペラントを教へた。その結果澤山の賛成者を作つたが、我國でキニフレッドほど澤山のエンペラント賛成者を作つた人はあるまい。

同年同地で、内國エスペラント大會が開かれたが、その折キニフレッドは、プリンストン大學のマクロススキー教授が作つた詩を朗讀した。その時彼女は、丈が低いので卓子の上に立つて朗讀した。次に五歳の彼女と、既に七十路の坂を越した白髪のマクロススキー教授は、この世界語を用ひて會話をしたが、その對照が誠に奇觀であつたので、席上多くのエスペラント賛成者が出来た。次に彼女は、フライアーのエスペラント讀本を用ひて、彼等にこの言葉を教授した。

序ながら、キニフレッドがスペンサー夫人の家の椽側で、ノックス大學（カナダ）の或る教授に、エスペラントの手ほどきをして居ると、或る保守的な大學教授が私に、「奥さん、貴女は間違つた事をしましたね。失禮ながらお嬢さんは、あれでは長生きしませんよ、と云ふ。私は『娘は弱さうに見えますか、』と云ふと、『いや、外見はあてに

なりません。併し子供の中にあんなに頭を使はせては、決して長生きすることが出来ません、と云ふ。私は『さうですかね、』と笑つて置いた。

次にキニフレッドは運動に行つたので、私はその教授に、『娘がこれから丸薬を呑むところですから見て下さい、』と云つて、運動場に連れて行つた。而して『あれが娘の丸薬です、』と云つて、彼女が二歳年上の男の兒と、毬投げをして居るところを見た。彼は私と木の下に休みながら、キニフレッドが二歳年上の男の兒に、毬投げに於いても駈けつここに於いても跳びつここに於いても、決して負けないのを見て驚いた。

ショットクッからエヴンスギルに歸つてから、キニフレッドはエスペラントを知つて居る外國の子供に手紙を出した。彼女はそれらの子供の名と住所を、エスペラント年報の中に見出したのである。間もなく露西亞から返事が来たが、彼女の喜びは非常なものであつた。これが原因となつて、彼女は露西亞が好きになり、露西亞に關する色々な本を讀んだ。次に日本、印度等の子供とも文通したが、矢張これらの國にも興味を有つやう

になつて、その地理や風俗を研究して楽しんだ。これに由つて思ふに、地理に興味を有たせるには、子供にエスペラントを教へて、外國の子供と交通させるに限る。又たかくすれば、だんく、各國民の意志が互に疏通するやうになつて、その効果は平和協會のそれ以上だと思ふ。

キニフレッドは目下「米國少年平和同盟」の會長を務めて居る。この會の目的は、各國の少年少女の間に友情を造つて、將來國民と國民の間に人種的偏見が起らないやうにし、以て平和の到來を促進することである。この會の會員は、必ずエスペラントを學んで、少くとも一人の外國の少年少女と交通する義務がある。又た毎月例會を開いて、その時會員は、互に外國から受け取つた手紙を朗讀する。又た毎會一國づゝ、外國の風俗や風景を幻燈で映して紹介する。又た會員は、外國の少年少女と、繪はがきや、郵便切手や、押し花や、他の色々な珍しい物を交換する。キニフレッドはかう云ふ物を山のやうに澤山有つて居る。それは世界中の殆ど有らゆる國の子供と交換して得たものである。

る。この中で最も珍らしいのは、或る支那の少年がエスペラント五千語で書いた支那の歴史である。それは一枚の大きな美しい支那紙に書いたものであるが、その國の人の書いた歴史には何處か違つた處がある。我國には、支那や日本の歴史が澤山あるけれども、大抵支那や日本に三四ヶ月逗留して書いたものである。我々はかう云ふ歴史に由つて、決して支那や日本の歴史を眞に知ることが出来るものでない。

米國少年平和同盟の會員は、又たエスペラントの宣傳に従事する。或る所に跋で世を果なんで居る少年があつたが、キニフレッドはこの少年にエスペラントを教へた。すると彼は俄かに幸福な身となつた。どうしてかと云ふと、彼はこの言葉を用ひて、色々な國の少年少女と交通して、例の如く繪はがきや、植物の標本や、他の色々な物を交換することを覺えて、今はこれらの物を整理したり、手紙を書いたりする爲に、中々忙がしいので非常に楽しく暮して居る。世にはかくの如き幸福を享け得る子供が、外に澤山居ると思ふ。

キニフレッドは矢張五歳の時、色々な面白い歌をエスペラントに翻譯した。蓋しこれらの歌は、極めて面白い歌であるから、これをエスペラントに翻譯すれば、世界中の澤山の子供を喜ばすことが出来ると考へたからであつた。これらの譯歌は、北米エスペラント協會から、一冊の本にして出版されたが、この爲に澤山のエスペラント賛成者が出来たやうである。スタンフォード大學のロマンス語教授ゲラード博士は、これらの譯歌を評して、「これらの譯歌は、譯者が専門の言語學者兼立派な詩人にして初めて出来る底の出来ばえである。ところがこれは僅か五歳の少女の筆だと聞いては、たゞ驚くの外はない」と云つた。

キニフレッドは目下、ピッツバークに於ける最も若い教師として有名である。彼女の教へる級は、五歳から十四歳までの數多の少年少女で、教室にはカーネギー研究所の職員室を用ひて居る。彼女の教授法は、遊びや唱歌を利用したもので、時には博物館に連れて行つて實物教授をする。彼女はこれが爲に、色々な参考書を讀んで下調べをする。

キニフレッドはこの級にエスペラントを教へるに、一つの新しい方法を探つて居る。それはエスペラントの文章を、極く有りふれた、何人も知つて居る歌曲で歌はせるのである。この方法は、私自身もピッツバーク大學の學生に應用して見たが、極めて効果がある。又たキニフレッドは、この級の生徒に、自分の書いたエスペラントの教科書を用ひさせて居る。これも彼女の考案に成つたもので、極めて便利なものである。

四

故ジエームス博士は、私に初めて早教育の觀念を與へてくれた人であるが、博士は常に、子供は精神の訓練を受けることが早ければ早いほど可い。而して我々はこの訓練を、遊びの形に於いて與へなければならぬと云つて居つた。

遊びは動物の本能であつて、有らぬ動物は遊びをする。子猫は親猫の尾にじやれるし、子犬は親犬と咬み合ひの眞似をする。これは何故か。子猫が親猫の尾にじやれるのは、將來鼠を捕る能力を發達させる爲である。又た子犬

が親犬と咬み合ひの眞似をするのは、將來野獸を咬み殺す能力を發達させる爲である。子供も同様に、將來用ふる能力を發達させる爲に、遊びをしなければならぬ。而してその遊びは、この將來用ふる能力を發達させると云ふ目的に適つたものでなければならぬ。故に子供の遊びは放任して置かないで、親がこれを有効に指導しなければならぬ。いことは明かである。犬や猫でさへ子の相手になつて、共に遊んでやるでないか。親たる者は喜んで、子供の相手になつて共に遊んでやり、以てその身體の發育と、その知性及び徳性の發達を計らなければならぬ。

私はキニフレッドの教育を、凡て遊びの形に於いて施した。先づ彼女が六ヶ月になると、私は子供部屋四壁を、四尺ほどの高さの白い厚紙で張りつめた。而してその上に、赤い紙から綺麗に切り抜いた文字や數字を貼りつけた。即ち一方には、大小の ABC 二十六文字を貼りつけ、他の方には、bat, cat, lat, mat, pat, rat: bog, dog, hog, log と云ふやうな、簡単な單語を秩序好く貼りつけた。これらの單語は凡て名詞で

あることに注意して貰ひたい。又た他の方には、1 から 10 までを十列に並べて貼りつけ、他の一方には、樂譜の繪を書いた。

子供は見る物によりも、聞く物に注意するものであるから、私はキニフレッドに、耳から ABC を教へやうと考へた。併し私は残念ながら、歌が出来ないので少なからず不自由を感じた。併し幸に、乳母が唱歌が旨かつたので、私は ABC を指しながら、乳母にこれを歌のやうに歌はせた。勿論こんな事をして、相手は六ヶ月の赤兒であるから、初めの中は謂はゆる馬耳東風であつた。併し毎日聞かせ、毎日見せると云ふことは恐ろしいもので、毎日かうして居ると、間もなくキニフレッドは、ABC を覺えるに至つた。

次に私は、カード形の小板に、大小の ABC を書いたものを澤山作らせて、これを以て綴り方を教へ始めた。その方法はかうである。例へば先づ繪本などで猫の繪を見せて、それを cat と教へる。次に壁上の cat を指し示して、幾度も cat, cat と發音し

て聞かせる。次ぎに文字箱の中から、ありだけのcを二人で擇り分ける。次ぎにt及びtを擇り分ける。次ぎにこれを以て、catと幾つとなく綴るのである。勿論かくする際、キニフレッドが楽しく遊ぶやうに、褒めたり勵ましたりしてやらせるのである。又た無理のないやうに、順序を踐んでゆつくりと、何日もかゝつてやらせるのである。又

私はキニフレッドに、かう云ふ教育を施した結果、彼女は一歳半にならない中に、本を読むことが出来るやうになつた。而して彼女が本を読み得るやうになると、後の教育は極めて樂なものとなつた。子供が本を読み得るやうになれば、後は下り舟が大江に出たやうなものである。この時から彼女は色々な本を喜んで讀んだ。

併し私はキニフレッドに、目的を立て、本を讀む習慣をつけた。讀書でも仕事でも、目的なくすることは、精神にも肉體にも害を與へる。それで彼女は、Journey's with Fairy Christmas を書く時は、三十餘種の參考書を讀んで、色々な國のクリスマスの風習を調べた。又た Journey with Easter Rabbit を書く時は、矢張色々な國の復活祭の

風習を調べる爲に、ピッツバークの有らゆる圖書館に通つた。又た My Friends in the Zoo. を書く時は、毎日のやうに動物園に行つたことは勿論、有らゆる手段を盡して色々な參考書を讀んだ。

私はこの世に生れて、音楽を解することが出来ることと云ふことは、非常な幸福だと思ふ。それで私は、矢張キニフレッドが搖籃の中に居る中に、音楽の觀念を與へやうと努めた。既に述べたやうに、私は彼女が生れてから間もなく、ドレミファ七つの音を發する小さい鐘を買つてやつたのみならず、毎日古今の名曲を弾じて聞かせた。又た乳母が大さう唱歌が旨かつたので、非常に都合が好かつた。

私はキニフレッドがABCの讀み方を覺えると同もなく、樂譜の讀み方を教へた。又たしばしばかう云ふ遊びをした。それは部屋の中の何處かに、或る物を隠してそれを探させるのである。これは子供がよくやる遊びであるが、私のはこれにピアノを利用するのである。即ちキニフレッドが隠し場所に近づくと、『あぶない〜』と云ふ代り

に、だんく〜低い音を出す。又たそこから遠ざかると、だんく〜高い音を出すのである。それで音の高低に注意しないと、彼女は何時まで立つても隠した物を探すことが出来ぬ。これは彼女の耳を訓練するに非常な効があつた。

子供は凡て拍子を好むものである。それで私は、キニフレッドが話も出来ない中から、手を拍つてシャン〜をやつて見せた。又た暫く立つと、小さい太鼓を買つてやつて、それを拍子を取つて打つことを教へた。更に暫く立つと、今度は木琴を買つてやつた。而して私が壁上の音譜を指して、キニフレッドがそれに對する鍵を叩く遊びを始めた。すると彼女は、間もなくピアノで、簡単な曲を單調で弾くことが出来るやうになつた。

私は又たキニフレッドに舞踊を教へて拍子の觀念を與へた。子供に拍子と音調の觀念を與へることは、非常に大切な事である。それで私は、唱歌も出来ず樂器も出来ない母は、毎日子供に蓄音器を聞かせれば可いと思ふ。子供は拍子と音調の中に生きな

ればならない。彼等は降る雨にも拍子を感じ、吹く風にも音樂を聞くものである。故に日本の家庭のやうに風鈴を下げたり、風絃をかけたたりすることは、子供の爲に極めて善い事である。我國では、人口の約三分の一は音樂を解することが出来ないが、音樂なき生活は決して幸福な生活でない。

私はキニフレッドに、音樂の外に毎日口調の良い詩を讀んで聞かせた。ポーの『鐘の歌』などは子供に實に好い歌である。又た私はキニフレッドに、これらの歌に合せて舞踊することを教へた。或る人は舞踊を排斥するけれども、これは間違つて居ると思ふ。ホール博士が云つて居るやうに、希臘人や羅馬人が健康で優美であつたのは、實に舞踊の爲であつた。舞踊は我々を、健康にし且つ優美にする。

五

音樂は幼年時代に教へ始めなければならぬのに、我國では子供が七八歳になつてから、初めてこれを教へ始める。これでは子供の耳が訓練されて居ないから、旨く行かな

いのみならず、子供はこれを非常な苦痛と感ずる。それに一般の音楽の教へ方は、初めの中は纏まつた曲をやらせないで、テクニクだけやらせるから、子供はうんざりしてしまふ。成程テクニクも大切であるが、この爲に他の大切なもの、即ち子供の音楽に對する興味を犠牲にしてはならない。

子供は早くから、ピアノなどをいぢることを好むものであるから、この機を捕へてこれを奨励しなければならぬ。又た子供は、母が少し助けてやると、色々な曲を作るものである。キニフレッドはかう云ふ自作の曲を、澤山ノートブックに書いて有つて居る。これは子供の時の寫真と同じく、將來出して見る毎に彼女の樂みであらうと思ふ。

私はキニフレッドに、例の如く遊びの形に於いてピアノのテクニクを教へた。又た樂譜は、高音部の線は Every good boy does finely (e.g., b, d, f) 間は face、低音部の線は Good boys do finely always (g, b, d, f, a) 間は A cow eats grass (a, c, e, g) と教へた。調號も同じやうな方法で教へた。

私の或る知人の子供は、ヴィオリンの教師に就いてヴィオリンを習つたが、一年間テクニクばかりやらせられたので、音楽を覺えないで音楽を嫌ふことを覺えた。幸にキニフレッドの習つたヴィオリンの教師は、かう云ふ風でなかつた。

又た私は、キニフレッドのヴィオリンの稽古に、何時もピアノで伴奏してやつたので、彼女は楽しくこの樂器を覺えた。彼女は今はピアノもヴィオリンも上手に出来る。勿論我々は、十人が十人皆な音樂者になることは出来ない。又たその必要もない。併しこの世に生れて、全く音楽を解することが出来ないと言ふことは、決して幸福な事ではない。自分で音楽が出来なくとも、少なくとも他人の音楽を味はふだけの素養は大切である。故に子供には、是非或る程度まで音楽を教へなければならぬ。或る人は、音樂者にならない子供に音楽を教へることは、時間の浪費だと云ふけれども、私はこれは間違つて居ると思ふ。音樂に限らず凡て藝術なき生活は荒野の如きものである。我々は子供の一生を豊富なものとし、幸福なものとする爲に、これに文學や音樂の素養を與へ

る義務があると思ふ。ピスマークは隠退後、若し若い時樂器を一つ習つて居つたなら、自分の生活はこんなに寂寞でなかつたらうと嘆じたさうである。

次ぎに私の綴り方の教授法を述べるが、これは例のABCを書いた小板を用ひて、矢張遊びの形に於いて教へた。その方法は色々ある。(併しこれは煩はしいから凡て省略する。)

併し子供に綴り方を教へるに、一番善いものはタイプライターである。私はこの事を偶然に發見した。或る日タイプライターを用ひて居ると、キニフレッドがやつて來てその方法を教へて呉れと云ふ。併しその日は暇がなかつたので、明日にしやうと云つて教へなかつた。ところが翌日私が外から歸つて來ると、彼女は私に一枚の紙を見せた。見るとその紙には、或るお伽話の本のページがタイプライターで寫してあつた。併しその寫し方は、大文字も用ひず、スペースもなく、全くのべつ幕なしであつた。併し私は、大さう上手だと褒めて、次ぎにタイプライターの用ひ方を教へた。すると彼女

は非常に喜んで、毎日色々な詩や物語を寫した。その結果知らず識らずの中に綴り方を覺えた。又た後には自分で詩や物語を書くことを覺えた。これはキニフレッドが三歳にならないうちの事である。

私はその後間もなく、シカゴの病院に入院して手術を受けたが、その間キニフレッドは故郷から、毎日のやうに私にタイプライターで手紙を書いてよこした。私はこの時これらの手紙から、一生忘れることの出来ない感動を受けた。私はこれらの手紙を今もしまつて有つて居る。否一生有つて居るつもりである。

キニフレッドは、その後も毎日タイプライターで、古今の名詩や名文を寫したが、彼女はこの爲に色々な名詩や名文を知らず識らずの中に暗記した。この事はどのくらゐ彼女が爲になつたか分らない。私は子供に綴り方を教へるには、綴り方の本を火に投じてタイプライターの用ひ方を教へるに限ると思ふ。

併し私は、キニフレッドにペンの用ひ方を教へることを略さなかつた。今日はまだ

全然ペンを廢する譯に行かない。子供は何でも母の眞似をする。キニフレッドも私の眞似をして、ペンを用ひやうとしたから、私はこの機を捕へて書き方を教へた。親が親切に教へさへすれば、小供は書き方ぐらゐは直ぐ覺える。

私はキニフレッドが初めてペンで書いて見たいと云つた時、ペンを與へないで赤鉛筆を與へた。而して自分の名を書いて見せてお父さんを驚かしてやれと吹き込んだ。すると彼女は非常に喜んで、一生懸命で自分の名を書くことを稽古した。すると野心と云ふものは子供にも恐ろしいもので、彼女は数日の後首尾好くそれを書くことが出来るやうになつた。これは彼女が十七ヶ月の時であつた。彼女が二歳の年、我々は親子三人で或る旅館に泊つたが、その時彼女は、自分で宿帳に署名して番頭を驚かした。

私はキニフレッドが、簡単な文章を書くことが出来るやうになるや否や、毎日日記を書かせ始めた。故に彼女の日記は二歳の年から續いて居る。彼女は雨などが降つて外で遊ばれない時は、これを取り出して幼い時を偲んで楽しんで居る。私はこれらの幼

い時の日記は、彼女に今後ますます面白くものとなるだらうと思ふ。又たこれは、彼女に出来る子供にも面白い讀物だらうと思ふ。

序ながら、子供を育てる際母自身が日記をつけなければならぬことは勿論である。それは子供の進歩や發育を、毎日詳しく書き記すのである。これは子孫に對して非常な遺物である。即ち彼等が自分で子供を育てる時、これから非常な益を得る。

私は又た文章を書くことに興味を有たせる爲に、友達に手紙を書かせることを勧める。子供が學校の作文に興味を有たないのは、それは稽古に過ぎないと考へて居るからである。實際の手紙となれば一生懸命で書く。又た「セント・ニコラス」などの讀者にして、懸賞文を書かせることも良いと思ふ。キニフレッドは五歳の時同紙の讀者となつたが、間もなく金牌も銀牌も貰つた。

六

世に自然ほど面白い教師がない。その教へる事は無盡藏である。然るに世の多くの子

供は、この大教師に親しませられない。實に残念な事である。

私はキニフレッドに、百年前ギッテの父がギッテに施したやうな教育を施した。ギッテの父は、ギッテを毎日野外に連れ出して、動物の話や植物の話面白く話して聞かせた。自然に關して、子供に語つて聞かせて面白い事は無限にある。

私もキニフレッドを出來るだけ野外に連れ出して、實物を捕へて色々な話を面白く話して聞かせた。それは動物學、植物學、礦物學、物理學、化學、地質學、天文學等、有らゆる學問に關して居つた。

我々はしばしば野外に出て、草花を採つて解剖したり、岩石を割つて觀察したり、小鳥の巢を覗いたり、小蟲の生活を眺めたりして、これを研究した。キニフレッドは又た色々な物を、顯微鏡で覗いて喜んだ。又た彼女は、色々な物に就いて面白い物語を書いた。

キニフレッドは特に植物が好きで、採へた標本が山ほどある。又た例のエスベラント

を利用して、世界中から集めた植物の標本もある。又た矢張エスベラントの友達を通じて、色々な偉人や詩人の墓場から取つた花や、古戰場等から取つた花の押し花帖もある。今一つ珍らしいのは、「オーデュボン帖」と云ふ押し花帖である。御存じの如くオーデュボン先生の研究地は、ケンタッキー州ヘンダーソンの近所の林であつた。キニフレッドもこの林で、自然に關して色々な知識を得た。而して「オーデュボン帖」とは、この林で採つた花の押し花帖である。

初めキニフレッドは、青蟲を非常に怖がつたが、青蟲は後に美しい蝶々になるのだと教へてから、これを怖れなくなつた。私は又た蟻や蜜蜂の生活を話して聞かせたが、彼女は彼等の團體生活に大さう興味を感じて、更に黄蜂や熊蜂の生活をも研究し、これらに關して矢張色々な物語を書いた。

キニフレッドは目下甲蟲を研究して居る。彼女の云ふところによれば、甲蟲の種類は十五萬餘あるさうである。而して彼女は自分も新種を發見しやうと云ふ野心を有つて居

る。彼女は甲蟲に關して色々な本を讀んだ。又た冬の間、野外に行つても甲蟲の居ない時は、カーネギー研究所に行つて標本を見て研究した。

三〇六

カーネギー研究所の博物館は、我々に取つて實に便利である。私はキニフレッドを連れて、毎週數回こゝに行く。我々はこゝで、世界到る所の動物や植物を研究することが出来る。又たこゝで、有らゆる人種の風俗や、衣服や用具を見ることが出来る。又たこゝで、古今の名畫や彫刻を眺めたり、スケッチしたりすることも出来る。

多くの母は、子供の悪行に困つて居るが、子供の悪行は精力の浪費に外ならない。子供が精力の向け所を知らない爲に、こんな悪行に陥るのである。故に自然に親しませると、子供は悪行に陥る暇がない。のみならず、自然はこれに親しむ者の心を高尚にする。昔から自然に親しむ者に悪人がない。

又た自然に親しませると、子供は身體ばかりでなく精神も健全になる。都會の子供は自然に親しんで、新鮮な空気を吸ふことが少ないから、不氣嫌で氣六かしいのである。

故に不良少年の感化に用ひる經費の幾分を割いて、これを用ひて都會の子供を、時々野外に連れ出して自然に親しませれば、多少不良少年の發生を豫め防ぐことが出来ると思ふ。

パーバンク博士は、小學校に庭園を設けて、それを各生徒に割り當て、そこで草花などを培養させれば好いと説いて居るが、全く子供に園藝をやらせることは、非常な教育になる。私はキニフレッドに、小さい時から園藝をやらせ、草花や馬鈴薯のやうな植物を培養させた。毎日植物に水をやつたり、雑草を取つたりして、その生長を眺めることは非常な楽しみである。

又た私は、毎年夏になると、キニフレッドを連れて數日間山間に天幕生活を營み、そこで自然を研究させる。又たしばしば野原に出て、草の上に横たはり、野花や小蟲を観察する。草の中にはゲートルの謂はゆる「草中の小世界」があつて、そこに色々な小蟲が、全く一つの世界を形造つて居る。

三〇七

我々は幸に、數年間或る林の近くに住んで居つた。森林は子供に取つて、この上もなく良い教科書である。私は晴天毎に、キニフレッドと女中を連れて、この林に遊びに行つた。而してそこでキニフレッドに、色々な木の名や鳥の名を教へた。又た寫眞器を持つて行つて、景色の良い所や美しい花を撮影した。これらの寫眞が出来上つてから、これに彩色を施すことも、キニフレッドに取つて非常な樂しみであつた。

私はこの林でキニフレッドに、自然を歌つた色々な詩人の詩を教へた。天氣の好い日に、靜かな天地に懷かれて、新鮮な空氣を吸ひながら、古人の詩を誦ずることは誠に愉快なものである。キニフレッドは又たこの林で、枝ぶりの好い木や美しい花の繪を書いた。又た木や鳥に就いて、例の色々な物語を書いた。

今年の冬からキニフレッドは、小鳥を飼ひ始めた。今居るのは二羽のカナリヤで、一羽はお菊さんと云ひ、一羽はニ、タと云ふ。日本にはお菊さんと云ふ美しい名の少女が澤山居る。又たニ、タとは西班牙語で、赤ちやんと云ふことである。キニフレッドはこ

これらのカナリヤに色々な藝を教へた。その結果彼等は、ヴァイオリンに合せて歌つたり、手の掌の上で踊つたりする。又たキニフレッドがピアノを弾くと、肩の上に止まつて居るし、目をつぶれと云へば、右でも左でも註文通りにつぶる。又た本を讀んで居る時、ペーヂを反せと云へば、嘴でペーヂを反す。

我々は外に犬と猫を飼つて居るが、凡てかう云ふ物を飼つて居ると、餌をやつたり水をやつたりする爲に、子供が注意深くなる。又た彼等にやさしい心を與へる。或る人は動物を飼ふことは、しばしば病氣の媒介になるから危険だと云ふけれども、子供によく教へて注意さへすれば安全である。

我々がカナリヤや犬を飼つたことは、キニフレッドに他の鳥や獸に對する興味を起させた。彼女はしばしば動物園に行つて、色々な鳥獸の生活を研究した。その結果としてこの前 My Friends in the Zoo を書したが、今は Chats with My Friends in the Zoo と云ふのを著作中である。

又た私は、彼女に魚類に對する興味を起させる爲に、子供部屋に金魚や鮎を飼つた。私は又た、國內の大水族館は大抵彼女に見せた、礦物學、物理學、化學、地質學等も同じやうな方法で教へた。

天文學に興味を有たせるには、神話を讀ませるが可い。私はこの方法を取つた。我々は又た幸に、多くの天文臺に行つて、望遠鏡を見せて貰ふことが出来た。その爲に天文學者に澤山の友達が出来た。マウント・ロー天文臺のラーキン博士は、キニフレッドとの會話に勵まされて、かの Within the Mind Maze を著はしたと云つて居る。

我々はグージニアの海岸に住んで居つた時、しばしば海邊に遊びに行つた。海邊は子供に地理の觀念を興へるに極めて便利である。私はこゝで、貝を拾つたり藻を集めたり、蟹を捕へたりくらげやひとでを拾つたりして、キニフレッドにこれらの物に就いて、色々な話をして聞かせたのみならず、砂原で山や川や、湖水、岬、灣、半島、島等を作つて遊んだ、後には海邊に地球儀を持つて行つて、この大西洋はこゝに當る。故に

この大西洋を超えて行けば、歐羅巴やアフリカに達すると云ふやうな事から、だん／＼世界の地理を教へた。又たしばしばキニフレッドを連れて諸方を旅行して、彼女の地理の知識を廣くした。彼女は今は世界の地理に關して、驚くべき知識を有つて居る。

七

子供の教育に利用して、お話ほど効果のあるものは少ない。お話は子供の記憶を良くし、想像を刺激し、その知見を廣くする。子供に知識を興へると云つても、そのまゝの形で興へては、中々子供の頭にはいらぬ。たゞ子供を苦しめるだけである。併しお話の形にして興へると、子供は喜んで聞いてたやすく覺える。

私はキニフレッドが話が出来ない中から、希臘、羅馬、及び北歐の神話を話して聞かせた。話が出来るやうになると、これを二人で芝居に演じた。私は又た聖書の物語を話して聞かせたが、これも芝居に演じた。私が神話を話して聞かせたのは、天文學に興味を有たせる爲と、彫刻等を見てもその意味が分るやうにする爲であつた。又た

神話を知らないといふ、文學を研究する際甚だ不便である。

私はキニフレッドに神話や聖書の物語をよく覚えさせる爲に、これを知るたに仕組んだ。我々は今も時々これをやる。私は各國の歴史も同様に、初め話の形で教へて、後これをかるたにして遊んだ。又た二人で面白い本を讀んで、その要點を書き取らせた。キニフレッドは早くから、色々な事柄を記憶するに、それを韻文に書いて暗記する方法を取つた。韻文は散文より暗記し易い。キニフレッドの書いたさう云ふ韻文は澤山あるが、先頃その一部分を、*Facts in Jingles* と云ふ名で出版した。

歴史上の事柄は、これを讀んだ後で芝居に演ずるとよく記憶に残る。私は學校でも、この方法を取れば可いと思ふ。これには別に時間を費して、稽古する必要もない。毎日出来る事である。然るに今日學校で教へる歴史を見ると、宛で年代記そのまゝで、砂を噛むやうなもので少しも興味が無い。生徒がこれを好まないのは當然である。キニフレッドが八歳の時、父は彼女に骸骨を用ひて生理學を教へた。その後彼は旅行

に出たが、その間にキニフレッドは、骨や筋肉や内臓を韻文に書いて暗記して、父が歸つて来た時彼を驚かした。彼女は又た生理學に關聯して、衛生學を研究したが、その結果食物や病氣に對する色々な心得を知つてゐる。

私はかくの如くにして、キニフレッドに色々な知識を與へたが、それが彼女の役に立つやうにと云ふ方針を以て教育した。世には千萬卷の本を讀んで、色々な事を知つて居るけれども、たゞ知つて居るだけで、自分の爲にも社會の爲にもならない人が居る。私はキニフレッドを、かう云ふ人にしたくないと考へた。故に努めて彼女に奉仕的精神を鼓吹して、社會人類の爲になる人にしやうと云ふ方針を取つた。今もさう云ふ方針を取つて居る。

八

今日の大學生を見ると、大抵拉典語を蛇蝎視して居る。これは何故かと云へば、彼等は拉典語を學ぶ基礎を有つて居ないからである。それで私は、子供に早くからこの基礎

を造つてやる必要があると考へて、搖籃の中に居る中からキニフレッドに拉典語を教へた。學問の追求に拉典語の必要なことは云ふまでもない。拉典語はロマンス語の母であるから、これをやれば佛蘭西語や西班牙語や伊太利語はたやすく覺えられる。

子供は飽くまでも耳の人で目の人でないから、私はキニフレッドに耳から拉典語を教へた。學校では表や規則で拉典語を教へるけれども、これは間違つて居る。キニフレッドが四歳の時、或る拉典語の教師に拉典語で話しかけたけれども、その人は少しも分らなかつた。世にはかう云ふ、書物は讀めるが話すことの出来ない拉典語學者が多い。

子供の語學の能力は、實に驚くべきものである。私はキニフレッドが英語の話が出来るやうになるや否や、「お早う」と云ふ言葉を十三個國語で教へたが、譯もなくそれを覺えた。彼女は毎朝十三個國語を代表する十三の人形に、各々その國語で「お早う」と云はせるのであつた。

私はキニフレッドに、毎日少しづつ、拉典語の文句を教へたが、彼女は五歳の時まで

に、「アイネイス」の第一卷を暗記し、色々な著者の名句を五百以上覺えた。今はシーザ、キケロ、サルステウス、リボウス、ホラチウス等から、色々な部分を暗誦することが出来る。

語學の學修には、語原を辿ることが非常に益がある。キニフレッドはこれを小さい時からやつて來たが、今はその帖面が數冊になつて居る。それは拉典語を一つ覺えると、それから出て來た色々な近代語を調べて書きつけたものである。併し私がキニフレッドに語學を教へて、一番効果があつたのは矢張色々な遊びであつた。(その方法はくゞしいから省略する。)

私は今年小學校六年生の一人の少女を知つて居るが、或る日私に、自分は級中で一番文法が出来る、今度の試験には九十八點取つたと云ふから、私はお祝ひを述べ、
「お父さんはそれに就いて何と云ひました。」と云ふと、Oh, nothing; he dont never say nothing bout my school grades と云ふ答であつた。それで私は、「貴女の先生は

nothingだの Je dout never say nothing だのと教へるんですか、』と云ふと、更に I duno
と云ふ答であつた。いくら試験の點が良くとも、これでは何にもならないと思ふ。

九

凡ての學科の中で、數學ほど子供に興味を有たせるに六かしいものがない。私は第四章に述べた方法を用ひて、キニフレッドに數へ方と數字はたやすく教へることが出来た。又たお店ごつこをして、金の數へ方はたやすく教へることが出来た。併し次ぎに掛け算九々を教へやうとすると、彼女は生れてから初めて學課を嫌つた。盲暗記は五歳ぐらゐな子供にも嫌やと見える。私は例の如く、これを歌のやうに歌ひながら教へたけれども効がなかつた。

彼女は五歳の時八個國語を話し、新聞や雑誌に盛んに詩や物語を書き、神話や歴史や文學に就いては、中學校卒業ぐらゐな知識があつたけれども、掛け算九々が出来なかつた。それで私は、彼女はもう一方に偏してしまつたのであるまいかと心配した。何と

なれば私の理想は、彼女を圓滿に發達した、よく釣合の取れた幸福な婦人に育て上げることであつたからである。子供は圓滿に發達しなければ、眞に幸福な人になることが出来ない。それで私は、キニフレッドが數學に興味を有たないのを見て心配した。併し私は、彼女に無理に掛け算九々を暗記させなかつた。何となればそれは、彼女の性質を曲らすに過ぎないと考へたからである。

ところが丁度この頃、私は例のエスペラントの宣傳の爲に、前にも云つたやうにキニフレッドを連れて、ニウヨーク州のシヨトクに講演に行つた。而してそこで、運好くもシカゴのスターレット女學校の數學教授、ホーンブルック女史に會つた。女史は數學の教授が實に巧な人である。それで私は、女史に私の心配を打ち明けた。すると女史は、御令嬢は數學の才能が缺けて居るのでも、偏頗に發育したのでもない。貴女の教へ方が悪いのだ。つまり貴女が數學を面白く教へないからいけないのだ。貴女は語學や音樂や、文學や歴史は自ら好むから、これらの學課を面白く教へる。御令嬢がこれら

の學課をよく覚えたのはその爲である。併し貴女は數學を自ら好まない。その結果數學を面白く教へない。御令嬢が數學を嫌ふのはその爲だと云ふ。而して私に、親切にも毎週一回、遊びの形で數學を教へる方法を、紙に書いて送つて呉れることを承諾した。私はその方法に従つて、キニフレッドに數學を教へたが、その結果は驚くべきものであつた。

私はホーンブルック女史の助言に従つて、先づキニフレッドに、數に興味を有たせることに努めた。例へば豆やボタンをボール箱に入れて置いて、二人でそれを代るく一掴みづゝ掴み出し、どちらが多いか數へて見る。或は葡萄などを食ふ時、その種子を數へて見る。或は女中が豌豆の莢を剥くのを手傳ひながら、二莢には幾個、三莢には幾個、五莢には幾個等と數へて見る。

又たよく雙六をした。最初は二つの骰子でした。二つの骰子を一緒に投げて、例へば三と四が出ると、三と四を加へて七點を取る。又た二と四や三と三などで六點を出すと、

今一度やる権利がある。これらの點はそれ／＼紙に書きつけて、三回とか五回とかやつた後に、計算して勝負を定める。

キニフレッドはこの遊びを非常に好んだ。併し私はホーンブルック女史の助言に従つて、一度に十五分以上續けなかつた。女史は私に、凡て數學の遊びは、非常に頭を使はなければならぬから、一度に十五分以上續けてはならないと注意した。我々はこの遊びを二三週間續けた後、骰子を三つにし、四つにし、遂に六つにした。

次ぎに我々は、豆やボタンを二つづゝ二組とか、二つづゝ三組とか、三つづゝ三組とか、三つづゝ四組とかに列べ、それを一々數へて見て紙に書きつけた。而してそれを乗け算九々の表に作つて壁にかけた。これに由つてキニフレッドは、二々が四となる譯も、三々が九となる譯も分つて、非常に喜んだ。(次ぎに四則の練習になる色々な遊びが書いてあるが、くだくしいから省略する。)

私はキニフレッドの數學の知識を實際的にする爲に、しば／＼お店ごつこをした。

賣る物は尺度の物も量度の物も目方の物もあつた。又た價は時價に従つた。而して金は本物を用ひた。私はキニフレッドの店に行つて色々な物を買ひ、本物の金で支拂ひをする。すると彼女は、勘定書を作つて計算し、釣銭を添へて私に渡すのであつた。

私はキニフレッドがよく勉強したり、仕事をしたり、使ひに行つたりした時は金と與へた。彼女は又た雑誌社や新聞社からしばしば原稿料を貰つたので、それらを自分の名で銀行に預けた。而してその利子を計算して見たりした。

ホーンプルク女史の處方に従つて教育した結果、キニフレッドは間もなく數學に興味を有つやうになつた。而して一たび數學に興味を有つと、その後は水が流れるやうに、算術から始めて代數學と幾何學を易々とやつた。

一〇

子供が泣けば、乳を吞ませたり、お菓子をやつたりして泣き止ませるのが、多くの母のやり方である。而してこれを幾度でもやつて、これでは多からうとは決して考へない。

これは大なる誤りである。子供の樂しみは、我々が考へて居るやうに、決して飲んだり食つたりすることばかりでない。子供には舌の樂しみの外に、目の樂しみや耳の樂しみがある。故に私は、キニフレッドが泣けば、ガラ／＼鳴る物を與へたり、風船玉を與へたり、例の鐘を鳴らして見せたりして泣き止まず方針を取つた。子供は餘り多く食はせたり飲ませたりすると、遲鈍になる。又た色々な病氣に罹る。

子供は色々な能力を發達させなければならぬものであるから、その遊びはこの目的に適つたものでなければならぬ。それで私は、子供部屋の一個にキニフレッドの運動場を設けて置いた。そこには棒で叩いたり、ぶら下つたりして、筋肉を發達させることが出来るやうに、色々な遊び道具を備へて置いた。子供の遊びは、必ず精神的にか、肉體的にか、道德的にその能力を發達させるものであつて、その精力を無益に浪費させるものであつてはならない。

子供は凡て『ごっこ遊び』を好むものであるが、これは子供の智能を發達させるに、

非常に効があるものであるから、盛んにやらせると好い。ニウヨークには子供専門の劇場があるが、私はかう云ふ劇場が澤山出来て呉れ、ばよいと思ふ。活動寫眞に對しては色々な議論があるが、私は出し物さへよく擇べば、これは非常に教育的價値のあるものだと思ふ。私はキニフレッドを、しばくよい子供芝居や活動寫眞に連れて行つて、歸つて来てからそれを二人で演じた。足らない人数は人形や何かで間に合はせるのであつた。又た本で讀んだ話も大抵演じた。

子供は本能的に、能力を發達させる遊びを好むものである。私はしばくキニフレッドと、盲八ごつこをして遊んだが、この遊びは凡ての子供が好むやうである。それは子供に目隠しをさせて、色々な物を與へてそれを云ひ當てさせるのである。又た目隠しをしたまゝ、部屋の中を探り歩いて、これは何これは何と云ひ當てる遊びもした。この遊びは子供の觸覺を發達させる効がある。

私はキニフレッドの視覺を發達させる爲に、「これはいくつ」と云ふ遊びをした。こ

れは象棋の駒や豆などを卓子の上に數個並べて、彼女に一寸だけ見せてその數を云ひ當てさせるのである。私はこれを機會のある毎にやつた。例へば食事の時、皿に載つて居る林檎を「これはいくつ」と云ふ。或は道を歩いて居る時、路傍にある物を「あれはいくつ」と云ふ。又た次ぎの室に、卓子の上に色々な物を並べて置いて、それを一寸見て来て何々あつたと云ふ遊びもした。この遊びは、子供を機敏にし、又たその記憶をよくする効がある。

私はキニフレッドが極く小さい中から、色々な所に連れて行つて、その後そこに行く時は、彼女が先に立つて私を連れて行くやうにさせた。それでキニフレッドは十八ヶ月の時から、私や乳母を色々な所に連れて行くことが出来た。

視覺の遊びは澤山ある。一例を挙げれば、例へば私が室内の或る物を思つて、私の思つて居る物は赤い物だと云ふ。するとキニフレッドは、字引でせうとか、吸取紙でせうとか、花瓶の花でせうとかと、三回とか五回とか、定めた回数の中に云ひ當てなけ

ればならない。それで當らなければ又た鬼になるのである。

我々は又た九々遊びと云ふものをした。これは「 \times 」とか「 ∞ 」とかと、九々を書いたカードとする遊びである。かう云ふカードを澤山重ねて伏せて置いて、代るく一枚づつ反して見て、出来るだけ早く「 ∞ 」とか「 \times 」とかと云ふのである。若し直ぐ云へなかつたり、間違つたりすれば、外の人がそれを云つて、それを取つてしまふ。

飛行機乗りが飛行機の操縦を覚えなければならぬやうに、子供は自分の身體の操縦を覚えなければならぬ。云ひ換へれば子供は自分の筋肉の統御を覚えなければならぬ。これには「銅像ごっこ」と云ふ遊びが効がある。これは一人が或る姿勢を取つて、相手が五十とか百とか、定めた數を數へる間動かないで、その姿勢を續けるのである。希臘人は「銅像ごっこ」とは云はなかつたらうが、よくこの遊びをしたさうで、彼等の動作が優美であつたのは、この爲であつたさうである。

紙や布や他の色々な材料で、色々な物を拵へる手先の遊びは、子供の能力を發達させ

るに非常な効がある。而してこれは、頭さへ働かせれば種類が無限にあるから、子供を何時でも楽しく遊ばせることが出来る。私はキニフレッドと、紙で蝶々や船を拵へたり、布片で人形を拵へたり、巻煙草の箱で小さい馬車や列車を拵へたり、ボール箱で家や城を建てたり、橋や塔を造つたりして遊んだ。又た南京豆で人形を造つたり、バナ、で馬を拵へたりして遊んだが、かう云ふ遊びは子供を楽しませるのみならず、發明工夫の力を發達させる。

私は又たキニフレッドに、小さい時から人形の着物の作り方や、一寸した刺繡のし方を教へた。彼女は四歳の時、初めての刺繡を叔母に贈つたが、それは白地の日除け帽をかぶつた少女を、色々な糸で縫ひとつたものであつた。私は又た彼女に編み物のし方を教へた。彼女の細工品は、極く小さい時のものから取つてあるが、實に色々な物がある。彼女はこれを雨の日などに出して見て楽しんで居る。

併し子供に、縫ひ物などを餘り長くさせるのはよくない。私はキニフレッドに縫ひ

物を一度に十五分間以上させなかつた。縫ひ物を長くさせると子供は神經質になる。併し圖畫などは、三十分間ぐらゐ續けてもそのまゝにして置いた。これは餘り子供を疲れさせない。つまり子供は、疲勞しない程度に物をやらせればよい。

子供には、遊びでも食物でも、遊び友達でも變化のある方がよい。私はキニフレツドに、何時も同じ友達とばかり遊ばせないやうにした。エマーソンは、この世に人がたゞ二人だけ現はれるなら、その二人は一日の中に主人と僕になるであらうと云つたが、子供も二人だけ遊ばせて置くと、間もなくかう云ふ關係が生じて、その結果が面白くない。

或る人は、男の兒と女の兒と一緒に遊ばせることはよくないと云ふが、私はこれは却てよいと思ふ。男の兒はこれに由つて女の兒から親切柔和等の徳を習ひ、女の兒は男の兒から勇氣決行等の徳を學ぶ。又た男の兒は理性に於いて優り、女の兒は想像に於いて優り、且つ男の兒より敏捷であるから、一緒に遊ぶことは兩方の益となるのみならず、男の兒と女の兒と一緒に遊ばせると、物を熱心にやるから、それに早く上達する益がある。

子供に園藝をやらせることは、子供を樂しませるのみならず、智能の發達の爲にも健康の爲にもなる。私はキニフレツドが、歩くやうになるや否や、小さいシヨベルや鋤を買つてやつて、庭の一個で種の蒔き方や、草花の植ゑ方や、雜草の取り方や、水のやり方を教へた。園藝は又た子供の趣味を養ひ、忍耐の精神を養ふ益がある。

多くの母は、子供の遊びに餘り趣味を有たないが、これは甚だよくない。彼等は縫ひ物や臺所の用事の爲に、子供が色々な事をして、「お母さん、これ御覽」など、云つても見向きもしない。その爲に子供はつまらなくなつてしまつて不氣嫌になる。その結果叱られたり打たれたりする。併しこれは母の方が悪いのである。

母たる者は努めて子供と共に遊ばなければならぬ。或る母は、子供の着物を縫つたり、夫の靴下を編んだりして、子供を全く投げつばなしにして置くが、これは母の義務を怠つた者である。子供の教育は母の義務である。凡ての着物を仕立屋に縫はせるのも善くないが、子供を投げつばなしにして、凡ての着物を自分で縫ふのも間違つて居る。

今日のやうな文明の時代には、何も蟹も自分でやることは決して経済でない。文明の時代には須らく文明を利用して、出来るだけ時間を作り、一日の或る部分を、必ず子供の教育に費すやうにしなければならぬ。子供同士を投げつばなしにして遊ばせて置くと、必ず喧嘩をしたり泣いたりする。子供は水中に於いて監督しながら遊ばせなければならぬやうに、室内に於いても監督しながら遊ばせなければならぬものである。

この點に於いては、我國の母は日本の母に學ぶべき事が澤山あると思ふ。日本の母は努めて子供と一緒に遊ぶ。正月には子供とかるたをするし、三月には雛祭りをする。五月には幟を立て、七月には七夕祭りをする。

又た日本の母は、我國の母のやうに、室内を小間物店然とがらくた物を並べて置いて、それに觸るなこれに觸るなと、絶えず子供を叱ることをしない。常に室内を廣々と片付けて置いて、子供が遊ぶに都合が好くして置く。又た日本では我國のやうに、往來を歩いて来た靴でそのまゝ家の中にはいることをしないから、室内が極めて綺麗で、子供が

床の上で遊ぶに都合が好い。

日本のかかるたで思ひ出したが、凡てカードの遊びは子供の記憶を良くし、子供を敏捷にする效がある。私は歴史でも地理でも、數學でも語學でも、有らゆる學科をカードに仕組んでキニフレッドと遊んだ。子供と一緒に遊ぶことは、我々大人を何時までも若く保つ。

詩人ゲーテは、我々は神から與へられた美に對する感覺を失はないやうに、少しでも毎日音樂を聞き、毎日詩を讀み、毎日美しい繪を見なければならぬと云つたが、子供を音樂に親しませることは大切な事である。又た私は、子供に歌を歌はせることを勧めめる。或る人は、歌を歌ふ國民は、歌を歌はない國民より長生きすると云つたが、歌を歌ふ國民は又た快活である。神經質な子供も歌を歌ふ習慣をつけると快活になる。

社交も子供に必要であるから、彼等に會などを組織することを奨励しなければならぬ。併しその會は、有益であると共に愉快なものでなければならぬ。キニフレッドは

目下「少年慰問團」の會員であるが、この會は病氣の子供に手製の玩具や花を送ることを目的とする會である。彼女は又た「米國少年平和同盟」の會長である。又た先頃「ビッグリーグ少年平等參政期成同盟」を組織した。

併し子供の楽しみの中で、一番大切なものは讀書である。併し子供に讀ませる本の選擇には、非常な注意を拂はなければならない。子供が如何なる本を好むに至るかは、最初に讀む本の如何に由つて定まる。のみならず子供の時讀む本は、しばらくその子供の一生の進路を左右するものである。

子供には又た小さい時から、新聞を讀む習慣をつけなければならない。子供に新聞を讀むことを禁ずる人もあるが、私は讀ませる方である。併し我國の新聞の日曜附録には感心しない記事や繪が多いから、よく注意しなければならぬ。

次ぎにお話も子供に大切な楽しみである。特に小さい子供には、これほど大切なものがない。お話は子供の知見を廣くするばかりでなく、又たしばらく子供を讀書に導くか

け橋になる。私はしばく或るお話をして、面白い所で止めて、このお話は何々と云ふ本にあると云つて、キニフレッドに讀書を勧めた。

一一

我々の幸福は、半分以上想像で持つて居る。想像を知らない人は、眞の幸福を知るこ

とが出来ない。
散文的な人は、事實々と云つて想像を排斥する。彼等はサンタクロースや仙女を家庭に寄せつけない。彼等は事實に反した昔話や理屈に合はないお伽話は、子供の害にこそなれ決して益にならないと云ふ。併しこれは誤りである。昔話やお伽話は、どのぐらゐる子供の品性を陶冶するから分らない。子供が鳥や獸を愛することを覚えたり、色々な道徳の初歩を覚えたり、大きな望を抱いたりするのは、大抵昔話やお伽話に由つてである。

ペルテスは、想像はこの世の肉である、想像がなければこの世は骸骨に過ぎないと云

つたが、大人の生活でも、想像がなければ砂を噛むやうな生活である。況んや子供に於いてをや。故に家庭から、サンタクロースや仙女を排斥することは、人形や玩具を排斥すると同じく、子供に對して残酷な事である。

のみならず、小さい時想像を發達させてやらないと、子供は詩人や小説家や、彫刻家や畫家には勿論、建築家にも、科學者にも、法律家にも、數學者にもなることが出來ない。或る人は、數學者や科學者は、想像はいらなと思つて居るが、これは大なる誤りである。想像は凡ての人に必要である。發明者が機械を發明するのも、學者が眞理を發見するのも、建築家が建物を設計するのも、凡て想像に由つてである。ナポレオンは「想像は世界を支配す」と云つたが、誠に至言である。彼の戰術、彼の大計劃、凡て想像の所産であつた。

フルトンは汽船を發明する前に、先づ想像の目で大洋を走る汽船を見た。ライト兄弟は飛行機を發明する前に、先づ想像の目で空中を翔ける飛行機を見た。マルコニは無線

電信を發明する前に、先づ想像の目で、數千里を隔て、通信する有様を見た。彼等はかくの如くにして、汽船を發明し、飛行機を發明し、無線電信を發明した。ラファエルが美妙な繪を畫いたのも、エディソンが驚くべき發明をしたのも、凡て想像の結果である。子供には、想像は巨萬の富より大切である。子供の時想像を發達させて貰つた人は、不幸に際しても幸福に、貧困に陥つても快活なるべき資本を有つて居る。世に想像の足りない人ほど不幸なものはない。この世に於ける彼の戦ひは、誠に悲惨なものである。

私は家庭から、仙女を排斥することをしなかつた。私はキニフレッドに盛んにお伽噺や昔話を話して聞かせた。その結果彼女には、自然は仙女の住む美しい世界であつた。故に彼女は早くから自然を愛した。又た彼女は昔話やお伽噺から、正直、親切、勇氣、克己等、色々な道徳を學んだ。

子供はこの世の經驗に乏しいから、善行は何故に善で、悪行は何故に悪であるか分らない。これを分らせるには、昔話やお伽噺を話して聞かせることほど良い方法がない。

私は昔話やお伽噺に由つて、キニフレッドの悪行を矯正し、善行を助長した。

三三五

私はキニフレッドの想像を發達させる爲に、在來の昔話やお伽噺を話して聞かせたばかりでなく、面白い繪などを見せて、それに就いて自分で作つた話を話して聞かせた。又た彼女にも彼女自身の作つた話を話させた。又たこれを文章に書くことを獎勵した。又併し子供の想像を發達させるに、一番效があるのは、矢張お伽噺や昔話を實演することである。かう云ふ實演には、勿論背景もなければ扮装もない。併しこれが却て善いのである。これでこそ子供の想像が發達するのである。兒童劇場の創始者なるアリス・ミンニー・ヘルツ嬢も、矢張かう云ふ意見を抱いて居つて、兒童劇場の背景や扮装が餘り寫實的であれば、子供が想像を廻らす餘地がないから、彼等の想像を發達させないと云つて居る。又た彼女は、今日の教育の缺點は、餘り現實的であつて、子供の想像を發達させる餘地がないことであると云つて居る。

私とキニフレッドは、それ／＼ネリーとルーシーと云ふ想像的友達を有つて居つた。

我々は田舎に居つた時、友達が全くなかつたので、かう云ふ想像的友達を作つたのである。かくて我々は、見えない友達と四人で遊んだ。その爲にキニフレッドは、どんな時でも無聊に苦しむと云ふことがなかつた。可笑しい事には乳母が或る時、「奥様、お嬢さんは少し妙ですよ。何だか幽霊とでも遊んで居るやうですよ」と云つたことであつた。

私は子供の玩具は、完全なものではない、簡単に丈夫なものでなければならぬと考へて居る。その理由は第一に、完全な玩具は高價な癖に毀れ易い。故に非常に不經濟である。第二に子供の想像を發達させる効がない。故に玩具としての價値が不十分である。私はキニフレッドが小さい中は、人形には襤褸人形かゴム人形だけを與へた。立派な人形は毀れ易いから、抱いて寝ることも出来ないけれども、ゴム人形なら一緒に湯に入れても差支ない。これでこそ子供の想像を發達させて、玩具としての價値があるのである。

同じ理由から、私はキニフレッドに出來上つて居る玩具よりも、鉄や布片などを與

三三五

へて、人形の着物を縫はせたり、世帯道具の玩具を買つてやつて、日常生活の眞似をさせたりする方針を取つた。

或る母は、子供の想像の世界を知らない爲に、子供が木片やボール箱などで、城や宮殿などを造つて遊んで居ると、室を片附ける爲に、無残にも子供の世界を毀してしまふ。實に間違つた話である。かう云ふ仕打ちは、子供の幸福を奪ふばかりでなく、子供が將來詩人となり、學者となり、發明者となり、發見者となることを妨げるものである。

神話なども、或る人はこれに何等の價値もないと云つて排斥するけれども、私は大にこれを歓迎する。同じ天上の星を眺めても、神話を知つて居る子供の感じと、知らない子供の感じは全く違ふ。キニフレッドが天文學に興味を有つに至つたのは、全く神話のお蔭であつた。

先頃我國に、モンテッソリ女史の教育法が流行つて來たが、今や女史の教育法に關する著書は、汗牛充棟も管ならずと云ふ有様で、而もそれが何れも羽がついたやうな賣れ行き

である、而して多くの家庭では、高い金を出してモンテッソリ教具を買ふか、子供を「子供の家」に送り、これが出來ない者は、出來る者を羨むと云ふ有様である。併し私は信ずる。子供を「子供の家」に送り得ない者は、決して送り得る者を羨む必要がないと、私はモンテッソリ女史の教育法に由つては、決して偉い人が出來ないと思ふ。これは私ばかりの考へでない。多くの教育者は皆なそう考へて居る。何となれば女史の教育法は、餘り現實的であつて、子供の想像を發達させることをしないからである。女史は偉い教育者である。而して女史の貢献は決して小さいものでない。併し女史の貢献は、低能兒の教育に對する貢獻であつて、普通の子供の教育に對する貢獻でない。女史の教育法は、低能兒の教育には効果があるけれども、普通の子供の教育には餘り効果がない。

モンテッソリ女史は天才で且つ學者である。併し女史は想像の乏しい人と見えて、その教育法は甚だしく想像の訓練を無視して居る。これでは決して偉い人を作ることが出來ない。女史は「伽噺を馬鹿げた伽噺」と呼んで居るが、子供にも伽噺は決して馬鹿げ

て居ない。女史のやうな現実的な教育法では、子供の創造的精神は決して養はれない。

一一一

子供の教育は、智能の啓發ばかりでない、同時に品性の養成である。而して我々は、大音楽者や大美術家や、大文學者や大科學者が、早教育に由つて生ずるやうに、立派な品性も、子供が搖籃の中に居る中から陶冶を始めなければ、決して望むことが出来ない。云ふことを忘れてはならない。世に子供の品性を養成する機關がないから、この任務は云ふまでもなく母の任務である。故に子供の品性の養成を怠る母は、母の義務に不忠實な母である。

子供の心に道徳の種を蒔くことは、どんなに早く蒔いても早過ぎると云ふことがない。プリンス博士は、「子供の徳育は搖籃時代から始めなければならぬ。何となれば、今日社會に足りないものは、頭腦でなくて品性だからである。」と云つて居る。

人間の理想は、品性、健康、才能の三位一體である。體育だけを重んずれば、子供は

卑しむべき獸人となり、知育だけを重んずれば、子供は風にも堪えない病人となるか、社會の厄介物なる惡漢となる。併し品性だけを重んじて、子供は病弱な人となつて、社會の爲にも人類の爲にも、何の役にも立たないことは勿論である。故に子供の教育は、徳育體育知育凡てを重んじなければならぬ。

子供は親の反射であるから、子供の品性を養成するには、親が自ら慎んで、子供の模範とならなければならぬ。子供は善い事でも悪い事でも凡て親の眞似をする。故に井ッテの父は、子供は親の謄寫であると云つた。彼は常に、幼い井ッテの心に植ゑつけたいと思ふ事は、自ら行つて手本になると云ふ主義を取つたが、私も彼の主義に倣つた。

母がおめかし屋であれば、娘もおめかし屋になる。母がおしやべり屋であれば、娘もおしやべり屋になる。又た父が酒を飲めば、息子も酒飲みになり、父が口が悪ければ、息子も悪口屋になる。世にこれほど確かな事がない。或る人が云つたやうに、子供の心

は不思議な畑であつて、思想の種を蒔けば行ひの收穫を生じ、行ひの種を蒔けば習慣の收穫を生じ、習慣の種を蒔けば品性の收穫を生じ、品性の種を蒔けば運命の收穫を生ずる。故に子供の運命は母の手の中にある。故に母が自ら慎んで子供の模範となり、子供の品性を作つてその運命を開拓してやれば、同時に自分自らを偉大にする。何となれば、母は偉人の母としてよりも偉くなる事が出来ないからである。

子供に早くからつけなければならぬ習慣は勤勉の習慣である。勤勉は人間に最も大切な道徳であつて、幸福の源である。これに反して怠惰は有らゆる悪事の母である。子供の精力は、何か有益な事に向けてやらないと、破壊的になるか不氣嫌になる。諺に『悪魔は懶け者の手を借りて悪事を働く、』と云ふが、これは子供の場合にも眞である。プラトンは、如何なる悪人も好んで悪人になつたのでないと云つたが、人が悪人になるのは、多くは親の教育が悪い爲である。故に親たる者は、子供が小さい中から勤勉の習慣をつけて、悪魔に乗せられないやうにしてやらなければならない。小さい時からよ

く筋肉を働かせ、よく頭を使つて知識の泉を汲み、よく他人に對する愛と同情を學んだ子供は、必ず幸福な人となる。

次に子供に大切なものは自制である。古語に曰はく、『幸福な人とは、澤山の黄白を自由に使ひ得る人でない、自分自身を自由に使ひ得る人である、』と。アレキサンドル大王は世界を征服したが、自分自身を制御することが出来なくて、その爲に天逝した。故に子供に自制の習慣をつけることは、矢張り子供を幸福な人にする所以である。

子供の精力は蒸氣のやうなものである。蒸氣は制御して用ふれば、機關を轉はして汽船を進めたり汽車を走らせたりするけれども、無暗に發出させれば危険で寄りつけない。ただつ兒とは精力の制御されない子供を云ふ。故にただつ兒は、自分も不幸であるが、他人にはこの上もない厄介物である。

次に勇氣も子供に大切である。子供が怪我などした時、餘り勞はり過ぎて却て子供を不幸にする母があるが、これは非常に間違つて居る。かう云ふ時は、怪我の話は早く

切り上げて、子供の心を外の事に轉じ、痛みを忘れるやうにしなければならぬ。世には絶えず他人の同情に頼りつゝ、哀れな生活を續けて居る人があるが、世にかう云ふ意氣地のない人の生活ほど悲惨なものがない。子供はかう云ふ人にならないやうに教育しなければならぬ。併し勇氣のある人と無情な人は違ふから、間違つて子供を同情も憐みもない石木のやうな人としてはならぬ。

子供の習慣は、凡て親の手法に由つてつけなければならぬけれども、特に親の手法が大切なのは、日常の行儀作法である。常に愉快な顔をして居ること、悪い言葉や荒々しい言葉を使はないこと、よく時間を守ること等は、親が特別に注意して子供の手法とならなければならぬ。

時間を守ると云ふことは、時間に遅れないことばかりでない。約束の時間より早く訪ねたりすることも、その人に迷惑をかけるものであるから、注意しなければならぬ。私の知人にさう云ふ人があつて、多忙な私にはしばしば迷惑するが、これは子供にも教へ

なければならぬ事である。

家庭に於いては、言葉は不作法に流れ易いものであるけれども、子供の爲を思へばこれは嚴重に注意しなければならぬ。子供に丁寧な言葉を覚えさせやうと思へば、子供に對しても、常に「どうぞ」とか「有り難う」とかと云ふ言葉を使はなければならぬ。子供は親そのまゝの言葉を使ふ。故に子供を有つて居る親は、家畜などに對しても、荒々しい言葉を用ひてはならぬ。

算術や地理は、大人になつてからでもたやすく覚えることが出来る。併し良い行儀は子供の時でなければ覺えることが六かしい。世には地理や歴史を知つて居る人はいくらでも居るが、行儀の良い人は必ずしも多くない。故に子供の行儀は注意して直さなければならぬ。

生れたまゝの子供は凡て利己主義者である。彼は小さい暴君であつて、他人に求めることは多いが、他人の爲を思ふことは極めて少ない。併しこの性質は、教育に由つて矯

正せいすることが出来できる。小ちひさい時ときからさへ、他たにん人の爲ためを計はかつたり、他たにん人を憐あはれんだりするこ
とを教をしへれば、子こども供は決けつして利り己こし主義しぎ者しやでなくなる。

三四四

昔むかし佛ぶつ蘭らん西せいの或ある大たい官くわんが、ワシントンの母ははに、「貴あなた女にょはどうか云いふ教けう育いくを施ほどこして、御ご子し息そくを
あゝ云いふ偉えいい人ひとに育そだて上あげられたか、」と問とふた時とき、ワシントンの母ははは、「私わたくしはたゞ伴ばんに
よく服ふく従じゆうすることを教をしへました、」と答こたへたが、服ふく従じゆうも子こども供に大たい切せつな習しふく慣くわんである。子こども供の服ふく
従じゆうの習しふく慣くわんを養やふには、親おやがせよと云いふ事ことは、何なに故ゆゑにしなればならないか、又また親おやがす
るなと云いふ事ことは、何なに故ゆゑにしてはならないかを、よく分わかるやうに説せつ明めいして、親おやがかくせよ
かくするなと云いふのは、つまり子こども供の爲ためを思おもふからであることを、明まかにして聞きかせる
方かたが良よい。

嘘うそ言ごは百ひやく惡あくの本もとと云いつて、嘘うそ言ごの惡わるいことはいいふまでもない。併しかし子こども供は經けい験けんに乏ちし
く、想さう像ざうが盛さかんである結けつ果くわ、惡わるいと知しらないで嘘うそ言ごを云いふことがある。これは餘あまり責せ
むべき事ことでないけれども、よく注ちゆ意いして矯けう正せいしなければならぬ。何なんとなれば、かう云い

ふ無む害がいな嘘うそ言ごから、他たにん人を欺あざむく惡あく意いの嘘うそ言ごまでは、ほんの一いっ歩ぽに過すぎないからである。
貪どん婪らんは子こども供の天てん性せいであるけれども、よく注ちゆ意いして教けう育いくすれば、子こども供はたやすく利り他た的てき
にすることが出来できる。私わたくしはキニフレッドが小ちひさい時ときから、色いろ々くな手て細さい工く品ひんなどを友とも達たち
に贈おくつたり、貧ましい家いへの子こども供に贈おくつたりすることを奨しょう勵れいして、慈じ善ぜんの精せい神しんを養や成せいした。
又また私わたくしの手て助すけけとなることからはじめて、他たにん人の爲ために働はたらくことを奨しょう勵れいした。

自じ重ちゆう心しんは品ひん性せいの基き礎そであつて、自じ重ちゆう心しんがなくなれば品ひん性せいは瓦が解かいする。人ひとが醉ずい漢かんになつ
たり、博ぼく徒とになつたり、乞こ食じきや盜たう賊ぞくになつたりするのは、自じ重ちゆう心しんを失うしなつた結けつ果くわである。
故ゆゑに親おやが子こども供の落おち度どをしばし並ならべ立たてることは、子こども供の自じ重ちゆう心しんを破は壊くわいする所以ゆゑであつ
て甚はなだ良よくない。他たにん人の前まへで子こども供の惡あく事じを發あはくことは特とくに惡わるい。他たにん人の前まへで子こども供の惡あく事じ
を發あはく親おやは、親おやと稱しめする値あたいのない親おやである。

私わたくしは主しゆ義ぎとして、決けつしてキニフレッドに體たい罰ばつを加くわへない。多おほくの母ははは逆さか上さうの餘あまり、
夢む中ちゆうで子こども供を毆なぐる。而しかして逆さか上さうが鎮しづまると、毆なぐつた所ところに接けつ吻くわんしたり、さすつたりする。

三四五

或はち菓子を與へたりする。かう云ふ教育では、子供は決して偉い人になることが出来ない。スペンサーは、子供の教育は母の教育を含んで居ると云つたが、母たるものは、子供を制御する前に、先づ自分を制御することを學ばなければならぬ。

ソロモンの箴言に、子供に鞭を加へなければ、子供を甘やかすに至ると云ふ意味の句がある爲か、我國の母はよく子供を打擲する。併しこれは子供を頑固にし、冷酷にし、残忍にするばかりである。或る時或る子供が、子犬を毆つて苦しめて居るから、「貴方はどうしてそんなに犬をいぢめるのですか」と云ふと、「チャンがあたいをどやすから、あたかも犬をどやすんだ」と云ふ答であつた。我國には、親に毆られて鼓膜を破られたなど、云ふ例はしばしばあるが、嘆ずべき事である。動物愛護會があつて、動物の虐待さへ禁ぜられて居るのに、子供を虐待してよい筈があるまい。

子供の悪行は、罪が親にあつて子供にない。子供が悪行に陥るのは、親が子供の精力を善い方に向けしないで、放任して置く結果である。子供の精力は何か有益な事に向けて、

早くから仕事に興味を有つやうにしなければならぬ。嘗てボストンの法廷で、或る悪漢が、自分は生れて以來、一日も働いたことがないと傲語したことがあつたが、罪人は必ず懶け者の成りの果てである。

或る知人が、子供が園の花を荒して仕方がないが、どうすればよからうと云ふから、私は、「それは御息に、鋤やシ、ベルを買つてやつて、自身に花作りをさせれば可い」と云つた。その人は直ちに私の忠言を實行したが、その結果は奇蹟的であつた。これは何故か。云ふまでもなく、今まで向け所のない子供が、花作りに向けられた爲である。

次ぎに私は、決してキニフレッドを叱らない。子供は叱らないで、道理を丁寧に話して聞かせる方が遙かに効がある。私は先頃、夕方或る貧民窟を通ると、母達がそつちでもこつちでも盛んに子供を叱つて居つて、優しい言葉は一言も聞かれなかつた。彼等は一日の勞働から疲れて歸つて来て、不氣嫌であるからその不愉快を、子供の上に打

ちまけるのであらうと考へて、實に氣の毒であつた。併し世にはかう云ふ母達と違つて、毎日する事もなく、何の不足もなく暮して居る人で、絶えず子供を叱つて、無聊から起る溜飲を下げて居る母がある。併し餘り叱れば、子供は小言に對して免疫になるのみならず、母の權威を認めなくなる。又た兩者の間が面白くなくなる。その結果子供の教育が失敗に終る。

一三

子供は甘やかしてもいけないが、叱り過ぎてはいけない。子供は寧ろ叱らないで、我々はこの世に於いて、自分のした事に對してそれ相應の報いを得るものだと言ふ鐵則を悟らせることが大切である。私はかう云ふ方針を以てキニフレッドを教育した。例へば彼女が善い事をすれば、翌朝枕許に旨い菓子などを置いて、これはお前が昨日善い事をしたから、仙女が来て置いて行つたのだと話して聞かせる。又た悪い事をすれば、何も置かないで、お前は昨日悪い事をしたから、昨夜は仙女が來なかつたのだと教へ

る。

彼女が着物を脱ぎつばなしにすれば、翌日までそれを構はないで置く。而して決して新しいのを出して着せない。毎晩リボンをたゝんで始末をすれば、時々仙女が来て新しいのを置いて呉れるが、さうでないと何時までも古いリボンをかけて居なければならぬ。又た人形を床の上に投げつばなしにして置くと、仙女がそれを隠してしまふ。その爲に彼女は、數日間それを以て遊ぶことが出来ない。

或る日キニフレッドは、大切な人形を芝生の上に投げつばなしにして置くと、飼犬がそれを噛んでしまつた。そこで彼女は泣き叫びながら、それを私のところに持つて來た。私は彼女を抱き上げて、誠にお氣の毒だと云つたが、新しいのを買つてやらうとは云はなかつた。たゞ「大切な人形を、芝生の上に投げつばなしにして置くなんて、残酷な事をしたのね。若し私がお前を野原に置いて來て、お前がその間に虎や獅子に食はれてしまつたならどうでせう。私はどんなに悲しいでせう」と云ふやうな事を述べただ

けであつた。

又た或る日彼女が、友達のところに行つて来て可いかと云ふから、行つて来て可い、併し十二時半までに必ず歸つて來いと命じてやつた。ところがその日はどうした事か、十二時半に歸らないで、十分ほど遅れて歸つた。私は何も云はないで、たゞ時計を指して見せた。キニフレッドは誠に悪かつたと謝罪した。次ぎに食事を済ますと、彼女は一生懸命で着物を着更へた。それはその日は火曜日で、我々は火曜日には、毎週良い芝居などに行くことにして居つたからである。併し私は再び時計を指して見せて、『今日は逆も時間までに行けませんから、今日はお芝居は駄目です。』と云つて聞かせた。彼女は涙を流した。私は誠にお氣の毒だと云つた。併しそれだけで別な手段を取らなかつた。今日は芝居は遅いから、活動寫真に行かうと云ふやうな事では何にもならない。かくの如くにして私は、私の云ふ事には決して掛け値がない、又た私の云ふ事は、凡てキニフレッドの爲になる事だけだと云ふことを彼女に知らせるやうにした。

私はキニフレッドの行状を進める爲に、彼女の行状表を作つた。これは一枚一週間で、服従、禮儀、寛大、親切、勇氣、忍耐、眞實、快活、清潔、勤勉、克己、勉學、善行の十三欄に分けてある。而してこれらの徳目に適つた行ひをすれば、その日の所に金星をつける。又たこれに反した行ひをすれば、その日の所に黒星をつける。而して土曜日毎に、その數を數へて見る。その結果金星が多ければ、それだけ次ぎの週に、本やリボンやお菓子を買ふことが出来る。併し黒星が多くて成績が悪ければ、これらの物を多く貰ふことが出来ない。

併しこの行状表は、土曜日に計算した後で捨て、しまふ。而して來週こそは、黒星を一つもなくして見せると云ふ勇氣と希望を起させる。この方が良いやうである。黒星が何時までも残つて居つては、却て子供を沮喪させる。

母たる者は、子供に對して一種の外交家でなければならぬ、子供でも大人でも、これをせよとか、それをするなとかと命令すれば、これに對して多小反感を抱くものである。

故にせよと云はないでさせ、するなと云はないでさせない方法を考へなければならぬ。
勉強せよと命令して、無理に勉強させても効果がない。故に勉強せよと命令するよりも、
子供が勉強するやうに仕向けなければならぬ。

母たる者は、子供の目に、母の權威を落さないやうに努めなければならぬ。或る母は、
は、餘り奇抜な服装をして居る爲に、道を歩いて居る時笑ひの的となる。又た或る母は、
無精でだらしない様子をして居る爲に、矢張笑ひの的となる。子供は自分の母が、外
の子供に笑はれるのを見ると非常に耻かしかる。のみならず、これは子供の心に非常に
悪い結果を齎らす。故に母たる者は、だらしない様子は勿論、餘り奇抜な服装はしな
い方がよい。母が子供の目に權威を落すことは、子供の教育を失敗に終らせる初めであ
る。

私の知人に、娘を女學校に入れて居る婦人があるが、この婦人は随分自分の生活を
切り縮めて娘に仕送りし、身分不相應に華美な服装をさせて居るが、娘は少しもこの婦

人を愛さない。而してこの娘は、或る時私に、「お母さんは嫌やな様子をして學校に訪
ねて來るので、私は耻かしくて堪りません。私は四歳の時から、お母さんの爲に常
に耻かしい思ひをして來ました」と云つた。母たる者はかう云ふ事ではいけない。或る
人はこの娘の無情を責めるかも知れないが、私は寧ろこれに同情する。この婦人は、
娘をハイカラな女學校に入れて教育して居るけれども、私はこの婦人は、母の義務に
不忠實な者だと思ふ。

前に云つたやうに、子供は親の謄寫であるから、母がだらしない様子をして居ると、
子供もだらしない子供になる。これは云ふまでもない事である。だらしない習慣は
しばしば一生付き纏ふ。その結果その人は非常な損をする。世にだらしない様子をし
て居る爲に、出世の機會を失ふ人が甚だ多い。故に様子も決して小事でない。

だらしない様子をして居ると、精神もだらしがなくなるに反して、端正な服装は我
々に端正な精神を與へる。故に服装は、贅澤に流れてはならないけれども、端正でなけ

ればならない。端正な服装は又た我々に自尊心を興へる。馬でさへ、立派な装束をさせた時と、見すばらしい装束をさせた時は、元氣が違ふ。立派な装束をさせた時は、頭を上げて得意であるが、見すばらしい装束をさせた時は、頭を下げて悄然として居る。馬でさへさうであるから、子供は更にさうであることを忘れてはならない。自尊心のない子供は決して偉い人にならない。

服装に關聯して注意すべき事は、子供に身體を清潔に保たせることである。子供には顔や手足は勿論、早くから齒を磨いたり、髪を梳つたりすることを教へなければならぬ。身體の清潔は、矢張子供に自尊心を起させる。

併し子供は、おしやれやおめかしに陥らせてはならない。子供のおしやれやおめかしも、原因は矢張母の手下にあるから、こゝにも警戒が必要である。人間は生きて居る以上、何もしないで居られないから、修養や子供の教育に興味を有たない婦人は、大抵おめかしの競争に没頭するが、これは子供の教育の爲に慎しまなければならぬ事である。

る。

序ながら私は、子供に姉や兄のお下りを着せることはよくないと思ふ。家庭に由つては止むを得ないであらうけれども、出来ることならこれは止めた方がよいと思ふ。子供の自尊心はかう云ふ事に由つて、驚くべく害されるものである。

私は、キニフレッドを、我々と一所に食事をさせて、一人前の人として取り扱ふ。又た食事の時の話は、彼女の分る話題を擇んで、對等に語り合ふ。或る家庭では食事の時に子供に話をさせない。甚だしきに至つては、食事の時でなくとも子供は小さくなつて居なければならぬ。これでは子供に自尊心も何も起る筈がない。

この外に子供に自尊心を起させるには、子供を信用することが必要である。大人でも子供でも、他人に信用されれば自重する。故に子供は、これをするなあれをするなと八釜しく云ふよりも、彼を信用して居ることを示して、丁寧に云ひ含める方が效がある。子供は悪者扱ひすれば悪者になる。

我國には、子供に善行を勧める爲に、彼等の頭に盛んに神の擲きや地獄の火の話をつめ込む習慣があるが、これは非常な誤りである。恐ろしい話などで驚かすと、子供はしばしばヒステリーになつたり、氣違ひになつたりする。恐怖は人間の天性であつて、さなきだに子供は暗などを恐れるものである。故に子供は恐ろしい話で驚かすどころか、世に恐ろしい物のないことを知らせなければならぬものである。子供は親を信頼して、親の云ふ事は何でも信ずるものであるから、親が少し注意すれば、暗などを決して恐れなくなる。子供を悪魔や幽霊で驚かすことは、非常な害がある。世にはかう云ふ間違つた教育の結果、一生氣の弱い臆病者で終る人が澤山ある。

又た世には、子供を御し易くする爲に、自分を態と恐ろしく思はせて居る親があるが、これも子供を臆病者にする結果に終る。かう云ふ親は、子供をこの世の失敗者にしつゝ、あるのである。何となれば臆病者は、この世の成功者たることは六かしいからである。

子供には臆病者の常套語なる、『出来ません』と云ふ言葉を云はせてはならない。『出来

ません』と云ふ言葉を用ひる子供は、決して偉い人になることが出来ない。子供にこの敢爲の精神を吹き込むには、矢張偉い人の忍耐の話を話して聞かせることが一番良い。或る時新しく来た女中が何も知らないで、キニフレッドが一週間かゝつてやつた佛蘭西語の練習を、捨て、しまつたことがあつた。その時彼女は非常に落膽して、『私は逆もこれを二度やる元氣がありません』と云ふ。そこで私は、出来事がカーライルのそれに似て居るので、直ちにその話をして聞かせた。即ち彼が數年間かゝつて書いた『佛蘭西革命史』の原稿を、女中がさう云ふ大切な物と知らないで、ストーブの焚きつけにしてしまつた。彼はこれを知つて非常に落膽したけれども、女中を叱りもせず、再び勇氣を鼓して書き直し、遂にあの大作を世に遺した。又たオーデューボン先生も、二十年間苦心して書いた鳥類の圖を、鼠に食はれてしまつたけれども、失望しないでそれを書き直した。こんな話は澤山あるが、子供の忍耐の精神を養ふに非常に良い。

多くの母は、子供を人形視し、これも出来まい、あれも出来まいと考へて、何も蟹も

してやる結果、多くの子供は自分の能力に對して自信を有つて居ない。モンテッソリ女史の教育法も、低能児の教育法から出ただけに、子供を人形扱ひする嫌ひがある。子供はモンテッソリ教具などを用ひなくとも、結構自分で上衣を着たり、靴を穿いたりするやうにすることが出来る。故にモンテッソリ教具などは買ふ必要がない。私はキニフレッドが赤兒の時から、氣長く立ちながら、彼女に私の着物のボタンをかけさせた。怪しい手つきでかけるのであるから、非常に時間がかかる。忙がしい時などは堪らなく時間がかかるけれども、こゝが子供の教育だと思つて辛棒してやらせた。

私がキニフレッドに、小さい時から私の着物のボタンなどをかけさせたのは、手の練習の外に、他人の手助けの觀念を興へる爲であつた。私は勿論彼女に、自分で靴を穿いたり着物を着たりすることを教へた。平生多忙な私であるから、私が手をかけて着せたり穿かせたりしてやる方が、時間がかゝらなくて良いけれども、こゝが子供の教育である。

又た世には子供を人形視して、ころんで怪我をするといけないからスケートをするな、溺れるといけないから泳ぎや漕ぎもするなと云ふ調子で、子供を箱入れにして置く親があるが、これは非常な誤りである。かう云ふ教育を施せば、子供は何も出来ない人になるばかりである。

子供の好奇心は、神が彼に知識を得させる爲に興へたものである。故に子供の質問には、必ず答へてやらなければならない。子供はうるさいほど色々な事を尋ねるから、一々これに答へることは成程厄介である。併し親たる者は、決して子供の質問を撃退したり、受け流したりしてはならない。

子供のことであるから、その尋ねる事はしばらく馬鹿らしい事に違ひない。併し考へて見れば、大人の知識も畢竟馬鹿らしいものに外ならないから、子供がどんな馬鹿らしい質問をしても、決してそれを嘲つてはならない。嘲らないで親切にそれに答へてやらなければならない。子供の質問を嘲ると、子供は耻かしかがつて質問しなくなる。質問は

子供が知識を取り入れる窓であるから、大にこれを利用して、その心に知識を入れてやらなければならぬ。自分の知らない事を尋ねられた時は、人に聞いたり研究したりして答へなければならぬ。

子供は決して欺いてはならない。子供を欺いて、後にそれが分ると、子供は親を信用しなくなる。親が子供の信用を失ふ結果は甚だ良くない。又た子供を欺くと、子供も欺きを感じる。或る父が、『僕の件は大政治家になるに違ひない、』と誇りがに云ふから、『何故ですか、』と尋ねると、『先日奴は母が戸棚にしまつて置いた肴を食べて、その残り、を猫の口許になすりつけて居つた、』と云ふ答へであつた。かう云ふ父は度すべからざる父と云はなければならぬ。その子供の欺きも、何れこの父から見真似聞き真似して覺えたものに違ひない。

又た子供はからかつてすれつからしにしてはならない。子供はからかふと、すれつからしになるのみならず、粗暴になり、意地悪くなり、人を人と思はなくなる。世には子

供の時、餘り親にからかはれた結果、罪人となつて牢獄に行く者が少くない。

次に家庭は、子供の樂園でなければならぬ。先頃もシカゴに不良少年團の大騒ぎがあつたが、不良少年は冷やかな家庭の産物である。併し家庭は子供の樂園でなければならぬと云ふことは、決して子供を放縱にせよと云ふことでない。家庭はどこまでも、禮儀と行儀を重んじて、子供が放縱に流れないやうにしなければならぬ。子供の躰けは、愛を以てすれば決して六かしい事でない。家庭は愛と喜びと笑ひの殿堂でなければならぬ。デイドローは、『人間の義務は世界を愉快な所にする事である、』と云つたが、私は、『母の義務は家庭を愉快な所にする事である、』と云ひたい。家庭は古歌にあるやうに、子供に取つて世界中最良の所でなければならぬ。

一四

健康のない生活は、大人にも子供にも呪ひである。健康がなければ、我等は自然の美も人工の美も楽しむことが出来ない。故に子供の健康の大切なことは云ふまでもない。

而して子供の健康に最も大切な物は、新鮮な空気と新鮮な水である。

乳児の食物には、云ふまでもなく乳に優る物が無い。故に母たる者は、乳の出ないものは例外であるが、さうでないものは必ず乳を飲ませなければならぬ。乳の出ない場合には、調理した牛乳が一番良い代用物である。

子供には水を澤山飲ませる方が良い。私はキニフレッドが四ヶ月の時から、乳を飲ませる前に蜜柑の汁を少しづつ、舐めさせた。更に暫く立つと、ソップ、ゆで卵、馬鈴薯等を與へ始めた。多くの子供は穀類を好むものである。而して穀類は子供に甚だ良い食物である。併しキニフレッドはこれを好まなかつたから、食物は好きな物が一番良いと云ふ信條から、好きな物だけ與へた。肉は二歳になるまで食はせなかつた。

獨逸に、「人の性格は食物に由る」と云ふ諺があるが、全く食物は人の性格に關係するやうである。近頃「菜食療法」と云ふものを唱へる人があるが、彼等は食物の撰擇に由つて、子供の性格をどうにでもすることが出来ることと云ふ。彼等の説に由れば、子供に

人參を食はせると、齒ときめが美しくなり、馬鈴薯を食はせると、推理の力が發達し、隠元豆を食はせると、美術の趣味が發達し、玉菜と花菜を食はせると、思想が俗で平凡になり、青豌豆を食はせると、輕卒になるやうである。故に數學の嫌ひな子供には、馬鈴薯を澤山食はせ、美術の趣味の足りない子供には、隠元豆を澤山食はせれば可い。又た厭きつばい子供と粗暴な子供には、それ／＼豌豆と玉菜が禁物だと云ふ。

菜食療法には學理的根據はないが、經驗に照して見ると、全くの放題とも云はれないやうである。例へば露西亞の農夫は、盛んに人參を食ふが、非常に美しい齒ときめを有つて居る。又た子供に、漬物やミンスパイや、生林檎やお菓子等を餘り食はせると、氣が變になる。

世には子供が泣くと、直ぐ何か食はせる母があるが、これは甚だよくない事である。子供には決して食物を不規則に與へてはならない。こんな事をするから、子供がよく死ぬのである。又た多くの母は、子供がねだる毎に食物を與へるが、こんな風であるから、

子供が成長して不節制な人となるのである。

凡て食ひ過ぎは、子供の健康を害するが、多くの母が與へる安キアンディは、特に子供の胃に害がある。蓋し安キアンディには、有毒な染料が用ひてあるからである。又た女の兒がよく噛むチウイングガムも良くない。

或る人は、「胃囊の如何は、人を或は樂天家とし、或は厭世家とする、」と云つたが、胃病は子供を憂鬱にし、不氣嫌にし、不幸にする。胃弱者は到底健康者の味は幸福を味はふことが出来ない。或る時佛蘭西のルイ十五世が散歩して居ると、乞食が近寄つて来て、「旦那様どうぞお助けを、」と手を出した。その時王は彼に若干の金を與へて、「腹の減つて居るお前が羨ましい、」と云つたと云ふことであるが、我々は子供をルイ十五世のやうにしてはならない。

不消化は大人をも不氣嫌にするが、特に子供を不氣嫌にする。胃囊の健全な子供は必ずおとなしいが、胃弱の子供は必ず親泣かせである。不消化を防ぐに一番良い方法は、

食事の時愉快に食ふことである。快活の必要は食事の時に限つた事でないけれども、食事の時は特に氣嫌好く食はなければならぬ。大に笑へ、さうすれば消化が好くなる。

諺に「朝起きは人を健康にし、金持ちにし、賢くする、」と云ふが、笑ひも人を健康にし、金持ちにし、賢くする。故に笑ひは富貴長生の秘訣である。

歴史を緋いて國家の興亡の跡を見るに、國家の衰亡は必ず國民の健康の減退に由る。國民の健康が減退した時は、富も文化も國家を支へることが出来ない。故に國家の隆盛に最も大切なものは國民の健康である。故に我々は力を盡して、健康の福音を宣傳する必要がある。國民の健康と云ふ事は、學校で教師が熱心に生徒に教へなければならぬ問題である。又た母たる者は、子供を健康に育てる爲に、本や講演から衛生學の知識を得ることを怠つてはならない。

人々はキニフレッドを見て、しばし「お嬢さんは天才にしては、餘り體格が良過ぎる、」と云ふ。彼等はまた「才子多病」と云ふ古い思想を信じて居ると見える。併しこれ

は何等の根據もない思想である。「健全なる精神は健全なる身體に宿る」と云ふ諺こそ根據のある思想である。

三六六

成程或る天才は確かに蒲柳の質であつた。併し天才と病弱は決して付き物でない。さう考へるのは非常な誤りである。彼等病弱な天才は、健康であつたならもつと偉い天才であつたのである。健康な天才はいくらもあつたが、エプスター、ブライアント、フランクリン、ヘンリー・ピーチャー、カルフィン、ピスマルク、ジェンニー・リンド、アデリナ・バッチ、サラ・ベルナル、ジュリア・ラード・ハウ、ジョン・エスリー、ルイザ・アルコット等は、單に健康なばかりでなく、堂々たる體格で非常な力持ちであつた。リンカーンなどは九百片の重さを持ち上げることが出来た。

キニフレッドの體格と健康は、しばらく人々に驚かれるが、左に私がキニフレッドに施した健康法を述べやう。

前にも云つたやうに、愉快は健康の鍵であるから、私は第一に、キニフレッドの周

圍を出るだけ氣持ち好くした。周圍を陰氣にすると、子供は必ず不消化や不健康になる。故に子供部屋は、初めから氣持ちの好い所にしなければならぬ。

キニフレッドは六週間の時、大きくて四ヶ月ぐらゐな子供に見えた。これは盛んに外氣に當て、よく運動させた爲である。運動と云ふのは、二三週間の時から彼女を滑らかな棒にぶら下らせたことである。謂はゆる「個體發生は系統發生の短き繰り返しなり」で、赤兒は猿のやうに棒にぶら下ることが出来るものである。勿論これは無理な事をしてはいけない。

天氣の好い日には、彼女を海邊に連れて行つて、緑の日傘の下で浪の打ち寄せるのを眺めさせた。私はキニフレッドの身體が、常に自由になるやうに注意した。例へば私は、手足を自由に動かすことが出来ないやうに、彼女を窮屈に巻いてしまふことはしなかつた。又た頸に襟巻などを巻いて、口や頬が歪むやうな風にしなかつた。天氣の好い日にはよく戸外で眠らせ、屋内で眠らせる時は、眞白な床の上に羽蒲團を敷いて、自由に

三六七

手を動かしたり、足で蹴つたりすることが出来るやうにして寝せた。何となればこれは赤兒の運動だからである。赤兒を人形のやうに、動きが取れないやうに巻いて寝せるのはよくない。

子供は入浴を嫌はないやうにしなければならぬ。子供は熱過ぎたりぬる過ぎたりする湯に入れると、入浴を嫌ふやうになるから、初めの中特に氣をつけて、温度を加減しなければならぬ。又た子供には、毎日幾度も手や顔を洗ふことを教へなければならぬ。キニフレッドは手や顔を洗つてやると、自分も人形の手や顔を洗つてやるのであつた。私はこの爲に、人形はゴム人形を擇び、着物が濡れないやうに、ゴム前垂を買つて與へた。私は又た彼女に、一歳の時から朝起きた時と夜寝る時に、齒を磨くことを教へた。堅パンなどを食はせた時は、その都度磨かさせた。又た早くからハンケチを用ひて、鼻の下を綺麗にして置くことを教へた。

私は又た早くから、キニフレッドに深呼吸と唱歌を教へた。これは共に子供の肺を

丈夫にする效がある。我々は又た毎日日課として、散歩をしたり球遊びのやうな遊戯をしたりする。子供は運動をさせないと、精力の捨て所に困つて悪戯をする。

子供が意地悪く、發音が不明瞭で、口を開いて眠る時は、醫者に見て貰はなければならぬ。これは大抵腺増殖の結果である(附録参照)。併し悪戯をしたり、物を毀したりする時は、大抵精力が良い方に向けられない結果であるから、運動や學問に向けてやらなければならぬ。

私はキニフレッドに、決して指を口に入れさせなかつた。これは初めの中よく注意して、入れさせないやうにすると、間もなく決して入れなくなる。故に彼女は、外の物は勿論口に入れなかつたけれども、私は彼女に危険な玩具は決して與へなかつた。

私は邸内に運動場を設けて、シーソーや滑り板や梯子を初めとして、色々な運動具を備へた。キニフレッドは三歳の時から乗馬を稽古したが、今もこの運動を一番好む。彼女は又た泳ぎもすればボート漕ぎもする。ベ이스ボールもすればテニスもする。木上

りもすれば山登りもする。アルテールは、「多忙は幸福の秘訣である」と云つたが、これは子供の場合にも眞であつて、する事の澤山ある子供は幸福である。

子供の心には、恐怖、心配、悲しみ、憎しみ、憤怒、不満足等の感情がはいらないやうにしなければならぬ。これらの感情は子供の神経に有害で、身心の虚弱を惹き起す。又たこれらの感情の爲に、子供が病氣になつたり、身體の發育が妨げられたりする。

或る科學者の説に由ると、人間の壽命は百五十歳ださうである。その説に曰はく、動物の壽命は、生れてから身體の發育が完成するまでの期間の五倍である。然るに人間の身體の發育は、三十歳になつて初めて完成する。故に人間の壽命は、三十歳の五倍即ち百五十歳である。併し人間の半數は、恐怖と心配の爲に、壽命の四分の一も生き存らへないと。

世には子供が寝る前に、一日の總勘定に彼を叱つたり鞭うつたりする母があるが、これは非常な誤りである。子供は顔に微笑を湛へながら夢の國に行かなければならない。

又た大人でも子供でも、喜びの希望を明日に繋いで夜床につき、喜びの希望を抱いて朝起きなければならぬ。これは長生の秘訣である。

一五

凡ての人は母に生を受け、母に育てられるものであるから、人類の運命は母の如何に由る。故に教育は母の改良から始まらなければならぬ。

傳記を見ると、偉い人の子には不肖の子が多い。これは何故か。遺傳の法則から考へれば、偉い親には偉い子がある筈なのに、偉い人の子に不肖の子が多いのは何故か。これは外でもない、偉い人は事業に熱心な餘り、妻の選擇を誤つた結果、彼等の妻は良い母でなかつた爲である。子供が偉い人になるならぬは、全く母の教育の如何に由る。多くの母は育児の知識を有つて居ない。故に私は、夜間小學校の校舍などを利用して、母達の間には育児の知識を普及する必要があると思ふ。併し母の教育と云ふ事は、既に泥繩的手段であるから、私は小學校の生徒に、早くも父となり母となる準備をさせ

なければならぬと思ふ。それは彼等に、身體を健全に、精神を純潔に保つことを教へることである。彼等は次代の親であるから、彼等には健康と道徳の知識は、数学や天文学の知識よりも大切である。成程天文学や物理学の知識は、研究して面白い。併し如何にして優秀な子孫を造るべきかの知識は、遙かに大切な知識である。

優秀な子孫を造ると云ふことは、個人の問題に止まらない。これは國家の大問題である。國家の如何はそれを組成する國民の如何に由るから、今日は何れの國家も、國民の品質の向上に留意し、優秀な子孫を造る人は、富の蓄積者や戦場の勇士に優ると考へて居る。即ち今日は、個人も國家も人種改良を信じて居る。

併し人種改良は、國民の體格や健康のみの問題でない。同時にその精神の問題である。人種改良學の創始者なるフランシス・ゴルトンは、斯學を定義して、國民の先天的性質を善化せしむる有らゆる影響と、これを極度に發達せしむる有らゆる影響を取り扱ふ學問と云つた。故に我々は、夫に擇ぶ男子の健康と品性に注意しなければならぬのみ

ならず、又た妊娠中胎兒が健全に發育するやうに食物を精選しなければならぬのみならず、彼に高い道徳と強い理性を遺傳するやうに、常に我々の頭を高尙な思想で養はなければならぬ。

多くの母は、胎教の大切なことを悟らない。彼等は子供の顔を見ない中は、その健康や幸福の責任を感じない。生理學者の云ふところに由れば、母の食物は胎兒の健康に非常に影響する。故に母たる者は、健康な子供を産む爲に食物の研究を怠つてはならない。世に乳兒に、漬物や海老を食はせたり、酒を飲ませたりする母があらうか。然るに世には、かう云ふ有害な食物を胎兒に食はせる母が澤山ある。それは云ふまでもなく、妊娠中かう云う有害な食物を食ふことである。

併し母たる者の考へなければならぬ事は、胎兒の健康ばかりでない。同時にその品性と智能を考へなければならぬ。妊娠中の母は、努めて快活に生活しなければならぬ。子供に涙の遺産を譲ることは罪惡である。妊娠中の母は泣いてばかり居つてはなら

ない。これは子供をこの世の弱者にする所以である。困難はこの世に於いて凡ての人の運命であるから、我々は氣力の剛健な子供を産まなければならぬ。

母たる者は、子供に剛健快活な精神の外に、美を愛し、正義を愛し、眞理を愛し、善を愛する精神を與へなければならぬ。その爲に妊娠中、善い本を読み、美しい思想に耽り、善い音楽を聞き、自然の美と美術に目を曝し、特に善い行ひに勵まなければならぬ。

生理學者の云ふところによれば、恐怖は心臓の活動を妨げ、腺の分泌を止め、乳を毒化し、髪を白くし、人を老いさせる。故に恐怖は悪魔と見て、近寄らせないやうにしなければならぬ。而して恐怖の悪魔除けには、勇氣と快活な精神に優るものがない。勇氣と快活な精神は、母に必要であるばかりでない。子供もこの甲胃で武装させ、同時に愛と智慧の盾と劍を與へなければならぬ。かうすれば、子供はこの世に出陣して、困難に負けたり失望に捕へられたりすることがない。

我國では、結婚の際非常な祭り騒ぎをするが、この風習は止めなければならぬと思ふ。近頃花嫁と花婿を、競つて舞踊會やブリヂ會や晚餐會に引つぱり廻すことが流行つて居るが、これは花婿には兎に角、花嫁には甚だよくない。先頃私の知人の娘が結婚して、一週間の中に十五ヶ所からブリヂ會に招待され、疲勞から起る頭痛を宥める爲に、その都度アスピリンを服用して出席したさうであるが、全く花嫁虐待である。花嫁と云ふものは、結婚前から訪問を受けたり、晚餐に招待されたり、非常に忙しい。結婚の當日は多忙やら氣苦勞やらで疲勞する。その後にはたゞしい新婚旅行が来る。次ぎは花婿方の親戚廻りであるが、これが又た氣苦勞で疲勞させることが夥しい。それから家に歸ると、慣れない世帯に苦勞する外に、諸方から舞踊會やブリヂ會に引つぱり尻になる。これが花嫁虐待でなくて何であらう。かくの如くにして多くの花嫁は、結婚の時早くも身心を害するが、その子供に及ぼす影響は恐るべきものである。

前大統領ローズベルト氏は、嘗て凡ての婦人は、出来るだけ多くの子供の母とならな

三七六
 ければならないと論じたが、これは非常な謬論である。子供に大切な事は、數でなくて質である。徒らに多くの子供を産むことは、この世に悲惨と養育院を増すばかりである。よく教育するどころか、養ふことも覺束なくて、多くの子供を産んだとて何になるか。先頃新聞に、オハイオ州で或る婦人が、二十人目の子供を産んだと云ふ記事があつたが、その婦人は往訪の新聞記者に、貧乏人子澤山の悲痛を泣いて語つたさうである。私けかう云ふ婦人は、無學な情慾の奴隷だと思ふ。單に多くの子供を産むと云ふ獸行爲に何の價値があらう。立派な子供を少なく産んで、それを立派な人に育て上げた方が遙かに優つて居る。手に餘るほどの子供を産んで、家庭を悲惨にすることは罪惡である。統計によれば、労働者が妻子を置き去りにして家出する原因の九割は、一日の労働に疲れて家に歸ると、今度は子供の世話で夜眠られない、それに養ふべき口が多くてやり切れないうゝ爲ださうである。

婦人は、母にならなければ天國の祝福を味はふことが出来ない。併し母たることには、

非常な困難が伴ふことを忘れてはならない。故にこの困難に打ち勝つ覺悟のない婦人は、母にならない方がよい。母は子供の教育に没頭しなければならぬと同時に、妻として夫に奉仕しなければならぬ。夫に對する義務が疎かになると、夫が誘惑にかゝつて家庭の破滅となる。故に母たることは決して樂な業でない。多くの母は、子供の教育を雇人に任せるが、かう云ふ婦人は母と云ふことが出来ない。母の義務は代理人の出来る事でない。子供の教育は必ず母が自らしなければならぬ。自分の子供を他人に任せるのは人間だけで、他の動物は決してかう云ふ事をしない。羅馬の滅亡は、羅馬の母達が子供の教育を他人に任せた結果であつた。今日も上流社會に無能者の多いのは、子供の教育を他人に任せる結果である。故に子供を自分の手で教育しない母は、國家を亡ぼしつゝある者と云はなければならぬ。我々は馬でさへ、乗馬の世話には滅多な馬丁を雇はない。然るに或る母は、子供を無學な乳母に任せて怪しまない。かう云ふ乳母は、これをするなあれをするなと、するな

するなを連發して、子供の能力を發達させるどころか、それを萎縮させてしまふ。何となれば彼女には、かうすることが一番世話がないからである。子供は又たかう云ふ乳母の下で、色々良くない癖や習慣を得る。成程裕福な母は、子供の世話を一から十まで自らする必要がない。或る部分は乳母を雇つてこれにさせても可い。併しその乳母には、出来るだけ高い報酬を拂つて、教育と品性のある婦人を雇はなければならぬ。併しそれでも、子供の教育は勿論、食事や入浴や衣服の世話は、母が自らしなければならぬ。母や乳母の性質は勿論、その表情さへ、驚くべき程度に子供に傳染するものであるから、乳母には快活な、にこ／＼した婦人を選ばなければならぬ。又た母も、努めて快活ににこ／＼して居なければならぬ。

でない。美は人を愉快にし幸福にする。而して愉快と幸福は人を美しくする。故に子供の周囲を美しくすることや、妊婦が美しい物を眺めることは、子供を美しくする効がある。

子供部屋には、空氣と日光のよきはいる、家中で一番良い室を選ばなければならぬ。壁は子供の目に穩かな緑にする方がよい。床は眞白にして、蒲團は上下共に羽蒲團の輕いのを用ひなければならぬ。毛布では重くて子供が疲れてしまふ。壁には名畫の摸寫を懸け、マンテルや卓子の上には有名な彫刻の摸造を並べて置く方がよい。これらの物は安く買ふことが出来る。

先頃雜誌 The New Statesman の記者が、近頃凡ての物がますます俗惡になる。特に婦人の服装に至つては殆ど狂的である。美はこの世から去りつゝあると論じたが、これには一理がある。この傾向を防ぐには、子供に早くから趣味の教育を施さなければならぬ。

三八〇
 スペンサーは、凡ての人が教育者でなければならぬと云つたが、少なくとも凡ての母が教育者でなければならぬ。教育は學校で教師が始むべきものでない、家庭で母が始むべきものである。而して子供が學校に行くやうになれば、母と教師が協力して教育しなければならぬ。

支那人は學校を設けた最初の國民である。然るにも拘はらず、彼等の文明があんなに後れたのは、彼等は婦人の教育の必要を悟らなかつた爲である。昔支那人は、婦人は教育すべきものでないと信じて居つた。その結果支那の婦人は大低無學であつて、家庭の教育が餘り行はれなかつた。母から教育を受けない國民は、決して偉大な國民となることが出来ない。併し支那は近年女子教育を興した結果、多少良い方に向ひつゝある。

フレイベルは、「國民の運命は、權力を握る者の手の中よりも母の手の中にある。故に我々は、人類の教育者なる母の啓發に努めなければならぬ」と云つたが、この意味をよく解する者の少ないのは誠に残念である。國民の運命を左右するものは全く母の手で

ある。自墮落な母は、自分の子供を牢獄や養育院に送りつゝあるのである。

結 語

一

以上述べた事から、早教育の必要なことは極めて明かであるが、予は最後に、幼い子供を有つて居る人の爲に、一二の注意を述べて本書を終らうと思ふ。

第一の注意は、學校に信頼し過ぎるなと云ふことである。今日の學校は、その設備と云ひ教育の方法と云ひ、誠に立派なものである。(而して將來心理學や教育學の進歩につれて、ますます立派なものとなるであらう。)その爲に人々は、學校を信頼し過ぎて、子供の教育は全然學校に任せて可いと考へ、家庭教育を怠る傾向があるが、これは大なる誤りである。教育の大切なことは第四章に述べた如くであるが、教育の中で最も大切な部分は、學齡以前の家庭教育であつて、學校教育でない。人々は、一方學校教育の價値を買ひかぶつて、一方家庭教育の價値を殆ど無視して居る。併し學校教育は、そんな

に効果のあるものでない。曰はく何主義教育、曰はく蟹主義教育、我々は近頃色々な教育主義の送迎に忙殺されて居る。而してその初めて唱道される時は、何れも効能の吹聴が極めて盛んであるが、さて實驗して見ると、何主義教育も大して違つた所がない。教育者は失望する。人々は教育者を無能呼ばはりする。そこでやれ教育主義がいけないの、やれ教育法が悪いの、やれ教育者の力が足りないのと、色々な議論が出る。併し事實は教育主義が悪いのでも、教育法が悪いのでも、教育者が悪いのでもない。勿論さう云ふ事も少しは關係する。併し學校教育と云ふものは、どんなに善い教育者が、どんなに善い教育主義に従つて、どんなに善い教育法を用ひても、大した効果の現はれるものでない。學校教育から大した効果を豫期するのが間違ひである。學校教育は旨くやれば、一中に入學する者を多くするぐらゐなことは出来やう。一高に入學する者を多くするぐらゐなことは出来やう。併しそれぐらゐが關の山であつて、どんなに旨くやつても、英才を造ることは出来ない、天才を造ることは出来ない。併し家庭教育は旨くやればこれが

出来る。人の運命は、殆ど學齡以前の境遇と教育の如何に由つて定まる。子供が學齡に達して學校に入學する頃は、その運命は大體定まつて居るのである。故に學齡出前の境遇と教育の悪い子供は、教育者がどんなに骨折つて教育しても、大した効果が現はれない。

試みに、少學校か中學校の授業を一時間覗いて見よ。後の方に居る出来る生徒は、教師が一度云へば直ぐ分つてしまふが、前の方に居る出来ない生徒は、數人にやらせて見せても中々分らない。一時間の大部分はこれらの出来ない生徒の爲に費される。詰り授業はこれらの出来ない生徒を標準に行はれるのである。故に後の方に居る出来る生徒は退屈で仕方がない。しばしば話をするな、後を見るなと叫ばれながら、一時間の大部分無爲無活動の修養をする。それが毎日毎時間、何年も續くのであるから堪らない。本書をこゝまで読んで来た諸君には、かう云ふ秩序的な無爲無活動の修養が、如何に子供の能力の發達を妨げるに有效であるかは明かであらう。これで大低な生徒は凡骨になつてしま

ふ。故に學校と云ふ所は、出来ない生徒には都合が悪いが、出来る生徒には氣の毒な所である。小學校では、『モシ〜龜よ』の歌を教へるが、龜と駈け比べをして晝寢をしない兎は少なからう。晝寢をする兎が悪いが、龜と駈け比べをさせる制度が悪いが。學校では兎に龜と足並を揃へて進むことを要求する。故に兎は退屈で堪らない。話をすると、後を見る、机を削る。元氣のある兎ほど惡戯をして叱られる。而しておとなしくなつて、叱られなくなつた時は、即ち長い無爲無活動の修養が效を奏して、能力が萎縮してしまつた時である。故に學校と云ふ所は、兎を龜にし、凡ての子供を凡骨にしなければ止まない所である。

併し予はかう云つても、決して學校を呪ふ者でない。世には教育の大切なことを知らない人が澤山ある。又た或る人は知つて居つても、自ら子供を教育しやうと思はない。學校はかう云ふ魚のやうに子供を産みつばなしにする人の爲に必要である。併し子供をよく教育して、英才に育て上げやうと思ふ人には、極めて不完全な所で、到底頼ること

の出来ない所である。故に予はさう云ふ人に、學校を信頼し過ぎるなと忠告する。

ルソアの『エミール』には、五歳から十二歳までを體育の時代とし、十二歳から十五歳までを知育の時代とし、十五歳から二十歳までを徳育の時代として、子供は十二歳までは、知育を施す必要がないと論じてあるが、世にこんな無茶な議論がない。宛で五歳から十二歳まではお汁の時代、十二歳から十五歳までは御飯の時代、十五歳から二十歳まではおかずの時代、子供は十二歳までは御飯を食はせる必要がないと云ふやうなものである。ルソアはかう云ふ教育に由つて、エミールを天晴立派な人に育て上げたと書いて居るが、こんな教育を施せば、子供は間違ひなく低能な不良少年になる。ルソアの議論は馱法螺に過ぎない。一體ルソアは口先だけで、實行の伴はない人であつた。彼は『エミール』を書いて教育を論じたけれども、自分の子供を一人も自分の手で育てず、凡て養育院に送つた。こんな人は教育を論ずる資格がない。併し馱法螺と云ふものは昔から面白いもので、『エミール』はよく讀まれる本であるから、予は序にルソアの馱法螺を信

するなと忠告する。

近頃我國の小學校では、入學前家庭で教育を受けた子供を喜ばない風がある。家庭の方に、子供の教育は全然學校に任せて可いと考へる傾向があるのに持つて來て、學校で入學前家庭で教育を受けた子供を喜ばないと來ては、我國の學校はますます立派な凡骨製造所となつてしまふであらう。我國でも學校の盛んでなかつた昔は、心ある人は家庭教育を重んじて、随分早くから教育を受けた子供もあつたのである。例へば中村敬宇先生は、三歳で四書の素讀が出來た。頼山陽は十三歳で立派な漢詩を作り、柴野栗山を驚かした。山鹿素行の自叙傳『配所殘筆』を見ると、

『六歳より親申し付け候ふて、學問仕らせられ候へども、無器用に候ふて、漸く八歳の頃までに、四書五經七書詩文の書大方讀み覺え候ふ。(中略)十一歳の春、歲旦の詩を初めて作り候ふて、道春へ見せ候へば、一字改め申され候ふて、則ち序文を書き、幼少の述作別けて感じ入り候ふ由の書狀これに副へられ、和韻仕られ候ふ。』

とある。近藤芳樹の『大江匡房卿傳』には、

『四歳の春書を読み始めて、その後日夜怠らず勉め學び給ひしかば、夙く八歳にて史記漢書に通じ給へり。十一歳の時父の朝臣に従ひて、土御門右府師房の御亭へ参り給へて、この春より詩を作り侍るなりと申させ給へけるを、右府疑ひて試みんとおぼしめして、雪裏見松貞と云ふ題を出し作らせられけるに、抄物切韻も具し給はざりしかど、筆を染めてその儘書き進らせ給へければ、誠に珍らしき事なりとて、この詩を参内の序に帝の御覽に入れ給ひければ、御感ありて學問料を賜はり給ひけり。』

とある。又た貝原益軒の『太宰府天満宮故實』には、
『齊衡二年菅公御年十一、春宵快く霽れて梅月妍を争ふ折節、相公島田忠臣をして試みに問はしめて、詩料前に充てり、兒よく詩を作りてんやと仰せけるに、菅公やがて月夜の即事一首作りて進らせられける。』

月耀如晴雪、梅花似照星。

可憐金鏡轉、庭上玉芳馨。

相公見給へて、世に比なきものにいといたうめで聞こえさせ給ふ。』
とある。然るに學校教育の進歩につれて、學齡以前に子供を教育する人がなくなるなら、我國は凡骨國となつてしまふであらう。願はくは我國を凡骨國としたりたくないものである。

二

第二の注意は、稟賦萬能論を信ずるなど云ふことである。サイデイス博士は、幼兒は燒物の粘土に等しく、教育の如何によつて何にでもなると云つて居るが、これは殆ど文字通りに真である。子供は早くからさへそのやうに教育すれば、音樂者にも畫工にでも、詩人にも學者にでも、何にでもすることが出来る。先頃或る新聞に、音樂者○○○子氏のことか書いてあつた。予は○○氏が、音樂者としてどのくらゐな大家であるか知らないが、その記事を面白く讀んだ。その一節にかうあつた。

「○子は今から二十四年前、○○町に生れた。五つの年父を失つてから、○○で貿易商を営んで居る實兄○○氏の許に引き取られた。○○氏の夫人○○は獨逸婦人で、○子がまだ生れぬ前から日本に来て居た。人種こそ違へ、優しいその心を愛した日本の父は、枕の上から○子の行末を頼んで死んだ。嫂は○子がまだベタルに足の届かぬ入つの年からピアノを教へた。或る時は優しく、或る時は厳しく、遊び仲間の娘達が、高らかに笑ひ興じて戸外を飛び廻つて居る間に、未來の天才は泣きながら鍵盤に齧りついて居た。」

本人は何と云ふか知らないが、予は○○氏が今日の○○氏になつたのは、八歳と云ふ比較的幼い時から、一生懸命にピアノをやらせられた爲だと信ずる。而して氏が若し二三歳の頃からピアノを始めたなら、まだ偉い音楽者になつたらうと思ふ。而してピアノの稽古にも「泣きながら鍵盤に齧りついて居る」必要がなかつたらうと思ふ。併し兎に角○○氏は、嫂○○夫人に感謝しなければならぬ。

併し或る人はかう云ふかも知れない。「音楽者には鋭敏な耳が必要である。鋭敏な耳を有つて居ない者は、如何に早くから音楽を教へても駄目である。而して鋭敏な耳は牛れつきであるから、汝の説は信ずることが出来ない。」と。

予はさう信じない。鋭敏な耳を有つて居るとか有つて居ないとかと云ふことは、大人か子供が大きくなつてからだけ云ひ得る事である。二三歳の時からさへ訓練すれば、子供の耳は鋭敏にでもどうにでもなる。心理學者の云ふ視覚型とか聴覚型とか云ふ事も、後天的なものであつて決して先天的なものでない。西洋では音楽者が三代續かなければ、大音楽者が出ないと云ふが、これを遺傳に由つてのみ説明しようとするのは斷じて誤りである。モツァルトの例などを見ても、彼があゝ云ふ大音楽者になつたのは、音楽の空氣に充ちた家庭に生れた爲に、早くから音楽に親しんだ結果である。

ミケランジェロは、生れて間もなく田舎に里子にやられたが、乳母は石工の妻であつた。彼は後年、自分はこの家で、乳母の乳を飲んだばかりでなく、小槌と鑿に對する嗜

好を吸ひ込んだと云つて居る。予は彼が大彫刻家になつた原因をこゝに求める。併し彼の家は名門であつたので、彼の父もヘンデルの父のやうに、彼が彫刻者風情になることは極力反對した。併しこれも、彼の熱中の火が燃え盛つた後の事で、もう消し止めることが出来なかつた。

リンネの家は湖水の畔にあつて、周圍には花野もあれば森林もある、鳥も啼いて居れば魚も遊いで居ると云ふ風であつた。彼が大博物學者になつたのは、かう云ふ環境の中に生ひ立つた爲である。こんな例はいくらでも擧げることが出来る。

兎に角幼兒は燒物の粘土のやうなもので、境遇と教育の如何に由つて何にでもなる。音樂者を造ることなどは最もたやすい。二三歳の時からさへ音樂を教へれば可いのである。併しストーリーナー夫人も云つて居るやうに、人間は圓滿に發達した、よく釣り合ひの取れた人にならなければ、眞に幸福な人となることが出来ない。故に予は子供を、音樂者だけの人や書工だけの人に育て上げることは、決して彼を幸福な人にする所以でない

と思ふ。人間はかう云ふ大きい脳髓を有つて居るのであるから、我々は子供を育てる際、音樂者にするにも畫工にするにも、先づこの脳髓を發達させなければならぬ。同時にその體育と徳育に注意しなければならぬ。

併し理想を云へば、子供は音樂者にしようとか、畫工にしようとかと云つて教育すべきものでないと思ふ。ギッテの父がギッテを育てたやうに、先づ圓滿な人に育て上げることを目的として、學者になるとか政治家になるとか、發明家になるとか事業家になるとかと云ふことは、當人の選擇に任すべきものだと思ふ。

諸君は世間を見渡して、名士や學者の子が必ずしも偉い人にならないことに氣づくであらう。嘗て或る學校で、數人の教員が爐傍會議で、博士や名士の子は一般に成績が悪いと斷定を下したとさへあつた。勿論これは正しい斷定でない。のみならず、或る子供が偉い人になるかならないかは、學校の成績などで分るものでない。併し偉い人の子が必ずしも偉い人にならないことは事實である。世にその例が甚だ多い。これは何故か。

曰はく、才能の問題は遺傳の問題よりは寧ろ發達の問題だからである。博士の子でも名士の子でも、幼年時代の家庭教育を疎かにすれば、必ず凡骨にきりならない。これに反して凡人の子でも、幼年時代によく教育すれば必ず偉い人になる。

予は決して遺傳の大切なことを否認する者でない。併し遺傳は子供の運命に對して、決して今日多くの人が考へて居るほど強い決定力を有つて居るものでない。本書を讀む人は、予と同じく大抵凡人であらうと思ふが、予は諸君に警告する。曰はく、「諸君失望すること勿れ、遺傳の萬能を信ずること勿れ、諸君の子も又た偉人となる可能性を有することを信じて疑ふこと勿れ」と。併し身心共に健全な子供でなければ、どんな教育を施しても駄目であるから、身心共に健全な子供を儲けることに努めなければならない。人種改良の大切な理由は主にこゝにある。

三

第三の注意は、子供を人形扱ひするなと云ふことである。多くの人は、子供を人形よ

り少し優しものぐらゐに考へて、その能力を不當に過小視して居る。併しこれは間違つて居る。子供は決してそんなものではない。三四歳の子供に、巧みに物を教へて見よ。實に驚くべき受容力を示すものである。尤も三四歳の子供に物を教へるには、好く工夫して教へなければならぬ。大きい子供に教へるやうなつもりで教へては駄目である。然るに世に、幼児に物を教へるに、幾分でも工夫を凝らして教へる親は幾人あらう。それで子供を、人形より少し優しものぐらゐに考へて居るのであるから話にならない。我國では、子供の能力を過小視して居るのは普通の人ばかりでない。一般にさうである。一例として、我國の小學校が如何に程度が低いかを見よ。世界中に、我國の小學校がらゐ程度の低い小學校がない。予はこれを、低能的と云ふより外に言葉を知らない。我國の國字が、漢字と云ふ厄介極まる文字であるにしても、我國の小學校は餘り程度が低過ぎる。全く低能的である。

一體學校と云ふものは、工業に於ける機械方式を教育に應用したものである。即ち僅